

Dell™ PowerVault™ 124T DLT VS160 オートローダユーザーズガイド

[はじめに](#)

[オートローダのインストール](#)

[オートローダの操作](#)

[リモート管理ユニット](#)

[オートローダ管理](#)

[診断](#)


[トラブルシューティング](#)

[技術仕様](#)

[ヘルプの概要](#)

[デルへのお問い合わせ](#)

注、通知、注意

 **注**：システムを活用する上で重要な情報を表します。

 **通知**：ハードウェアの損傷かデータ消失のいずれかの可能性があることを表し、問題を防ぐ方法を示します。

 **警告**：「警告」とは物的損害、ケガまたは死亡事故の可能性を表します。

本ドキュメントに記載されている情報は予告なしに変更されることがあります。

© 2005-2007 Dell Inc. All rights reserved.

デルの書面による許可のない複製は、いかなる形態でも固く禁じます。

このテキストで使用される商標：Dell、Dell ロゴ、PowerVault、Dimension、Inspiron、OptiPlex、Latitude、Dell Precision、PowerApp、PowerEdge、PowerConnect、および DellNet は Dell Inc. の商標です。Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows Server は Microsoft Corporation の登録商標です。DLTtape は Quantum Corporation の登録商標です。Adobe は、Adobe Systems の米国およびその他の国における登録商標または商標です。RedHat は Red Hat, Inc の登録商標です。Mozilla および Firefox は Mozilla の商標です。

商標および名前またはその製品を自社のものとする事業体のいずれかに言及する目的で、他の商標および商号が本ドキュメントで使用されていることがあります。Dell Inc. は弊社の商標および商号以外の所有権に対する権利を放棄します。

初版発行：2005 年 6 月 15 日

改訂：2007 年 2 月

[目次ページに戻る](#)

はじめに：Dell™ PowerVault™ 124T DLT VS160 オートローダユーザーズガイド

概要

データのバックアップは交換が効かない情報を守る上で極めて重要です。磁気テープへデータをバックアップしておくのは手軽でコスト効率のよい手段であるため、多くの中小企業が利用しています。しかし大企業の場合、ほとんどが一本のバックアップテープには納まらないほど大量にデータを持ち、その情報を多数のテープに拡散せざるをえないのが現状です。テープを手動で交換する必要があるように、多くのテープバックアップソリューションには、PowerVault 124T DLT VS160 オートローダが組み込まれています。

オートローダは、1つのロボット、1つのテープドライブ、およびテープカートリッジ用の1つまたは2つのマガジンで構成されるデバイスです。ユーザーのアプリケーションは、データバックアップまたはデータ取得のため必要に応じて自動的にテープカートリッジをロード/アンロードすることができます。Dell PowerVault 124T DLT VS160 オートローダは、コンパクトで大容量でありながら、低コストで手軽な無人データバックアップ手段となります。

PowerVault 124T DLT VS160 には、Quantum DLT VS160 テープドライブおよび1つまたは2つのマガジンが内蔵されていて、各マガジンには、最大8個のカートリッジを収納できます。ユーザーは、パスワードで保護されたメディアドア(メールスロット)から単体のカートリッジを直接挿入できます。ユーザーは、メディアドア(メールスロット)からテープドライブまたはマガジンスロットにカートリッジを挿入することができます(前者はドライブ内、後者はスロット内にカートリッジがすでに挿入されていない場合)。

オートローダの前面パネルには、LCD (Liquid Crystal Display) スクリーンと四つの機能キーがあります。ユーザーは、LCD スクリーン上のスクロールメニューを使用して、オートローダからの情報取得やコマンド入力を行うことができます。前面パネルには、LED (Light Emitting Diodes) が2台あり、オートローダの準備完了ステータスやエラーステータスが示されます。

PowerVault 124T DLT VS160 をユーザーのホストサーバーにSCSI接続すると、ホストから自動的にデータやコマンドを送信することができます。また、ユニットをイーサネットに接続すると、管理機能やシステム更新のダウンロードを実行することもできます。

オートローダは、SCSI-3に対応し、シングルSCSI ID/2 LUN データストレージデバイスとして機能して、2560 GBの圧縮容量、および28.8 GB/時間(ネイティブ)または最高57.6 GB/時間(2:1の圧縮比)の継続データ転送速度を提供します。

オートローダは、ほとんどのオペレーティングシステムとUltra 160 SCSI または Ultra 320 SCSI LVD インターフェイスをサポートする環境に互換性を持ちますが、多くの機能を完全に利用するにはオペレーティングシステムからの直接サポートか、互換のあるバックアップアプリケーションが必要です。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

オートローダのインストール：Dell™ PowerVault™ 124T LTO-3 オートローダユーザーズガイド

- [インストールの概要](#)
- [インストールの準備](#)
- [SCSI バスの要件](#)
- [付属品](#)
- [場所の選択](#)
- [UL 要件](#)
- [バーコードリーダー](#)
- [製品の概要](#)
- [オートローダの開梱](#)
- [製品コンポーネントの確認](#)
- [SCSI および電源ケーブルの接続](#)
- [ホストの準備とその接続の検証](#)
- [デバイスドライバのインストール](#)
- [Linux 上で LUN サポートを有効にする](#)
- [Netware 上で LUN サポートを有効にする](#)

インストールの概要

オートローダのインストールは次の手順からなります。詳細については、後ほどこのセクションで説明いたします。

- 新しい Dell PowerVault 124T LTO-3 オートローダのインストールの準備をします (「[インストールの準備](#)」を参照)。
- 適切な SCSI バスの種類を識別します (「[SCSI バス要件](#)」を参照)。
- オートローダの付属品を確認しておきます (「[付属品](#)」を参照)。
- オートローダをホスト サーバー付近のコンピュータ ラックに取り付けます。ラック マウント ユニットに取り付ける場合は、ラックの『インストールガイド』をご参照ください。
- サーバーおよびサーバーに接続しているすべてのデバイスをシャットダウンするか電源を切ります (「[SCSI と電源ケーブルの接続](#)」を参照)。
- SCSI ケーブルをオートローダとサーバーの SCSI ホストアダプタに接続します (「[SCSI と電源ケーブルの接続](#)」を参照)。
- 電源ケーブルをオートローダに接続し、電源ケーブルを近くの電源コンセントにつなぎます (「[SCSI と電源ケーブルの接続](#)」を参照)。オートローダの電源をオンにし、電源投入時の自己診断テスト (POST) にパスすることを確認します。
- オートローダの SCSI ID を設定します (「[SCSI ID の設定](#)」を参照)。
- ホストをセットアップし、接続を確認します (「[ホストの準備と接続の確認](#)」を参照)。

インストールの準備

Dell PowerVault 124T LTO-3 オートローダを設置するときは、その前に本体を梱包から慎重に取り出し、運送中に損傷などを受けていないか確認します。パッケージに添付される『スタートアップガイド』には、オートローダを正しく開梱して点検するために必要な情報が記載されています。『スタートアップガイド』の手順に従ってください。

作業を行うときは、その場所から静電気放電 (ESD) の要因となる条件をすべて取り除いておいてください。身体の静電気については、コン

コンピュータの金属製シャーシなど、接地が確認されている面に触れて放電しておいてください。


SCSI バスの要件


Dell PowerVault 124T LTO-3 オートローダを以下の SCSI バスの 1 つに接続する必要があります。

- Ultra 160 SCSI、低電圧ディファレンシャル (LVD)
- Ultra 320 SCSI、低電圧ディファレンシャル (LVD)
- シングルエンド (SE) SCSI バス

 注：Dell PowerVault 124T LTO-3 オートローダは高電圧ディファレンシャル (HVD) SCSI バスとの互換性はありません。

SCSI ホスト アダプタ カードは、このオートローダの接続に用いる SCSI バス種別にも対応していることが必要です。LVD SCSI バスの使用時は、高密 (HD) 68 ピン ケーブル接続のあるホスト アダプタ カードを使用します。

 注：シングルエンド (SE) SCSI バスを使用する場合は、テープドライブの性能は、このバスのデータ転送速度の最高に限定されます。

 注：SCSI バス 1 つがサポートするオートローダ数は最大 2 台です。

 注：RAID コントローラに接続すると、オートローダが複数の SCSI LUNS と連動しない可能性があります。オートローダを RAID コントローラとともに使用することは推奨できません。この問題が発生したら、オートローダをサーバー上の別の SCSI バス コントローラに取り付けることをお勧めします。

付属品

Dell PowerVault 124T LTO-3 オートローダには以下のアクセサリが同梱されています。

- 『スタートアップガイド』
 - SCSI ホスト ケーブル
 - SCSI ターミネータ
 - オートローダ ラック マウント用の金具 (オートローダ レール付属、ラック レールはオプション)
 - マガジンブランク 1 台
 - 電源ケーブル
 - Adobe® PDF (Portable Document Format) 形式文書 (全種) と添付デバイス ドライバが入った文書 CD
 - バーコードラベル
 - TORX L-key ドライバ (T8 および T10)
 - 緊急マガジン取り外しツール
-

場所の選択

以下の基準を満たす場所を選びます (「[技術仕様](#)」を参照)。

 通知：オートローダを横向きや逆さに置かないでください。オートローダの上には物を置かないでください。

 注：オートローダの近くにある AC コンセントを使用します。AC 電源ケーブルは、製品本体から切り離される主要 AC デバイスです。常にすぐ手の届く場所に保管してください。


ラックの要件
2U 間隔の標準 19 インチ ラック

室温 10 ～ 35 °C

電源 AC 電圧：100 ～ 127 VAC 用：200 ～ 240 VAC 用
回線周波数：50 ～ 60 Hz

重量 14.1 kg (31 ポンド) 本体のみ
17.2 kg (38 ポンド) (マガジン 2 台とカートリッジ 16 本)

空気 微粒子などの汚染要因を最小限に抑えること。ドアの開け閉めや人通りの多い場所、エアコン空気の出口や排気口、ほこりがたまり
の清 易い物品の保管場所、プリンタ、煙が充満する場所、これらの付近は避けること。床上やその付近、またはカーペットの部屋には置
浄性 かないでください。

 通知：埃や屑が多い場所では、テープやテープドライブが損傷を負う可能性があります。

湿度 20 ～ 80 % RH (結露がないこと)

間隔 背面：43.2 cm (17 インチ) 以上
前面：68.6 cm (27 インチ) 以上
側面：5.08 cm (2 インチ) 以上

UL 要件

運転環境 密封型またはマルチユニットラックアセンブリに取り付けている場合、ラック内の運転環境温度が室温以上になる可能性があ
温度の上 ります。機器を設置する際は、その環境が製造元の推奨環境温度の限度に適合しているかどうかを考慮に入れる必要がありま
昇 す。

換気状態 ラックに機器を設置する際は、その機器が安全に作動するために十分な換気が行われていることが必要です。
の劣化

機械的 ラックへ機器の取り付けるときは、均等でない機械的ロードによって危険な状態を起こさないように行う必要があります。
ロード

回路過負 機器の接続においては、供給回路への機器の接続および過電流保護や供給配線に回路過負荷がかかったときの影響に注意が必要
荷 です。この問題に対応するためには、機器の銘板の定格について適切に考慮する必要があります。

確実な ラックマウント機器については確実なアース取り付けが必要です。電源コードの使用など、分岐回路への直接接続以外の供給
アース 接続には特に注意を要します。
(接地)

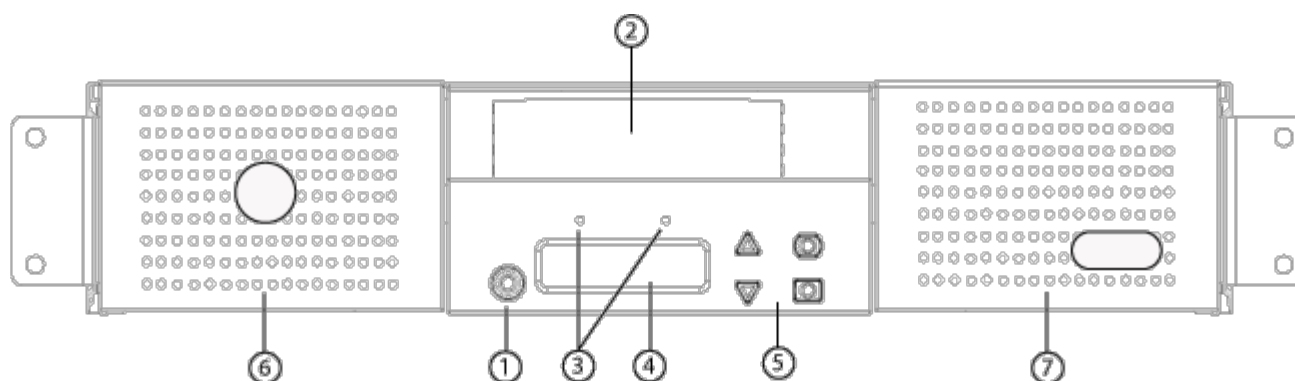
バーコードリーダー

オートローダにはバーコードリーダーが装備されています。バーコードリーダーは、オートローダ本体内部に格納されていて、電源投入時、リセット後、インポートまたはエクスポート後、または **re-inventory** コマンドの発行時(「[インベントリの実行](#)」)に、マガジン内の各カートリッジを自動的にスキャンします。各ラベルの情報はメモリに格納され、コンピュータのオペレーティングシステムやバックアップアプリケーションの要求時に **SCSI** およびリモート管理ユニットを通して使用できます。バーコードリーダーはオペレータ コントロールパネルまたは **Web** ユーザー インターフェイスを使って無効にできます。この機能を使うと、カートリッジにバーコード ラベル以外のものが使用されていたり、ラベルが使用されていない場合に、初期化を短縮できます。

バーコードリーダーを利用する場合は、バーコードラベルを各カートリッジの前面にあるスロットに挿入する必要があります。このラベルは **ANSI/AIM BC1 -1995 Uniform Symbology Specification Code 39** に適合する必要があります。バーコードラベルのセットはあらかじめオートローダに含まれています。バーコードラベルの入手については、www.dell.com を参照してください。

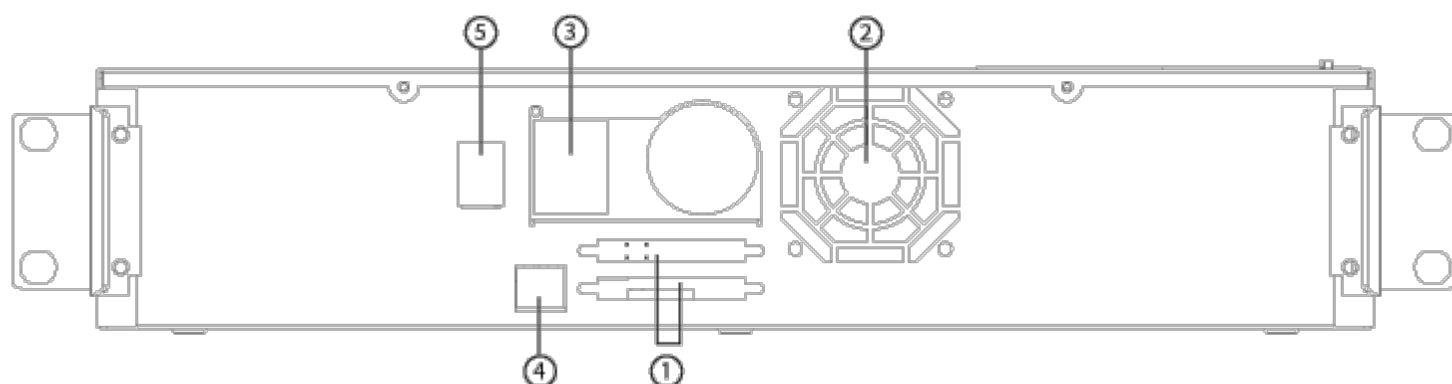
製品の概要

前面パネルのコントロール




- 1 電源スイッチ
- 2 メディア ドア (メールスロット)
- 3 前面パネルの **LED**
- 4 前面パネルの **LCD** スクリーン
- 5 機能キー
- 6 左マガジン
- 7 右側マガジン (またはブランク)

後方パネルの概要




- 1 68 ピン **HD SCSI** コネクタ

- 2 ファン通気孔
- 3 電源コネクタ
- 4 イーサネットコネクタ
- 5 電源スイッチ

 注：カバーを外す必要がある場合は、取り外すネジが **26** 本、レール ボルトが **6** 本あります。カバーの取り外しは、資格を持ったデル サービス プロバイダのみが行ってください。

オートローダの開梱

作業を始める前に、オートローダの開梱が行えるよう、机やテーブルの上からものをなくします。オートローダをホスト制御するサーバー付近に、**2U** コンピュータ ラックのために空いている場所を選択しておく必要があります。

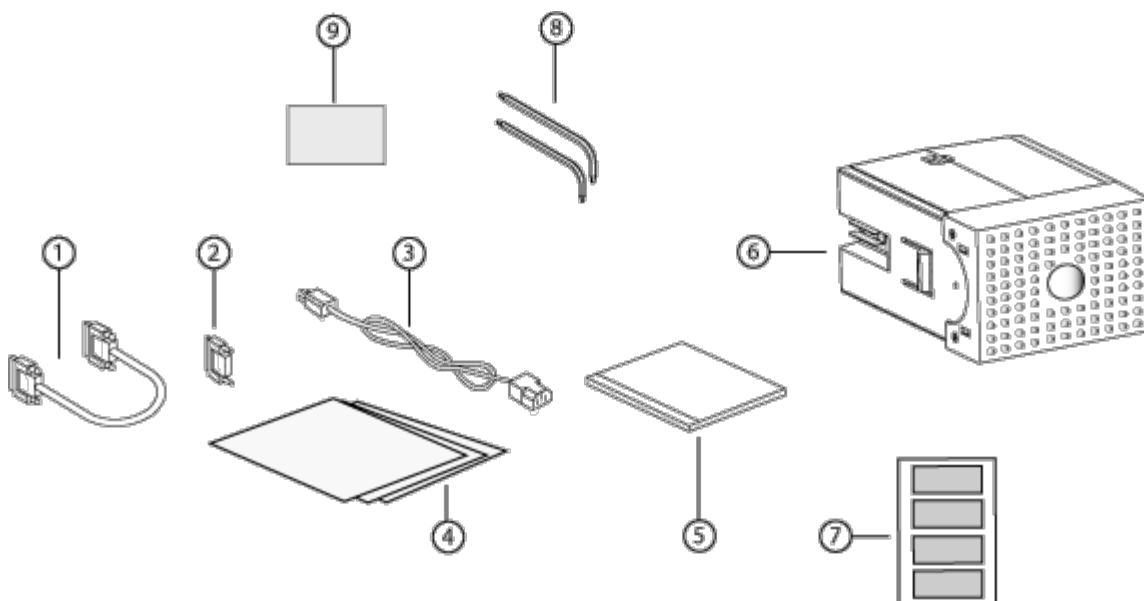
 通知：作業場の温度が、オートローダの出荷場所や保管場所と **15°C (30°F)** 以上の差がある場合は、箱を開く前に少なくとも **12 時間** オートローダを放置して周りの環境になじませてください。

オートローダを開梱し、輸送中に損傷などを受けていないかどうか以下の要領で点検します。

- テーブルや机の上のものをなくして、オートローダを開梱するためのスペースを設けます。
- 輸送用の箱に損傷がないかどうか点検します。何か損傷を見つけたら、すぐに運送業者へ連絡します。
- 輸送用の箱を開け、付属品のパッケージを取り出します。付属品パッケージはひとまず横に置いておきます。
- オートローダと梱包材を持ち上げながら箱から取り出し、上部が上を向くようにして作業場所に置きます。オートローダの後部や側面が作業面に付くような置き方はしないこと。
- オートローダの前後の輸送用梱包材を慎重に取り外します。オートローダにかけられた袋を取り外します。梱包材料は将来オートローダの移動や輸送が必要となったときのために保管しておきます。箱のフラップの図には、梱包材料の正しい配置が示してあります。

製品コンポーネントの確認

付属品

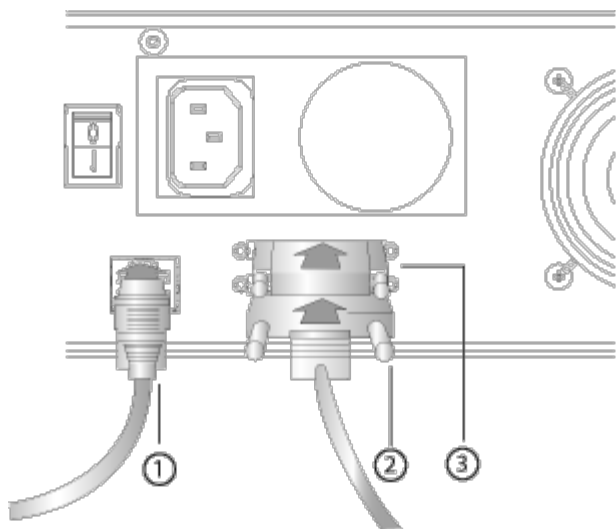


- 1 SCSI ケーブル
- 2 SCSI ターミネータ
- 3 電源ケーブル
- 4 『スタートアップガイド』
- 5 CD (ドライバと文書)
- 6 マガジン ブランク
- 7 バーコードラベル
- 8 **TORX L-key** ドライバ (**T8** および **T10**)
- 9 緊急マガジン取り外しツール

SCSI および電源ケーブルの接続

SCSI および電源ケーブルをオートローダに接続するときは、次の手順に従います。

- 選択したサーバーをシャットダウンし、電源を切ります。プリンタやその他の SCSI デバイスなど、取り付けられた付属デバイスの電源をすべて切ります。
- SCSI ケーブル (付属品キットに含まれる) の一方の端をオートローダの後方パネルのコネクタの 1 つに取り付けます。
- SCSI ケーブルの反対側の端を SCSI ホストアダプタのコネクタか、その SCSI バス上に以前からあるデバイスのコネクタに取り付けます。
添付の SCSI ケーブルが SCSI ホストアダプタのコネクタにささらない場合、その SCSI ホストアダプタが非互換のものであるか、または別途ケーブルアダプタを購入する必要があります。詳細については、サービス担当員か、ご使用の SCSI ホストアダプタの製造元までお問い合わせください。



- 1 イーサネットケーブル
- 2 SCSI ケーブル
- 3 SCSI ターミネータ

- オートローダ後方パネルにある残りの SCSI コネクタにターミネータを取り付けます (このオートローダが終端である場合、または SCSI バス上で唯一のデバイスである場合)。それ以外の場合は、ケーブルを SCSI バス上の次のデバイスに取り付けます。SCSI バス上の最後のデバイスには必ず終端処理を行ってください。
- 電源ケーブルのメスコネクタをオートローダ後方パネルの電源コネクタに取り付けます。
- 電源ケーブルを最寄りの適切なアース付きコンセントに差し込みます。
- ホストサーバーまたはワークステーションおよび以前から取り付けられていたデバイスをすべてつなぎます。

- オートローダ背面パネルの電源スイッチを **On (オン)** に設定して電源を入れます。電源を切っていたその他のデバイスすべてに電源を入れます。**LCD** スクリーンをチェックして、オートローダが電源供給を受けていることを確認します。電源が来ていなかったら、電源の接続とその供給元を確認します。

電源投入時の自己診断テスト (POST) 中、両方の **LED** が数秒間点灯してから、**Ready/Activity** (使用可能 / アクティブ) **LED** が点滅し始めます。初期化シーケンスが完了すると、**LCD** スクリーンが **Home (ホーム)** スクリーンを表示します。

- サーバーをオンにします。


ホストの準備とその接続の検証

必要に応じて、**SCSI** ホスト アダプタ、ソフトウェア、互換ドライバをインストールします。ホスト コンピュータおよび **SCSI** ホスト アダプタの詳細な説明は、各マニュアルを参照してください。また、次の一般ガイドラインにしたがいます。

- ホストサーバーの電源をオンにしたら、オートローダと互換性のあるソフトウェアやドライバをインストールします (「[デバイスドライバのインストール](#)」を参照)。ソフトウェアの互換性については、support.dell.com を参照してください。バックアップソフトウェアパッケージは、そのほとんどがオートローダ ロボティクスと通信するためのモジュールを別途必要とします。
- ホスト サーバーがネットワークに接続されている場合、システム管理者に確認をとってから電源オフにします。
- 静電気放電 (ESD) 防止のための適切な手続きをとります。内部コンポーネントを取り扱う際は、帯電防止用リストストラップおよび帯電防止用マットを使用します。
- ホスト サーバーの拡張スロットの空きがあることを確認します。
- バックアップアプリケーションが **SCSI** ホスト アダプタをサポートしていることを確認します。
- サーバー構成によっては、オートローダの **SCSI ID** の変更が必要な場合があります (「[SCSI ID の設定](#)」を参照)。
- オートローダの終端処理が正しく行われていることを確認します。**SCSI** ホストアダプタを除き、選択した **SCSI** バス上で唯一の **SCSI** デバイスがオートローダの場合は、終端処理を行う必要があります。同様に、このオートローダが **SCSI** バス上で物理的に最後の **SCSI** デバイスである場合も、終端処理が必要です。**SCSI** バス上で物理的に先頭と最後のデバイスのみが終端処理を必要とします。ホストが **SCSI** バスの先頭に位置する場合、そのホストにはすでにターミネータが取り付けられているはずです。
- Microsoft® Windows® 2000、Microsoft Windows XP、Windows Server® 2003 の **Settings (設定)>Control Panel (コントロールパネル)>System (システム)>Hardware (ハードウェア)>Device Manager (デバイス マネージャ)>Tape Drive (テープ ドライブ) / Media Changer (メディアチェンジャー)** で、オートローダとホストとの接続を検証します。**SCSI** デバイス接続の検証の詳細については、そのオペレーティングシステムの文書を参照してください。

デバイス ドライバのインストール

Dell PowerVault 124T LTO-3 オートローダに関するデバイスドライバは 2 つあります。一つはオートローダ自体のため、もう一つはオートローダに搭載される LTO-3 テープドライブのためのものです。

-  注：Microsoft Windows のネイティブバックアップアプリケーションを使用する場合は、『Dell PowerVault 124T LTO-3 Autoloader User's Manual and Drivers CD』に含まれるデバイス ドライバが必要です。市販のバックアップアプリケーションからは必要とするデバイス ドライバのサポートがすべて提供されています。互換性のあるバックアップアプリケーションについては、support.dell.com のリストを参照してください。

テープ ドライブ デバイス ドライバ

Microsoft Windows 2000 :

- ホスト サーバーに管理者特権でログオン済みであることを確認します。
- 『Dell PowerVault 124T Autoloader User's Manual and Drivers CD』をホストコンピュータの **CD** ドライブに挿入します。

- デバイスマネージャを開きます(手順は使用する OS の文書をご覧ください)。たとえば、Windows デスクトップの **My Computer** (マイコンピュータ) アイコンをクリックし、**Manage** (管理) をクリックしてから **Device Manager** (デバイスマネージャ) をクリックします。

LTO-3 ドライブは ? LTO-3 ドライブは ? **Other Devices** (その他のデバイス) アイテムに **IBM ULTRIUM-TD3 SCSI Sequential Device (IBM ULTRIUM-TD3 SCSI 順次デバイス)** として一覧表示されます。

- **IBM ULTRIUM 3 SCSI Sequential Device (IBM ULTRIUM 3 SCSI 順次デバイス)** の一覧を右クリックし、**Properties** (プロパティ) をクリックします。

- **Driver** (ドライバ) タブを選択します。

- **Update Driver** (ドライバのアップデート) をクリックします。

- [デバイスドライバのアップグレードウィザード] が表示されたら、**Next** (次へ) をクリックします。

- **Display a list..** (このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する) をクリックしてから **Next** (次へ) をクリックします。

- スクロールダウンして **Tape Drive** (テープドライブ) をクリックしてから **Next** (次へ) をクリックします。

- **Have Disk** (ディスク使用) をクリックし、**D:¥Drivers¥Drive** と入力します。d: は『Dell PowerVault 124T Autoloader User's Manual and Drivers CD』を挿入した CD ドライブのドライブ文字に置き換えます。入力した後に **OK** をクリックします。

- **IBM ULTRIUM III TAPE DRIVE (IBM UL TRIUM テープドライブ)** エントリをクリックし、**Next** (次へ) をクリックします。

- **Next** (次へ) をクリックしてドライバをインストールします。

- **Finish** (完了) をクリックします。

- **Device Properties** (デバイスのプロパティ) ダイアログボックスをクリックします。

Device Manager (デバイスマネージャ) の **Tape Drive** (テープドライブ) に **IBM ULTRIUM III Tape Drive (IBM ULTRIUM III テープドライブ)** としてドライブが表示され、ドライブを使用する準備が整います。

Microsoft Windows Server 2003 :

- ホストサーバーに管理者特権でログオン済みであることを確認します。

- 『Dell PowerVault 124T Autoloader User's Manual and Drivers CD』をホストコンピュータの CD ドライブに挿入します。

- デバイスマネージャを開きます(手順は使用する OS の文書をご覧ください)。たとえば、Windows デスクトップで **My Computer** (マイコンピュータ) アイコンを右クリックし、**Properties** (プロパティ) をクリックしてから **Device Manager** (デバイスマネージャ) をクリックするか、**Control Panel** (コントロールパネル) から **System** (システム) を開きます。**Hardware** (ハードウェア) を選択し、**Device Manager** (デバイスマネージャ) をクリックします。

LTO-3 ドライブは ? LTO-3 ドライブは ? **Other Devices** (その他のデバイス) アイテムに **IBM ULTRIUM-TD3 SCSI Sequential Device (IBM ULTRIUM-TD3 SCSI 順次デバイス)** として一覧表示されます。

- **IBM ULTRIUM-TD3 SCSI Sequential Device (IBM ULTRIUM-TD3 SCSI 順次デバイス)** 一覧を右クリックし、**Properties** (プロパティ) をクリックします。

- **Driver** (ドライバ) タブを選択します。

- **Update Driver** (ドライバのアップデート) をクリックします。

- [デバイスドライバのアップグレードウィザード] が表示されたら、**Next** (次へ) をクリックします。

- **Display a list...** (このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する) をクリックしてから **Next** (次へ) をクリックします。

- スクロールダウンして **Tape Drive** (テープドライブ) をクリックしてから **Next** (次へ) をクリックします。

- **Have Disk** (ディスク使用) をクリックし、**D:¥Drivers¥Drive** と入力します。d: は『Dell PowerVault 124T Autoloader User's Manual and Drivers CD』を挿入した CD ドライブのドライブ文字に置き換えます。入力した後に **OK** をクリックします。

- **IBM ULTRIUM III TAPE DRIVE (IBM UL TRIUM テープドライブ)** エントリをクリックし、**Next** (次へ) をクリックします。

□□□ **Next** (次へ) をクリックしてドライバをインストールします。

□□□ **Finish** (完了) をクリックします。

□□□ **Device Properties** (デバイスのプロパティ) ダイアログ ボックスをクリックします。

Device Manager (デバイス マネージャ) の **Tape Drive** (テープ ドライブ) に **IBM ULTRIUM III Tape Drive (IBM ULTRIUM III テープドライブ)** としてドライブが表示され、ドライブを使用する準備が整います。

オートローダのデバイス ドライバ

Microsoft Windows 2000 :

□□□ ホスト サーバーに管理者特権でログオン済みであることを確認します。

□□□ 『Dell PowerVault 124T Autoloader User's Manual and Drivers CD』をホスト サーバーの CD ドライブに挿入します。

□□□ Windows デスクトップの **My Computer** (マイ コンピュータ) アイコンをクリックし、**Manage** (管理) をクリックしてから **Device Manager** (デバイス マネージャ) をクリックします。

オートローダは **Medium Changers** (メディアチェンジャー) の下に **Unknown Medium Changer Device** (不明なメディア チェンジャー デバイス) として示されるはずですが、

□□□ **Unknown Medium Changer Device** (不明なメディア チェンジャー デバイス) のリストを右クリックしてから **Properties** (プロパティ) をクリックします。

□□□ **Driver** (ドライバ) タブを選択します。

□□□ [デバイスドライバのアップグレードウィザード] が表示されたら、**Next** (次へ) をクリックします。

□□□ **Display a list...** (このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する) をクリックしてから **Next** (次へ) をクリックします。

□□□ **Have Disk** (ディスク使用) をクリックし、d:¥Drivers¥Autoloader と入力します。d: は 『Dell PowerVault 124T Autoloader User's Manual and Drivers CD』を挿入した CD ドライブ文字に置き換えます。入力した後に **OK** をクリックします。

□□□ **Dell (tm) PowerVault (tm) 124T Autoloader (Dell (tm) PowerVault (tm) 124T** オートローダ) エントリをクリックし、**Next** (次へ) をクリックします。

□□□□ **Next** (次へ) を再度クリックしてドライバをインストールします。

□□□□ **Finish** (完了) をクリックします。

□□□□ **Device Properties** (デバイスのプロパティ) ダイアログ ボックスを閉じます。

オートローダが **Medium Changers** (メディアチェンジャー) の下の **Device Manager** (デバイス マネージャ) に **Dell (tm) PowerVault (tm) 124T Autoloader (Dell (tm) PowerVault (tm) 124T** オートローダ) として表示され、使用する準備ができました。

Microsoft Windows Server 2003 :

□□□ ホスト サーバーに管理者特権でログオン済みであることを確認します。

□□□ 『Dell PowerVault 124T Autoloader User's Manual and Drivers CD』をホスト サーバーの CD ドライブに挿入します。

□□□ Windows デスクトップの **My Computer** (マイ コンピュータ) アイコンをクリックし、**Manage** (管理) をクリックしてから **Device Manager** (デバイス マネージャ) をクリックします。

オートローダは **Medium Changers** (メディアチェンジャー) の下に **Unknown Medium Changer Device** (不明なメディア チェンジャー デバイス) として示されるはずですが、

□□□ **Unknown Medium Changer Device** (不明なメディア チェンジャー デバイス) のリストを右クリックしてから **Properties** (プロパティ) をクリックします。

□□□ **Driver** (ドライバ) タブを選択します。

□□□ [デバイスドライバのアップグレードウィザード]が表示されたら、**Next** (次へ) をクリックします。

□□□ **Display a list...** (このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する) をクリックしてから **Next** (次へ) をクリックします。

□□□ **Have Disk** (ディスク使用) をクリックし、**d:¥Drivers¥Autoloader** と入力します。d: は『Dell PowerVault 124T Autoloader User's Manual and Drivers CD』を挿入した CD ドライブ文字に置き換えます。入力した後に **OK** をクリックします。

□□□ **Dell (tm) PowerVault (tm) 124T Autoloader (Dell (tm) PowerVault (tm) 124T** オートローダ) エントリをクリックし、**Next** (次へ) をクリックします。

□□□□ **Next** (次へ) を再度クリックしてドライバをインストールします。

□□□□ **Finish** (完了) をクリックします。

□□□□ **Device Properties** (デバイスのプロパティ) ダイアログ ボックスを閉じます。

オートローダが **Medium Changers** (メディアチェンジャー) の下の **Device Manager** (デバイスマネージャ) に **Dell (tm) PowerVault (tm) 124T Autoloader (Dell (tm) PowerVault (tm) 124T** オートローダ) として表示され、使用する準備ができました。

Linux 上で LUN サポートを有効にする

テープドライブが検出されたことを確認するには、管理者が `/proc/scsi/scsi` 内のエントリをチェックする必要があります。現在のバージョンの Linux では、各デバイスの論理ストレージ ユニット(LUN) ID がスキャンされない場合があります。このため、一部の PowerVault デバイスが認識されないことや `/proc/scsi/scsi` 出力に表示されない場合があります。管理者は、以下の手順に従って、これらのデバイスのサポートを有効にできます。

□□□ 「`cat /proc/scsi/scsi`」と入力します。以下に示すような情報が表示されます。

```
Attached devices:
Host: scsi3 Channel: 00 Id: 00 Lun: 00
  Vendor:   IBM Model: ULTRIUM-TD3   Rev: 5BG2
  Type:     Sequential-Access        ANSI SCSI revision: 03
```

□□□ 設定するデバイスの最初の LUN のホスト アダプタ (Host)、チャンネル番号 (Channel)、ターゲット ID 番号 (Id)、および LUN 番号 (Lun) を確認します。この例では、**Certance Ultrium 2 (PowerVault 124T 内のドライブ)** が、アドレス (ネクサス) **3 0 0 0** (ホスト アダプタ 3、チャンネル番号 0、ID 番号 0、および LUN 0) に表示されています。PowerVault 124T では、テープドライブは LUN 0 に、ロボットは LUN 1 にそれぞれ常に割り当てられています。

□□□ Linux で検出する必要があるそれぞれの LUN に対して、以下のコマンドを実行します。

```
echo "scsi-add-single-device H C I L">/proc/scsi/scsi
```

ここで、「**H C I L**」は [手順 2](#) に説明されているネクサスです。したがって、LUN 1 の PowerVault 124T ロボットの場合は、次のように入力します。

```
echo "scsi-add-single-device 3 0 0 1">/proc/scsi/scsi
```

echo コマンドにより、指定したネクサスの各デバイスが強制的にスキャンされます。


□□□ もう一度「`cat /proc/scsi/scsi`」と入力し、すべてのデバイスが一覧に表示されていることを確認します。以下に示すような情報が表示されます。

```
Attached devices:
Host: scsi3 Channel: 00 Id: 00 Lun: 00
  Vendor:   IBM Model: ULTRIUM-TD3   Rev: 5BG2
  Type:     Sequential-Access        ANSI SCSI revision: 03
```

```
Attached devices:
Host: scsi3 Channel: 00 Id: 00 Lun: 01
  Vendor:   DELL Model: PV-124T     Rev: V31
  Type:     Sequential-Access        ANSI SCSI revision: 03
```

管理者は、echo コマンドを Linux のブート スクリプトに追加する必要があります。これは、echo コマンドを Linux のブート スクリプト

に追加しないとデバイス情報が永続しないので、システムを起動するたびに、これらの情報を作成する必要が生じるためです。このコマンドの保存に使用するファイルの例には、`/etc/rc.local` があります。サーバーまたはストレージエリアネットワーク (SAN) 上に追加のデバイスを設定すると、デバイスが並べ替えられることがあります。この場合、管理者がコマンドを変更する必要があります。Fibre Channel アダプタが永続バインディングまたは同等の機能をサポートしている場合、それらの機能を有効にすると、検出時にデバイスが並べ替えられる可能性を減少させることができます。

 注：この手順は、サーバーを起動することに実行する必要があります。また、バックアップアプリケーション サービスが実行中の場合 (OS の起動時にそれらのサービスが自動的に開始する場合など)、これらのサービスを無効にして、上記の手順を終了した後で再び有効にする必要があります。

これ以外に LUN サポートを有効にする方法としては、カーネルを再コンパイルして Adaptec ドライバ内で LUN スキャンを有効にする方法がありますが、Linux の専門知識を必要とするので、ここでは説明しません。しかし、この方法を使用すると、サーバーの起動時にデバイスが自動的に常時検出されます。

Netware 上で LUN サポートを有効にする

□□ システム コンソールから `list storage adapters` コマンドを使用して、LUN デバイスが検出されなかったことを確認します。

次に、テープドライブのみが認識された場合の典型的な出力を示します。

```
0x08 [V321-A3] Adaptec SCSI Card 39160/3960D - Ultra160 SCSI [slot 201]
0x15 [V321-A3-D5:0] IBM ULTRIUM-TD3 5BG2
0x09 [V321-A4] Adaptec SCSI Card 39160/3960D - Ultra160 SCSI [slot 202]
```

□□ システム コンソールで「`nwconfig`」と入力します。

□□ Configuration Options (設定オプション) 画面で **NCF files Options (NCF ファイル オプション)** を選択します。

□□ Available NCF Files Options (使用可能な NCF ファイル オプション) 画面で **Edit STARTUP.NCF (STARTUP.NCF の編集)** を選択します。

□□ 適切な SCSI ドライバのロード行に `/LUNS` スイッチを追加します。デュアルチャンネルカードが搭載されていて、LUN デバイスが割り当てられているチャンネルがわからない場合は、両方の行を編集します。

```
LOAD ADPT160M.HAM SLOT=201 /LUNS
LOAD ADPT160M.HAM SLOT=202 /LUNS
```

□□ STARTUP.NCF ファイルを編集した後、ファイルを保存してサーバーをリブートすると、新しい STARTUP.NCF がアクティブ化されません。


□□ リブート後にシステム コンソールに移動して、「`scan all`」と入力します。各アダプタ上にあるすべての LUN デバイスのスキャンが開始します。


□□ スキャンが完了したら、`list storage adapters` コマンドを使用して LUN デバイスが検出されたことを確認します。

次に、テープドライブとローダが検出されたときの典型的な出力を示します。

```
0x08 [V321-A3] Adaptec SCSI Card 39160/3960D - Ultra160 SCSI [slot 201]
0x16 [V321-A3-D5:1] DELL PV-124T 0031
0x15 [V321-A3-D5:0] IBM ULTRIUM-TD3 5BG2
0x09 [V321-A4] Adaptec SCSI Card 39160/3960D - Ultra160 SCSI [slot 202]
```

Netware では **unbound device** (バインドされていないデバイス) が表示される場合があります。これは、バックアップソフトウェアのドライバがロードされない限り、ドライバがローダにバインドされないことを意味します。その場合でも、バックアップアプリケーションによる LUN の検出、および適切なドライバのバインドが妨げられることはありません。

 注：ユーザーは、OS が起動するたびに、コマンド `scan all` を入力する必要があります。OS の起動時にバックアップソフトウェアのサービスが自動的に開始する場合、サービスを無効にして `scan all` コマンドを実行し、サービスを再び有効にします。

 注：Netware では **unbound device** (バインドされていないデバイス) が表示される場合があります。これは、バックアップソフトウェアのドライバがロードされない限り、ドライバがローダにバインドされないことを意味します。その場合でも、バックアップアプリケーションによる LUN の検出、および適切なドライバのバインドが妨げられることはありません。


[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

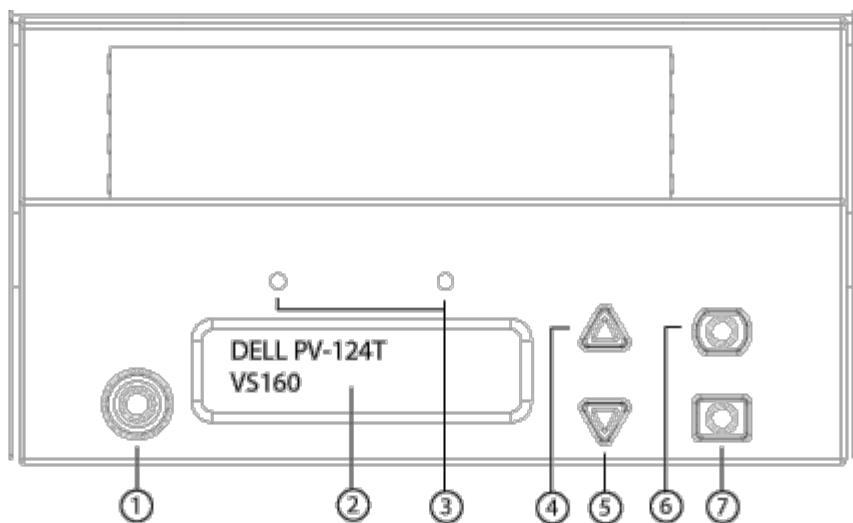
オートローダの操作：Dell™ PowerVault™ 124T DLT VS160 オートローダ ユーザーズ ガイド

- [操作パネル機能](#)
- [カートリッジの使用](#)
- [マガジンおよびマガジン ブランクの使用](#)
- [ステータス情報の参照](#)
- [インベントリの実行](#)
- [データ圧縮](#)

操作パネル機能

 注：セキュリティが有効になっているときに、パスワードを入力しないでコマンドを実行しようとすると、パスワードを入力するまで、**Enter Password** (パスワードの入力) 画面が表示されたままになります。パスワードが入力されると、オートローダはパスワード入力を行う前のコマンド画面に戻ります。

操作パネルの構成は、LED 2 台、ボタン 5 個、16 文字 LCD スクリーン 2 行です。操作パネルには、オートローダ ステータスの監視およびその全機能の制御に必要なすべてが提供されています。



- 1 電源スイッチ
- 2 前面パネルの **LCD** スクリーン
- 3 前面パネルの **LED**
- 4 スクロール アップ ボタン
- 5 スクロール ダウン ボタン
- 6 **Escape**
- 7 **Enter**

スクロール メニューからアクセスされる全機能にはパスワード保護がかけられています。メニューには二種類のセキュリティ レベルが組み込

まれています。低位レベルのセキュリティはオペレータ レベル、高位レベルのセキュリティは管理者レベルです。各レベルに一つずつパスワードがあります。

管理者パスワードでは利用可能な機能のすべてにアクセスできます。オペレータ パスワードでは、**Command** (コマンド) および **Status** (ステータス) サブメニューの全機能にアクセスできます。

パスワードの入力

オートローダの多くの機能はデータ保全のためパスワード保護をかけられます。これらの機能の実行に必要なメニュー項目にアクセスするには、まずパスワードの入力が必要です (「[パスワードの設定](#)」を参照)。パスワードはすべて数字 6 桁です。これらのパスワードは前面パネル固有のもので、リモート管理ユニット (RMU) のパスワードとは異なります。


パスワードを入力すると、ログアウトするまでパスワード保護がかけられた機能のすべてが使用可能になります (「[ログアウト](#)」を参照)。ある一定時間、前面パネルを使用しないでいると、LCD にメイン画面が再表示されます。メイン画面が再表示されると、オートローダはユーザーは自動的にログアウトされます。メニュー機能を再度アクセスするには、パスワードの再入力が必要となります。

ログアウト

オートローダからログアウトするときは、次の手続きを行います。


□□□ メインメニューから **Commands** (コマンド) へスクロールし、**Enter** を押します。

□□□ **Commands** (コマンド) サブメニューから **Log out** (ログアウト) までスクロールし、**Enter** を押します。Session Complete (セッション完了) が LCD に表示されます。

 注： **Escape** を押してもログアウトできます。一定の間 **Escape** を押し続けているとメイン画面が表示されます。

カートリッジの使用

初めてオートローダをインストールするときは通常、マガジンにカートリッジをロードしてから、そのマガジンをオートローダにロードします。ただし、メディア ドア (メールスロット) を使用してカートリッジを個別に挿入したり取り出したり、マガジンを取り出したり、手でカートリッジをロードまたはアンロードしてから、そのマガジンをオートローダにロードし直すことも可能です。オートローダはマガジン スロット内から自動的にカートリッジの存在を検出します。

 注： 前面パネルのメニューに **Enter** または **Eject** (取り出し) が表示されているときは、テープがメディア ドア (メールスロット) を通じてオートローダに出入りしていることを示します。**Load** (ロード) または **Unload** (アンロード) が表示されているときは、テープがテープドライブにロードまたはアンロードされていることを意味します。

何か不正な操作を行おうとすると、オートローダはその操作を拒否します。たとえば、メディア ドア (メールスロット) からドライブにカートリッジをロードしようとしたとき、そのドライブにすでにカートリッジがあると、ロックは解除されずエラー メッセージが表示されます。オートローダがテープに書き込みを行っている最中に、そのドライブのカートリッジをアンロードしようとする、そのコマンドは前の書き込みコマンドが完了するまで起動されません。

単一カートリッジの挿入


単一のカートリッジをオートローダにロードする場合は、メディア ドア (メールスロット) を使用できます。ただし、セキュリティ オプションがオンになっている場合は、このカートリッジをロードする前に、正しいパスワードを入力してメディア ドア (メールスロット) のロックを解除しておく必要があります。メディア ドア (メールスロット) からカートリッジを挿入すると、それをテープ ドライブにロードするか、マガジン内に格納しておくことができます。


テープ ドライブへのカートリッジ挿入方法：

□□□ メインメニューから **Commands** (コマンド) へスクロールし、**Enter** を押します。


□□□ **Commands** (コマンド) サブメニューから **Enter-Mailslot** (**Enter**-メールスロット) までスクロールし、**Enter** を押します。

□□□ **Enter-Mailslot** (**Enter**-メールスロット) サブメニューから **To Drive** (移動先ドライブ) までスクロールし、**Enter** を押します。

 注：Insert Tape, Push Until Prompted (テープが突き当たるまで挿入します) と LCD に表示されると、40 秒以内にメディア ドア (メールスロット) からカートリッジをロードしないと再ロックされ「User Aborted (ユーザーにより中止されました)」とオペレータ コントロール パネルに表示されます。

 注：PowerVault 124T の場合は、カートリッジが突き当たるまで挿入します。カートリッジはメディア ドア (メールスロット) の中に 5.0 cm ほど入り、カートリッジの後方だけがメディア ドア (メールスロット) から見える状態になります。

□□□ カートリッジが挿入されると、**Enter to Continue** (続行するときは **Enter** を押してください) が表示されます。5 秒以内に **Enter** を押して応答しないと、オートローダは自動的にカートリッジをロードします。

 注：カートリッジの挿入に失敗すると、カートリッジが排出され、手順 3 と 4 をやり直さなければなりません。「Missed Tape (テープがありません)」というエラー メッセージがオペレータ コントロール パネルに表示されます。

マガジンスロットへのカートリッジの挿入方法：

□□□ メインメニューから **Commands** (コマンド) へスクロールし、**Enter** を押します。


□□□ **Commands** (コマンド) サブメニューから **Enter** までスクロールし、**Enter** を押します。

□□□ **Enter** サブメニューから **To Location** (移動先の場所) までスクロールし、**Enter** を押します。

マガジン スロット内をスクロールし、該当するスロットが見つかるまでそのステータスを見ていきます。データ カートリッジが占有しているスロットはアスタリスク (*) 表示されます。クリーニング カートリッジにより割り当てられ占有されているスロットにはアットマーク (@) が表示されます。クリーニング カートリッジに割り当てられた空のスロットには感嘆符 (!) が表示されます。

□□□ カートリッジを格納するスロットまでスクロールし、**Enter** を押します。

Load cartridge (カートリッジをロードしてください) と LCD に表示されたら、再ロックされるまで 40 秒以内にメディア ドア (メールスロット) からカートリッジをロードします。オートローダは自動的に選択されたスロットの中にカートリッジをロードします。

 注：カートリッジの挿入に失敗すると、カートリッジが排出され、手順 3 と 4 をやり直さなければなりません。

□□□ カートリッジが挿入されると、**Enter to Continue** (続行するときは **Enter** を押してください) が表示されます。5 秒以内に **Enter** を押して応答しないと、オートローダは自動的にカートリッジをロードします。

単一カートリッジの移動

オートローダ内のある場所から他の場所への単一カートリッジの移動は簡単に行うことができます。

□□□ メインメニューから **Commands** (コマンド) へスクロールし、**Enter** を押します。

□□□ **Commands** (コマンド) サブメニューから **Move** (移動) までスクロールし、**Enter** を押します。

Move (移動) 画面が **From:** (移動元) の下に表示されます。移動するカートリッジの現在の場所までスクロールします。データ カートリッジが占有しているスロットはアスタリスク (*) 表示されます。

□□□ **To:** (移動先) から、カートリッジを移動する場所までスクロールします。データ カートリッジが占有しているスロットはアスタリスク (*) 表示されます。**Enter** を押します。


□□□ **Enter** を押します。

- 空の場所を選択すると、LCD に **No Source Tape** (ソース テープなし) と表示されます。別の場所を選択します。
- すでに占有されている場所を選択すると、**Destination Full** (出力先フル) が LCD に表示されます。別の場所を選択します。

単一カートリッジの取り出し

オートローダから単一のカートリッジを取り外すときは、必要とするカートリッジをバーコードまたは場所で指定するか、テープドライブに現在あるカートリッジを選択することができます。

カートリッジをバーコードで取り出す方法：

 注：この機能はバーコードリーダーが有効な場合にのみ使用できます。

- メインメニューから **Commands** (コマンド) へスクロールし、**Enter** を押します。
- **Commands** (コマンド) サブメニューから **Eject** (取り出し) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Eject** (取り出し) サブメニューから **Tape** (テープ) → **Mailslot** (メールスロット) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **By Barcode** (バーコード使用) までスクロールします。
バーコードラベルが表示されます。
- 取り出すカートリッジに該当するラベルまでスクロールして、**Enter** を押します。

カートリッジを場所指定で取り出す方法：

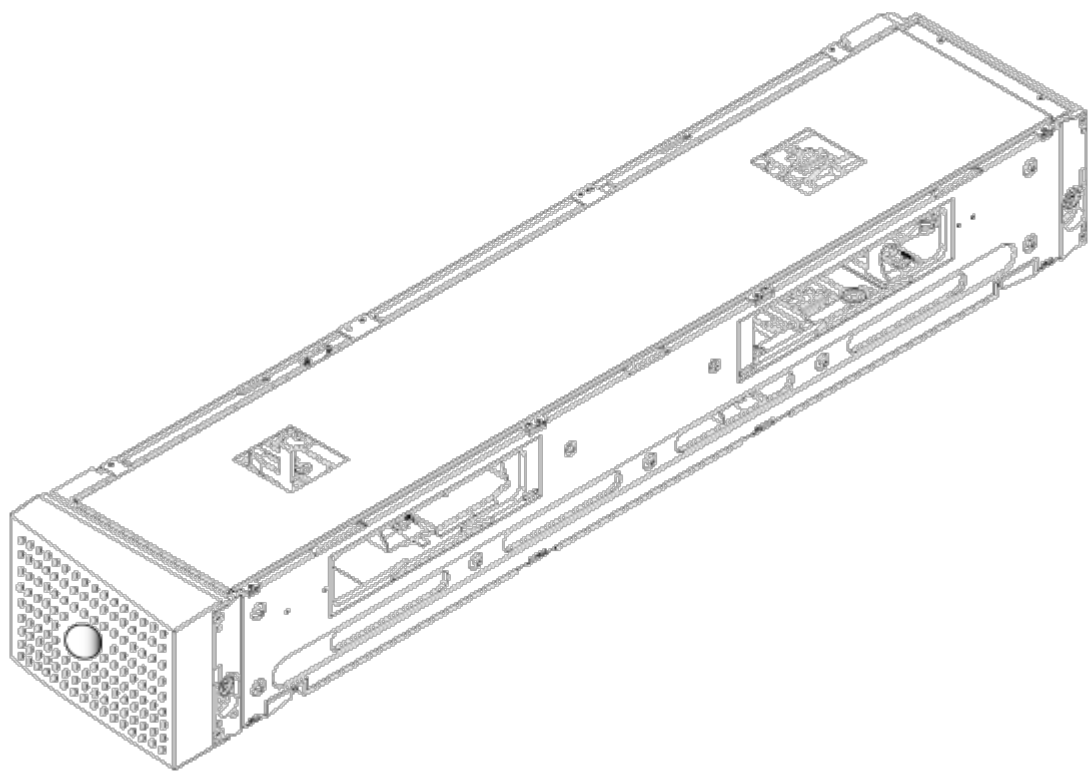
- メインメニューから **Commands** (コマンド) へスクロールし、**Enter** を押します。
- **Commands** (コマンド) サブメニューから **Eject** (取り出し) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Eject** (取り出し) サブメニューから **Tape** (テープ) → **Mailslot** (メールスロット) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **By Location** (場所指定) までスクロールします。
データカートリッジが占有しているスロットはアスタリスク (*) 表示されます。クリーニングカートリッジにより割り当てられ占有されているスロットにはアットマーク (@) が表示されます。クリーニングカートリッジに割り当てられた空のスロットには感嘆符 (!) が表示されます。取り出したいカートリッジの入っているスロットにスクロールします。
- **Enter** を押します。
指定したカートリッジがメディア ドア (メールスロット) から取り出されます。

テープドライブからのカートリッジの取り出し方法：

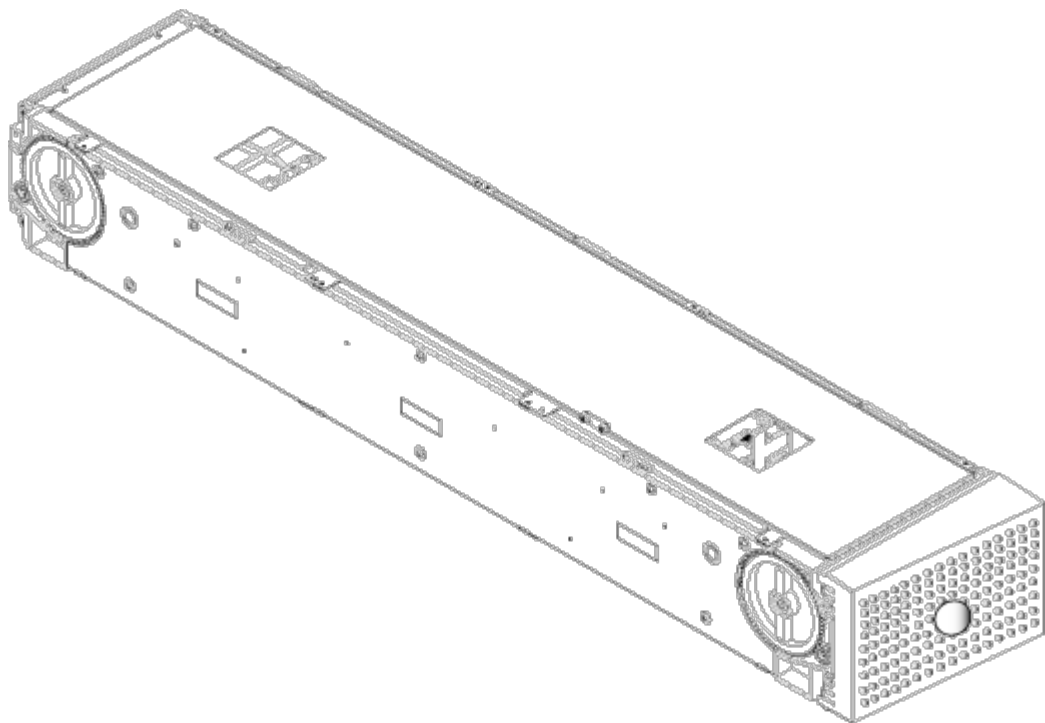
- メインメニューから **Commands** (コマンド) へスクロールし、**Enter** を押します。
- **Commands** (コマンド) サブメニューから **Eject** (取り出し) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Eject** (取り出し) サブメニューから **Tape** (テープ) → **Mailslot** (メールスロット) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **From Drive** (移動元ドライブ) までスクロールし、**Enter** を押します。
指定したカートリッジがメディア ドア (メールスロット) から取り出されます。

マガジンおよびマガジン ブランクの使用


マガジンの内側



マガジンの外側



オートローダは両方のマガジン ベイにマガジンまたはマガジン ブランクが正しく入っていない限りは作動しません。この開口部を閉じる唯一の方法はマガジンを 2 個使うことです。マガジンが 1 個だけの場合は、もう一つのマガジンの開口部にマガジンブランクを入れてユニットが作動できるようにします。

 注：異なる種類のドライブ間でマガジンを交換することはできません。これらの品目を交換する際は、正しいパーツ番号でご注文ください。

マガジンの取り出し

複数のカートリッジを同時に取り外す際は、まずマガジンを取り出します。


マガジンの取り出し方法：

- メインメニューから **Commands** (コマンド) へスクロールし、**Enter** を押します。
- **Commands** (コマンド) サブメニューから **Eject** (取り出し) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Eject** (取り出し) サブメニューから **Right Magazine** (右マガジン) または **Left Magazine** (左マガジン) までスクロールし、**Enter** を押しします。

該当するマガジンがオートローダから取り出されるときは、機械の外れる音がします。**Left magazine has been ejected** (左マガジンが取り出されました) または **Right magazine has been ejected** (右マガジンが取り出されました) が LCD に表示されます。

- ➡ 通知：オートローダまたはマガジンの損傷を防ぐため、オートローダからマガジンを取り外すときは、両手でマガジンの長方向の両端を支えるようにして持ちます。

- マガジンのハンドルを手でつかんで引っ張りながら、もう片方の手で底を支えます。

 注：マガジンを取り出したら、それを完全に取り外すか、完全に挿入し直してから、オートローダの電源をオフにします。マガジンをオートローダへ戻すときは、その前にマガジンの各端にある白いサムホイールを 1 つ手で回します。楽に回せたら、カートリッジは正しく納まっています。この車輪が楽に回らない場合は、カートリッジをチェックし、必要に応じて、取り付けし直します。

ソフトウェアから **Load/Unload** (ロード / アンロード) コマンドを発行すると、右のマガジンが自動的に取り出されます。**Load/Unload** (ロード / アンロード) コマンドを使って左のマガジンを取り出すには、次の手順を実行します。

- 右のマガジンを取り出す。
- 右のマガジンをマガジンブランクと取り替える。
- **Load/Unload** (ロード / アンロード) コマンドを再度発行する。するとシステムは左のマガジンを取り出す。
- 右のベイにマガジンが必要な場合は、右のベイのマガジンブランクをカートリッジマガジンと交換する。

マガジンのインストール

マガジンをオートローダへインストールするときは、次の手順にしたがいます。

- マガジンのハンドルを手でつかみ、もう片方の手で底を支えます。
- カチッという音がするまで、マガジンをマガジン ベイに挿入します。

マガジンが正しい位置に納まっていることを確認します。マガジン ベイの中はスムーズにスライドするはずですが、何か抵抗を感じるようであれば、マガジンの方向を確認します。


カチッと適所に納まる感じがしてマガジンの前面が前面パネルと揃えば、正しく取り付けられています。**Left Mag Inserted** (左マガジン挿入済み) または **Right Mag Inserted** (右マガジン挿入済み) が LCD に表示されます。オートローダは自動的にインベントリの実行を開始します。

- ➡ 通知：マガジンの一部がオートローダに入っているときは、マガジン側面のノブをオンにしないでください。これを行うと、マガジンやオートローダにさまざまな損傷を引き起こす要因となります。

マガジンの手動操作

マガジンの各端には 2 つ白いサムホイールがあります。これらの 2 つの白いサムホイールを回し、スロットがこの 2 つの開口部のうち 1 つと揃


うようにすることで、マガジン内のスロットを移動することができます。手をいれてトリッジ キャリアを押して、マガジンを回さないでください。マガジンの開口部を利用して各マガジンにある 8 個のスロットからカートリッジをロード / アンロードすることができます。

-  通知：カートリッジからロード / アンロードするときは、マガジンを完全に取り外しておくことをお勧めします。マガジンが完全に取り外されていないと、マガジンは回りません。

完全に取り出されているマガジンへのカートリッジのロード方法：

□□□ カートリッジをマガジンにロードするときは、マガジン側面にある開口部の 1 つの中央にスロットを合わせます。

□□□ カートリッジの方向を合わせます。テープを立てて、バーコード ラベルが外側に向くように配置します。

 注：カートリッジが正しい方向に完全に挿入されるように、各スロットには特別な仕組みが施されています。ラベルが指定のラベル位置以外の場所でカートリッジに装着されていないか確認します。

□□□ カートリッジをスロットに完全に挿入します。

カートリッジをスロットの中に押し込む際、カートリッジがスロットのラッチに正しく納まる前に軽い抵抗 (戻り留) が感じられます。カートリッジが完全に挿入されると前方への動きはまったく止まります。

カートリッジを取り外すときも挿入時と同様に行うことができます。白いサムホイールを使ってマガジン側面の求めるスロットを開口部の中央に合わせます。手を使ってカートリッジ キャリアを押して、マガジンを回さないでください。親指と人差し指でカートリッジをつかんで引き出します。軽い抵抗を感じますが、そのまま機械から離れるまでカートリッジを引き続けます。

スロットの場所の確認方法：

各スロットには、マガジンの上側のセクションに行くと見える識別番号があります。マガジンをオートローダから取り外した状態では、マガジン上面にある 2 つの窓のうち 1 つを通して、マガジン上部からこの識別マークを確認することができます。各マガジン キャリアには 1/9、2/10、3/11 などのラベルが付けられます。低い番号 (1 ~ 8) は左マガジンのスロット、高い番号 (9 ~ 16) は右マガジンのスロット (オプションの右マガジンが取り付けられている場合) をそれぞれ指します。

インベントリの実行

電源を入れ直したとき、またはマガジンを挿入したとき、オートローダは自動的にインベントリを実行します。インベントリが、各マガジン スロット、ドライブ、ピッカー、およびメディア ドア (メールスロット) をチェックして、カートリッジの存在を確認します。存在する場合、バーコード ラベルが利用可能であれば、その読み取りを行います。これ以外の機会にインベントリを実行する場合は、手動実行が可能です。

 注：テープがピッカーにある場合、バーコードラベルは読み取りできません。

インベントリの手動実行方法：

□□□ メインメニューから **Commands** (コマンド) ヘスクロールし、**Enter** を押します。

□□□ **Commands** (コマンド) サブメニューから **Inventory** (インベントリ) までスクロールし、**Enter** を押します。オートローダは存在するすべてのカートリッジについてバーコードスキャンを行います。

ステータス情報の参照

LCD のスクロールメニューからは、オートローダのステータス、ファームウェア バージョン、エレメントの状態、テープ ドライブのステータス、テープ ドライブのバージョン、イーサネット情報を参照することができます。

PowerVault 124T オートローダステータスの参照

オートローダのステータスからは、マガジン取り付けの有無、SCSI 接続ステータス、イーサネット接続ステータス、バーコードリーダー取り

付けの有無、などの情報が提供されます。

オートローダ ステータスの参照：

- メインメニューから **Status** (ステータス) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Status** (ステータス) サブメニューから **Autoloader** (オートローダ) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Autoloader** (オートローダ) サブメニューから **Status** (ステータス) までスクロールし、**Enter** を押します。次のようなメッセージ一覧が表示されます。

SCSI ID

A digit 0 through 7 (default 6) (0 ~ 7 の数値 [デフォルトは 6]) オートローダに割り当てられた SCSI ID。

マガジン

L=* 左マガジンが存在します。

R=* 右マガジンが存在します。

BC リーダー

Yes (対応) バーコードリーダーが有効です。

No (非対応) バーコードリーダーが無効です。

ファームウェアバージョンの参照

現在のファームウェアバージョンを参照するときは、次の手順にしたがいます。

- メインメニューから **Status** (ステータス) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Status** (ステータス) サブメニューから **Autoloader** (オートローダ) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Autoloader** (オートローダ) サブメニューから **Version** (バージョン) までスクロールし、**Enter** を押します。

LCD にメッセージ一覧が表示されます。ファームウェアバージョンは、**Firmware VX.XX** (ファームウェア: **VX.XX**) のように表示され、**x.xx** で現在インストール済みのファームウェアバージョンが示されます。

Firmware (ファームウェア) この番号でファームウェアバージョンが示されます。

EDC この番号で、ファームウェアがインストールされたときに生成される **Error Correction Code** が示されます。オートローダはこの番号を使用して、そのファームウェアとそれを保持するメモリとの整合性を検証します。

HW Rev この番号でハードウェアバージョンが示されます。

ME Rev この番号で機械のバージョンが示されます。

エレメント ステータスの参照

エレメント ステータスには、マガジン スロットのステータスが報告されます。このステータスで、スロット内のカートリッジの有無、またクリーニング カートリッジのスロットに割り当てられるのはどちらのスロットか、が示されます。エレメント ステータスの参照方法：

- メインメニューから **Status** (ステータス) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Status** (ステータス) サブメニューから **Autoloader** (オートローダ) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Autoloader** (オートローダ) サブメニューから **Element Status** (エレメント ステータス) までスクロールし、**Enter** を押します。
- スクロールして **Drive** (ドライブ)、**Mailslot** (メールスロット)、**Picker** (ピッカー) のステータスを表示します。スクロールし、**Magazine** (マガジン) ステータスを表示するかどうかを確認するメッセージが表示されたら **Enter** を押します。

スロットのそれぞれについてスクロール可能です。データ カートリッジが占有しているスロットはアスタリスク (*) 表示されます。クリーニング カートリッジに割り当てられるスロットが占有されている場合は、アットマーク (@) で示されます。クリーニング カートリッジに割り当てられるスロットが空の場合は、感嘆符 (!) で示されます。

- ラベルを参照するカートリッジまたは移動するカートリッジの入ったスロットまでスクロールし、**Enter** を押します。

Element Status (エレメント ステータス) 画面が表示され、そのカートリッジのバーコードラベルが示されます。

テープ ドライブ ステータスの表示

テープ ドライブ ステータスを参照するときは、次の手順にしたがいます。

- メインメニューから **Status** (ステータス) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Status** (ステータス) サブメニューから **Drive** (ドライブ) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Drive** (ドライブ) サブメニューから **Status** (ステータス) までスクロールし、**Enter** を押します。

メッセージ一覧が表示されます。これらのメッセージには次の内容が含まれます。

- SCSI ID** ドライブの SCSI ID 番号を示します。
- Compression (圧縮)** テープドライブの圧縮が有効か無効を示します。
- Drive Tape (ドライブテープ)** テープがドライブにあるかどうかを示します。



注：DLT VS160 テープドライブはデータ圧縮が可能であるため、同容量のテープにデータを多く書き込める場合があります。圧縮はまた SCSI バス間のデータ転送性能も向上します。データ圧縮はドライブに依存するため、前面パネルやリモート管理ユニットからは設定できません。圧縮については通常、バックアップアプリケーション パッケージからも情報がありません。

前面パネルのディスプレイはデータ圧縮が有効または無効であることを示します。すべてのデータが圧縮可能であるわけではなく、性能はバックアップされているデータの種類により大きく左右されます。

テープドライブバージョンの表示

テープドライブバージョンを参照するときは、次の手順にしたがいます。

- メインメニューから **Status** (ステータス) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Status** (ステータス)サブメニューから **Drive** (ドライブ) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Drive** (ドライブ) サブメニューから **Version** (バージョン) までスクロールし、**Enter** を押します。

メッセージ一覧が表示されます。これらのメッセージには次の内容が含まれます。

Product Type (製品種別) 取り付けられているドライブの種別を示します。

Version (バージョン) ドライブのファームウェアバージョンを示します。

イーサネット情報の参照

イーサネット情報を参照するときは、次の手順にしたがいます。

- メインメニューから **Status** (ステータス) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Status** (ステータス)サブメニューから **Ethernet** (イーサネット) までスクロールし、**Enter** を押します。

メッセージ一覧が表示されます。これらのメッセージには次の内容が含まれます。

MAC address (MAC アドレス) オートローダ固有に付けられたネットワーク識別子を示します。

IP Address (IP アドレス) 静的 IP アドレスまたは現在割り当てられている動的 IP アドレスを示します。この場合 **DHCP** のテキストが表示されます。

Network (ネットワーク) オートローダのネットワーク接続の有無およびそのときの速度を示します。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)


リモート管理ユニット：Dell™ PowerVault™ 124T DLT VS160 オートローダユーザーズガイド


- [リモート管理ユニット概要](#)
- [設定ページ](#)
- [ファームウェアページ](#)
- [エラーログと診断ページ](#)
- [ライブラリ操作ページ](#)

リモート管理ユニット概要

Dell PowerVault 124T DLT VS160 オートローダには、リモート管理を可能にするイーサネット インターフェイスが搭載されています。このインターフェイスは、リモート管理ユニット (RMU) と呼ばれ、HTML (Hypertext Markup Language) ベースの GUI (Graphic User Interface) による使い勝手のよい Web サーバーが含まれています。

RMU は、前面パネル インターフェイスと同じ機能を多数実行します。これらの機能には、テープの移動、システム操作オプション、ネットワーク オプション、セキュリティ オプション、診断テストの実行、システム アップデートの実行、などがあります。

 注：Diagnostics (診断) コマンドは、オートローダがアイドル状態で、ホストのバックアップやリストアアプリケーションが使用できない状態である場合にのみ使用します。ドライブまたはオートローダが稼働しているときに Diagnostic (診断) コマンドを実行すると、これらが使用中であるという応答が返されます。ただし、Diagnostic (診断) コマンドを実行してからバックアップまたはリストア ジョブを実行すると、ジョブが失敗する場合があります。

 注：システムからログアウトするには、ブラウザを閉じる必要があります。

デフォルト ユーザー名とパスワード

リモート管理ユニットのデフォルトのユーザー名は、**admin** です。デフォルトのパスワードは **password** です。

ユーザー名とパスワードは大文字と小文字の区別があるので、この場合はすべてを小文字で入力する必要があります。このデフォルトのユーザー名とパスワードは、他にユーザー名を設定するまで有効です。

リモート管理ユニットのオープン

リモート管理ユニットには HTML インターフェイスが装備されているため、起動するときはブラウザを使用します。次の Web ブラウザをサポートしています。

- Microsoft® Windows® —Microsoft Internet Explorer 5.5 以降
- Microsoft Windows 2003—Microsoft Internet Explorer 6.0 以上 (最新セキュリティ パッチを含む)
- Redhat® 2.1—Mozilla™ 1.4.2
- Firefox™ 1.0

セキュリティが有効である場合に **Library Operations** (ライブラリ操作) ページにアクセスするときは、オペレータパスワードが必要です。**Configuration** (設定)、**Error Logs and Diagnostics** (エラーログと診断)、および **Firmware** (ファームウェア) ページにアクセスするときは、管理者パスワードが必要です。

RMU を Microsoft Internet Explorer と一緒に使用している場合、**Allow META REFRESH** (ページの自動読み込み) オプションを必ず有効にしてください。Internet Explorer のバージョン 6.0 では、この機能は **Security** (セキュリティ) タブにある **Tools** (ツール)>**Internet Options** (インターネット オプション) メニューの選択で制御されます。

すべてのリモート管理ユニット Web ページの機能を使用するには、Java Script がユーザーの Web ブラウザで有効になっている必要があります。

リモート管理ユニットを開くには

- 使用するコンピュータで、Web ブラウザを開きます。
- ブラウザのアドレスフィールドに、オートローダの IP アドレスを入力します (「[イーサネットステータスの参照](#)」を参照)。
ブラウザウィンドウに **Home** (ホーム) ページが表示されます。

ステータス情報の参照

The screenshot shows the Dell PowerVault 124T Remote Management Web Interface in Microsoft Internet Explorer. The browser address bar shows 'http://192.168.20.128/'. The page title is 'PowerVault 124T' and it includes navigation links for 'Home', 'Configuration', 'Firmware', 'Error Logs and Diagnostics', and 'Library Operations'. A central image shows the PowerVault 124T device. On the right side, there is a 'Refresh Status' section with a table of system information. The table is divided into sections: System, Autoloader, Drive, Administration Lock, Host Backup Software Lock, and Operator Control Panel. Each section is numbered 1 through 6 on the left side of the table.

Refresh Status	
POC:00166 00000:23:18	
1 System	
Autoloader:	PV-124T S/N: CC5CC20023 Cust S/N: FA1234KYZ12345
Drive:	LTO-2 S/N: JK00A31
Service Tag:	1A283C4
2 Autoloader	
Status:	Idle
Version:	V42.0 (002A.0h)
Left Magazine:	Present
Right Magazine:	Present
Barcode Scanner:	Enabled
3 Drive	
Status:	Idle Empty
Tape Alerts:	No Tape Alert Flags Set
Version:	1914
SCSI ID:	6
4 Administration Lock	
Host:	None
Expiration:	None (No Locking)
5 Host Backup Software Lock	
Autoloader:	Not Locked
Drive:	Not Locked
6 Operator Control Panel	
LCD:	DELL PV-124T Idle

リモート管理ユニット (RMU) Web インターフェイス ステータス ペイン

- **System Status** (システム ステータス) - オートローダとドライブの両方のモデルとシリアル番号 (S/N) を提供します。このセクションにはデル サービス タグ番号も含まれています。この番号はテクニカル サポートに問い合わせる際に必要となります。
- **Autoloader** (オートローダ) - オートメーション デバイスに固有のステータスを提供します。マガジンの設定に関する情報については、「[前面パネル管理](#)」を参照してください。バーコード スキャナの有効/無効に関する情報については、「[取り付け概要](#)」を参照してください。
- **Drive** (ドライブ) - ドライブに固有のステータス情報を提供します。SCSI ID の変更方法に関する情報については、「[取り付け概要](#)」を参照してください。Drive テープ警告フラグに関する情報については、「[TapeAlert ログ](#)」を参照してください。
- **Administration Lock** (管理ロック) - RMU セキュリティ設定に関するステータスを提供します。管理ロックの設定方法に関する情報については、「[クライアントオーバーラップ制御](#)」を参照してください。

- **Host Backup Software Lock** (ホスト バックアップソフトウェア ロック) - **ISV (Independent Software Vendor)** オートローダとドライブ ロック設定に関するステータスを提供します。これらの設定は通常は、ホスト バックアップソフトウェア アプリケーション内から変更を行う必要があります。オートローダとドライブ ロック設定の変更方法に関する手順については、お使いの「バックアップソフトウェア ヘルプ」または「ユーザーガイド」を参照してください。
- **Operator Control Panel** (オペレータ コントロール パネル) - 「**OCF ミラー**」(オペレータ コントロール パネルに現在表示されたテキストの表示)を提供します。

ステータス情報は **Home** (ホーム) ページとリモート管理ユニットの各ページ (**Firmware** [ファームウェア] ページは除く) の右側に表示されます。このステータス情報は 60 秒おきに自動的に更新されます。ステータスの変更は、ステータス ウィンドウ アップデートに表示されますが、最新の内容が表示されるまで約 60 秒かかります。 **Refresh Status** (ステータスを最新情報に更新する) をクリックして、アップデート内容を即座にシステムに取り込むこともできます。

このメニュー見出しは各ページの一番上にも表示されます。メニュー見出し下の機能にアクセスするときは、それぞれのメニュー見出しをクリックします。初めて接続するときは、リモート管理ユニットからユーザー名とパスワードの入力要求があり、その後そのメニューの起動ページが表示されます。画面の解像度設定によっては、すべてのステータス情報を表示するにはスクロールしなければならない場合があります。

時間表示

表示される時間は一般時刻が電源オン時間です。一般時刻は、月/日/年 時刻の形式で、たとえば「Nov/21/2004 19:28」のように表されます。電源オン時間は電源サイクル数 (POC) / 電源オン時間数 (POH) で、具体的には POC:00121, POH:00002:07:45 のように表されます。

- POC (5 桁の数字) は、システムの製造以来ののべブート回数です。
- POH は、システムが最後にブートされてからの時間数+分数+秒数です。

ページのフィードバック

要求の送信時、システムからのフィードバックがある場合、そのフィードバック内容は **submit** (送信) ボタンの下に表示されます。このフィードバック情報を参照する際、場合によってスクロールを要することがあります。

設定ページ

Configuration (設定) ページは左側にサブメニューがあります。 **System Operations** (システム操作)、 **Networking** (ネットワーク)、 および **Security** (セキュリティ) の各オプションはこのページから設定できます。


システム操作オプション

このオプションは、 **System Operations** (システム操作) の下に一覧が示され、その内容には **SCSI ID**、 **Compression** (圧縮)、 **Barcode Reader** (バーコードリーダー)、 **Cleaning Tape** (クリーニングテープ)、 **Magazines** (マガジン)、 **System Time** (システム時間) などがあります。

SCSI ID

ドライブの SCSI ID は、リモート管理ユニットから変更できます。 SCSI ID の変更方法：


- 任意のページで、 **Configuration** (設定) の見出しをクリックします。 **Configuration** (設定) 画面が表示されます。
- **System Operations** (システム操作) で **SCSI ID** を選択します。
- ドロップダウン ボックスをクリックして、新たな SCSI ID として割り当てる番号を選択します。
- **submit** (送信) をクリックします。

 注：オートローダのリセットを実行するか前面パネルでマシンの電源を入れ直して、新しい SCSI ID を有効にしてください。

圧縮

Dell PowerVault 124T DLT VS160 オートローダの場合は、データ圧縮はドライブに依存します。前面パネルおよびリモート管理ユニットは、圧縮が有効か否かを表示します。

データ圧縮とは、同じテープサイズに、ドライブがより多くのデータを書き込むようにすることです。

 注：圧縮は、オートローダの前面パネルやリモート管理ユニットからは変更できません。テープに書き込みしているデータがすでに圧縮済みである場合、圧縮オプションは、圧縮としてではなく、データの解凍として示されています。

圧縮設定の参照方法：

任意のページで、**Configuration** (設定) の見出しをクリックします。**Configuration** (設定) 画面が表示されます。**Compression** (圧縮) 見出しの下に、現在の圧縮設定が **Compression Enabled** (圧縮が有効です) または **Compression Disabled** (圧縮は無効です) として表示されません。

バーコードリーダー

バーコードリーダーは有効/無効にできます。バーコードリーダーを無効にすると、リーダーがラベル情報を読み取らないように設定できます。バーコードラベル以外のものが使用されていたり、ラベルが使用されていない場合は、バーコードリーダーを無効にすると起動時またはシステムリセット時の初期化を短縮できます。

変更を有効にするには、パワーサイクル ([前面パネル] ボタンを使用) またはオートローダリセット (エラーログと診断ページのオートローダリセット コマンドを使用) が必要です。

SCSI バーコード長は **SCSI** 読み取りエレメント データで返される最大バーコード文字数を設定します。**Web** インターフェイスとオペレータ コントロール パネル (**OCP**) 上のバーコード情報の表示には、この設定による影響はありません。

SCSI バーコード長を **0** に設定すると、バーコードの切り捨てが無効になり、**SCSI** 読み取りエレメント データには完全なバーコードが返されません。

この設定は、これまで別のデバイスによりカタログ化され、読み取り可能なバーコード文字数 (通常 **6** または **9** 文字) が限られていたメディアセットを持っている場合に特に役立ちます。**PV124T** 設定を以前のハードウェアに一致するように調整すると、ユーザーは別のデバイスでこれまで使用していたすべてのバーコードラベル付きメディアを再カタログ化する必要はありません。

バーコード長の変更時にはオートローダをリセットする必要はありません。


バーコードリーダー設定の変更方法：

- 任意のページで、**Configuration** (設定) の見出しをクリックすると、**Configuration** (設定) 画面が表示されます。
- Barcode Reader** (バーコードリーダー) セクションから使用する **Enable/Disable** (有効/無効) オプションと **Barcode Length** (バーコード長) 設定を選択し、**Submit** (送信) をクリックします。
- Enable/Disable** (有効/無効) オプションが変更されると、「**This will require a power cycle and host backup software configuration change** (変更には電源の入れ直しとホスト ソフトウェアの設定変更が必要です)」というメッセージが表示されます。
- OK** を選択します。前面パネルと **Web** インターフェイスには「**Please Power Cycle** (電源を入れ直してください)」というメッセージが表示されます。
- 変更を有効にするには、パワーサイクル ([前面パネル] ボタンを使用) またはオートローダリセット (**Web** インターフェイスのエラーログと診断ページのオートローダリセット コマンドを使用) が必要です。

クリーニングテープ

Auto Clean (自動クリーニング) 機能を有効または無効にするときは、クリーニングテープカートリッジにフル スロットを指定しておくことも必要です。スロットが指定済みである場合、ボックスにはなしが表示されます。クリーニングテープ スロットの指定方法：

- Library Operations** (ライブラリ操作) ページでクリーニングテープを空のスロットにロードします。
- チェック ボックスを選択して **Auto Clean** (自動クリーニング) を有効または無効にします。自動クリーニングが有効である場合、クリーニングカートリッジは割り当てられたクリーニング スロットからクリーニングが必要とされるドライブに自動的に移動します。

 注： **Auto Clean** (自動クリーニング) を無効にすると、クリーニングテープは自動的にメディア ドアから取り出されます。クリーニングは、インストールされているバックアップパッケージが行います。

Auto Clean (自動クリーニング) の設定方法：

□□□ 任意のページで、**Configuration** (設定) の見出しをクリックします。 **Configuration** (設定) 画面が表示されます。

□□□ **Cleaning Tape** (クリーニングテープ) までスクロールします。


Auto Clean (自動クリーニング) のボックスにチェック マークが入っていたら、このオプションは有効です。 **Auto Clean** (自動クリーニング) を無効にするときは、このボックスをクリックしてチェック マークを外します。 **Auto Clean** (自動クリーニング) のボックスにチェック マークが入っていなかったら、このオプションは無効になっています。 **Auto Clean** (自動クリーニング) を有効にするときは、このボックスをクリックしてチェック マークを入れます。

□□□ **Cleaning Tape Location** (クリーニングテープの場所) フィールドに、クリーニングテープが置かれているスロットの場所を選択します。 **Auto Clean** (自動クリーニング) が無効になっている場合、クリーニングはインストールされているバックアップパッケージが代わりに行います。

□□□ **submit** (送信) をクリックします。

マガジンの設定

この設定を用いて、格納エレメントの数およびエレメント アドレスが **SCSI** ホストへ報告されます。正しい情報を報告するために、この設定は物理構成と一致する必要があります。この設定は、**SCSI** ホストへ報告される情報のみに影響を与えます。この設定は、前面パネルやリモート管理ユニットからのマガジンスロットへのアクセスには影響を与えません。これらのインターフェイスは物理構成に基づいています。

 注： オプションの右マガジンが取り付けられている場合は、デフォルト設定の「左」を再設定してください。最初にデフォルトの左マガジンのみが有効な状態でローダが取り付けられた場合は、ホスト バックアップソフトウェアで再設定が必要になる場合があります。

Both (両方) のマガジンに設定されている場合、オートローダは常に 16 個の格納エレメントについて **SCSI** ホストへ報告します。これにより、ホストへの報告内容に影響を与えることなく、マガジンの取り外しや再取り付けを行うことができます。 **Left** (左) または **Right** (右) に設定されている場合、オートローダは常に 8 個の格納エレメントについて **SCSI** ホストへ報告します。

エレメント アドレスは設定するマガジンによって異なります。 **Left** (左) または **Right** (右) を選択しているとき、物理的には両方のマガジンが取り付けられている場合、前面パネルとリモート管理ユニットから他のマガジンへのアクセスは可能ですが、**SCSI** ホストからはアクセスできません。

Magazines (マガジン) オプションの設定方法：

□□□ 任意のページで、**Configuration** (設定) の見出しをクリックします。 **Configuration** (設定) 画面が表示されます。

□□□ **Magazines** (マガジン) までスクロールします。 **Magazines** (マガジン) オプションが表示されます。

ラジオ ボタンが現在有効なモードの後に表示されます。

□□□ 次のいずれかを行ってください。

- この **Magazines** (マガジン) モードを変更せず、そのままにするときは、**Esc** を押します。
- この **Magazines** (マガジン) 設定を変更するときは、オートローダに対して行うべき設定の所までスクロールし、該当するチェックボックスに選択マークを入れ、**Submit** (送信) をクリックします。これらの設定には、**Both** (両方)、**Right** (右)、および **Left** (左) などがあります。


「This will require a power cycle and host backup software configuration change. Enter To Continue (変更には電源の入れ直しとホスト ソフトウェアの設定変更が必要です。続行するときは **Enter** を押してください)」というメッセージが表示されます。

- 変更を続行するときは、**submit** (送信) を押します。「Please power cycle the tape autoloader and reconfigure the host backup software app (テープ オートローダの電源を入れ直し、ホスト バックアップソフトウェア アプリケーションを再設定してください)」というメッセージが表示されます。

システム時間の設定


システム時間は、リモート管理ユニットから表示され、内部でイベントやエラーのログを記録するときに使用されます ([時刻の設定](#)) を参照)。

オートローダは電源投入のたびにリセットされます。タイムサーバーが設定されている場合は、時刻が自動的にリセットされます ([ネットワークオプションの設定](#)) を参照)。そうでない場合は、この時間を前面パネルまたはリモート管理ユニットから手動で設定できます。タイムゾーン設定は電源を切っても失われません。

 注：オートローダをタイムサーバーに接続するかどうかに関わらず、米国で夏時間の時刻変更を含める場合は、タイムゾーンを手動で変更する必要があります。

システム時間の設定方法：

□□ まず、**Time Zone (タイムゾーン)** の横にあるドロップダウンリストを使って、現地時刻とグリニッジ標準時 (GMT) との差異時間数を選択します。

 注：たとえば、コロラド州に住んでいる場合、この時間差は夏時間で -6 時間、冬時間で -7 時間です。

□□ **Time Zone (タイムゾーン)** フィールドの下にあるドロップダウンリストから、現在の **Month (月)** を選択します。

□□ **Day (日)** フィールドに、その月の当日値を入力します。

□□ **Year (年)** フィールドに、当年値を入力します。

□□ **Hour (時間)** テキスト ボックスに、現在時を 24 時間フォーマットで入力します。

□□ **Minute (分)** テキスト ボックスに、現在分を入力します。

□□ **Submit (送信)** をクリックして、情報を保存します。

ネットワーク オプションの設定

オートローダを設置した当初は、前面 LCD パネルを利用したイーサネット設定を用いました。ただし、その設定はリモート管理ユニットで変更が可能です。このオプションには、**Current Network Parameters (現在のネットワーク パラメータ)**、**Set IP (IP の設定)**、**Newwork Configuration (ネットワーク構成の設定)** などがあります。イーサネット設定の変更方法：

Current Network Parameters (現在のネットワーク パラメータ) の参照方法：

□□ 任意のページで、**Configuration (設定)** の見出しをクリックします。 **Configuration (設定)** 画面が表示されます。

□□ **Configuration (設定)** メニューから **Networking (ネットワーク)** をクリックします。

Current Network Parameters (現在のネットワーク パラメータ) 領域には、現在の IP アドレス、MAC アドレス、イーサネット接続の速度設定が表示されます。

Set IP (IP の設定) セクションで、**DHCP** のボックスにチェック マークが入っていたら、動的 IP アドレス オプションが有効です。これは、システムのリセットを行うたびに、ネットワーク管理者の設定に応じて IP アドレスが変更されるということです。

Set IP (IP アドレスの設定) 方法：

□□ **DHCP** フィールドが適用されている場合、そのチェック マークを取り去ってチェック ボックスの選択を解除します。

□□ IP アドレス フィールドに、<Tab> キーでボックス間を移動しながら静的 IP アドレスを入力します。

□□ **DHCP** のボックスにチェック マークが入っていなかったら、この静的 IP アドレス オプションは無効になっています。静的 IP アドレスを変更するときは、<Tab> キーでボックス間を移動しながら新たなアドレスを IP アドレス フィールドに入力します。

□□ IP アドレスを静的アドレスから動的アドレスへ切り替えるときは、**DHCP** の横のボックスをクリックします。

ネットワーク構成の設定 方法：

□□ サブネット マスク、ゲートウェイ、**SNMP (Simple Network Management Protocol)** サーバー、またはタイムサーバーの内容を変更するときは、<Tab> キーでボックス間を移動しながら新たなアドレスを入力します。

submit (送信) をクリックします。

前面パネルセキュリティ オプションの設定

セキュリティ オプションを有効にすると、ユーザーはオートローダの前面パネル機能へアクセスするためにパスワードの入力が必要になります。パスワードは管理者レベルまたはオペレータレベルのアクセスを許可します (「[セキュリティの設定](#)」を参照)。設定可能なパスワード数は管理者およびオペレータでそれぞれ 2 つまでです。セキュリティの設定方法：

- 任意のページで、**Configuration** (設定) の見出しをクリックします。 **Configuration** (設定) 画面が表示されます。
- 画面の左側にある **Security** (セキュリティ) をクリックします。画面に **System Security** (システム セキュリティ) セクションが示されず。
- 前面パネルのセキュリティを有効にするときは、**Front Panel Security Enabled** (前面パネルのセキュリティを有効にする) のチェックボックスを選択します。

このチェック ボックスが空白の場合、前面 LCD パネルのセキュリティ オプションは有効になっていません。


submit (送信) をクリックします。

前面パネルのパスワードのリセット方法：

- 任意のページで、**Configuration** (設定) の見出しをクリックします。 **Configuration** (設定) 画面が表示されます。
- 画面の左側にある **Security** (セキュリティ) をクリックします。
- Reset Front Panel Password** (前面パネルのパスワードのリセット) の横にあるチェックボックスをオンにします。チェック マークが表示されます。
- submit** (送信) をクリックします。

User Administration (ユーザー管理) の設定方法：

- 任意のページで、**Configuration** (設定) の見出しをクリックします。 **Configuration** (設定) 画面が表示されます。
- 画面の左側にある **Security** (セキュリティ) をクリックします。
- Select User Type** (ユーザー種別の選択) ドロップダウン リストから **Operator 1** (オペレータ 1)、**Operator 2** (オペレータ 2)、**Administrator 1** (管理者 1)、**Administrator 2** (管理者 2) のいずれかを選択します。
- User Name** (ユーザー名) フィールドにユーザー名を入力します。
- Password** (パスワード) フィールドに新たなパスワードを入力します。
- Verify Password** (パスワードの検証) フィールドにもう一度新たなパスワードを同じ内容で入力します。
- submit** (送信) をクリックします。

 注：現在までに定義済みのユーザーのリストを表示するには、**Select User Type** (ユーザーの種類を選択) を選択して **submit** (送信) をクリックします。

クライアント認証管理 の設定方法：

- 任意のページで、**Configuration** (設定) の見出しをクリックします。 **Configuration** (設定) 画面が表示されます。
- 画面の左側にある **Security** (セキュリティ) をクリックします。

Client Authorization Control (クライアント認証管理) までスクロールします。このセクションには、この特定のオートローダのリモート管理ユニットとの併用が承認された IP アドレスのリストがあります。IP アドレスのボックスには 2 つのセットがあります。このセットは個々に有効 / 無効および設定を行うことができます。

- 有効にした場合、各セットについて、このユニットを管理するための IP アドレスを範囲で指定することも、特定の IP アドレスのペアで指定することも可能です。このセットには、求める IP アドレスが "a" および "b" の両セットに入っている場合は、単一

の IP アドレスを指定することも可能です。セットに IP アドレスを範囲で指定すると、各アドレスセットの "b" の部分が、そのアドレスセットの "a" の部分以上となる必要があります。


- いずれのセットも有効でなければ、IP クライアントはすべてユニットを管理できます。単一セットが有効な場合は、そのセットが指定するテストに合格したクライアントのみが管理者アクセスを得ます。両方のセットが有効な場合は、2つのフィルタリングテストに合格したクライアントはすべてユニットを管理できます。

Web サーバーは、認証済みクライアント一覧もオーバーラップ制御ポリシーも関係なく、ユニットのステータス情報についてクライアントが参照することを常時認めています。

ドロップダウン ボックスを使って **Enable** (有効) または **Disabled** (無効) を選択します。

IP アドレスを該当するボックスに入力します。

submit (送信) をクリックして保存します。

 注：不正な IP アドレスを入力すると、すべての IP クライアントがロックアウトされてオートローダの管理できなくなる可能性があります。この状態が起こった場合は、前面パネルの **Configuration** (設定) メニューから **Restore Default** (デフォルトのリストア) を実行してデフォルト値をリストアできます。

Client Overlap Control (クライアント オーバーラップ制御) は、認証済みクライアント一覧上の複数クライアントからのオーバーラップ制御要求について、Web サーバーがどのように扱うかを制御する管理ポリシーです。このオプションには、**No Locking** (ロックなし)、**Full Locking** (フルロック)、**Time-Based Locking** (タイムベース ロック) があります。

- **No Locking** (ロックなし) は、複数のクライアントに対して、認証済みクライアント一覧に載る者であれば、システム管理のための無制限のアクセス権を持たせます。
- **Full Locking** (フルロック) は、同時に認証済みクライアント一名が制御要求を発行できるようにします。このクライアントは、制御アクセス権を持つその他の認証済みクライアントに許可を与えるページの上位フレームで、**Home/Logout** (ホーム / ログアウト) オプションをクリックしてロックを解除する必要があります。
- **Time-Based Locking** (タイムベース ロック) は **Full Locking** (フルロック) に似ており、同時に認証済みクライアント一名が制御アクセス権を持ちますが、このロックはアクションがないまま一定の秒数がたつと自動的に解放されます。

チェック ボックスをクリックして該当するポリシーを選択し終えたら、**submit** (送信) をクリックして変更を保存します。

任意のページで、**Configuration** (設定) の見出しをクリックします。 **Configuration** (設定) 画面が表示されます。

画面の左側にある **Security** (セキュリティ) をクリックします。


セキュリティ オプションを次の **Client Overlap Control** (クライアント オーバーラップ制御) オプションから選択します。

- **No Locking** (ロックなし) は、複数のユーザーがシステムにアクセスし、要求を発行できるようにします。
- **Full Locking** (フルロック) は、一名のユーザーのみがシステムにアクセスし、要求を発行できるようにします。
- **Time-Based Locking** (タイムベース ロック) は、一名のユーザーのみがシステムにアクセスし、要求を発行できるようにしますが、一定時間 (秒単位) アクションがないと期限切れロックがかかります。
- **Home/Logout** (ホーム / ログアウト) は、フルまたはタイムベース ロックを解放し、別のユーザーがシステムにアクセスするのを許可するときに使用します。

 注：ロックは承認済みクライアント一覧のユーザーのみが使用できます。

submit (送信) をクリックします。

ファームウェアページ


 注：オートローダのアップデートには **RMU** (リモート管理ユニット **Web** インターフェイス) を使った方法が適しています。ドライブのアップデートには、ファームウェアのアップデート パッケージに付属の **DFU** (デル ファームウェア アップデート ユーティリティ) をホス

ト **SCSI** インターフェイス全体に用いる方法が適しています。ファームウェアのアップデートパッケージに付属の **README** ファイルを参照してください。

システムアップデートはブラウザを使って探し、そのアップデートをアップロードすることができます。システムアップデートの取得方法：


□□ 任意のページで、見出しの **Firmware** (ファームウェア) をクリックします。 **Firmware Update** (ファームウェアのアップデート) 画面が表示されます。

□□ **Browse** (参照) をクリックして、そのアップデート ファイルのあるホスト システムまでナビゲートします。ファイルは **.img** 拡張子付きにする必要があります。

 注：ファームウェアのアップデートはすべて、リムーバブルメディア デバイスやネットワーク共有ドライブでなく、ローカルシステムのハードドライブにあるイメージファイルを使って実行することをお勧めします。


□□ **Upload** (アップロード) をクリックします。

□□ 確認ボックスへの応答として **OK** をクリックします。オートローダは自動的に新規コードをアップロードし、システムに対してその処理を実行します。

 注：Microsoft に関する問題があると、**RMU** インターフェイスでドライブやローダのファームウェアをアップデートできない場合があります。この問題は、**Service Pack 1 (SP1)** をインストールした **Windows Server ® 2003** 上で、または **Microsoft Security Update MS05-019** がインストールされている場合に起こることがあります。この問題が起こると、前面パネルに警告ランプが点灯し、「**6F Communication Error (6F 通信エラー)**」というメッセージが表示されます。**RMU** はオートローダの状態を **Initialization** (初期化) とレポートし続けます。

この問題に関する情報および回避策については、[Microsoft テクニカル サポート記事 898060](#) を参照してください。この問題が発生した場合は、オートローダを再スタートしてさらなる通信エラーを回避します。

□□ ファームウェアのアップデートが完了したら、ローダ、サーバーの順に電源を入れ直します。

 注：ファームウェアのアップデートが完了したら、ユニットは起動時に新しいリビジョン レベルをホストに報告します。アップデートユニットを認識するには、ホストバックアップソフトウェアの再設定が必要になる場合があります。


エラーログと診断ページ

Error Log and Diagnostics (エラーログと診断) ページから、オートローダにさまざまなテストを実行できます。さらにエラーや履歴のログ参照、進捗テスト、ラック中の物理ユニットの識別やシステムのリセットも行えます。

エラーまたは履歴ログの表示

□□ 任意のページで、**Diagnostics** (診断) の見出しをクリックします。 **Diagnostics** (診断) 画面が表示されます。

□□ **View Error and History Logs** (エラーおよび履歴ログの表示) で、**View Logs** (ログの表示) をクリックします。 **Save Logs** (ログの保存) をクリックして、ログをファイルに保存することも可能です。ログをファイルに保存する場合は、**60** 秒以内に保存先フォルダを選択する必要があります。

 注：エラー発生時に保存したログは問題の調査を行う上で有用なデータとなります。サービス担当員がこれらのログを要する場合もあります。

診断テストの実行

診断テストの実行には少なくとも **2** つのカートリッジが必要です。オートローダで利用できる診断テストは次のとおりです。

- **Loader (ローダ) — Picker Test (ピッカー テスト)**
- **Loader (ローダ) — Magazine Test (マガジン テスト)**
- **Loader (ローダ) — Inventory Test (インベントリ テスト)**
- **Random Moves (ランダム移動)**

- 任意のページから、見出しの **Error Log and Diagnostics (エラーログと診断)** をクリックします。 **Error Log and Diagnostics (エラーログと診断)** 画面が表示されます。
- **Diagnostics (診断)** セクションで、 **Test (テスト)** ドロップダウン メニューから実行する診断テストを選択します。
- 必要に応じて、ループ回数を指定します。有効な数字は 1 ～ 99 までです。
- **submit (送信)** をクリックします。
- テストの実行中は、そのテストのステータスを参照することができます。 **View Diagnostic Test Progress (診断テスト進捗の参照)** の **View Status (ステータスの参照)** をクリックします。
別の画面に実行中のテスト、その診断テストの現在のステータスが示されます。
- 診断テストの進捗を表示するには、 **View Status (ステータスの表示)** を再度クリックします。

識別

LCD バックライト要求して指定された秒数の間点滅させ、オートローダの **Identification (識別)** 機能を利用することができます。これは機材室内のオートローダの場所を識別するときに役立ちます。

- 任意のページから、見出しの **Error Log and Diagnostics (エラーログと診断)** をクリックします。 **Error Log and Diagnostics (エラーログと診断)** 画面が表示されます。
- **Identification (識別)** で、秒数を **Time (secs) [時間 (秒)]** フィールドに入力します。
- **Identify (識別)** をクリックします。オートローダの LCD バックライトが指定された秒数の間点滅します。

オートローダリセットの実行

オートローダリセットは **SCSI ID** の変更とマガジンの変更時に使用します。オートローダリセットは、テープがドライブにセットされている場合は少なくとも 3 分間、それ以外は約 30 秒かかります。オートローダリセットの実行方法：

- 任意のページから、見出しの **Error Log and Diagnostics (エラーログと診断)** をクリックします。 **Error Log and Diagnostics (エラーログと診断)** 画面が表示されます。
- **Autoloader Reset (オートローダリセット)** セクションの **Autoloader Reset (オートローダリセット)** をクリックします。

ライブラリ操作ページ


Library Operations (ライブラリ操作) ページからは、テープの移動、システムインベントリの実行、ピッカーをホーム位置へ戻すためのリセット、連続運転の実行などが可能です。 **Library Operations (ライブラリ操作)** をクリックすると、そのページが表示されます。

テープの移動

リモートの場所からは、テープをある場所から別の場所へ移動する要求が行えます。テープの移動方法：

- 任意のページで、見出しの **Library Operations (ライブラリ操作)** をクリックします。 **Library Operations (ライブラリ操作)** 画面が表示されます。

- そのページの **Moving Tapes** (テープの移動) セクションで **From: (移動元)** の下のドロップダウンメニューをクリックし、移動するテープの場所を選択します。

 注：オートローダマガジンの図にあるスロットをクリックし、カートリッジを選択して移動することも可能です。

- **To: (移動先)** の下のドロップダウンメニューからテープを移動する場所を選択し、**submit (送信)** をクリックします。

インベントリ

電源を入れたとき、またはマガジンを挿入したとき、オートローダは自動的にインベントリを実行します。インベントリをこれ以外の場面で作動させる場合は、リモート管理ユニットを使ってリモートから実行します。インベントリの実行方法：

- 任意のページで、見出しの **Library Operations** (ライブラリ操作) をクリックします。 **Library Operations** (ライブラリ操作) 画面が表示されます。
- **Library Operations** (ライブラリ操作) ページから **Inventory** (インベントリ) をクリックします。オートローダはインベントリ即座に起動します。

ホームに設定

オートローダが **Moving Tapes** (テープの移動) または **Inventory** (インベントリ) コマンドの実行を正常終了できなかった場合、**Set to Home** (ホームに設定) コマンドが実行されて、移動またはインベントリ コマンドは再度実行し直されます。

Set to Home (ホームに設定) コマンドは、オートローダが予期せぬ内部条件からの回復を支援するものとして、オートローダのリセットを行います。ホームに設定する方法：

- 任意のページで、見出しの **Library Operations** (ライブラリ操作) をクリックします。 **Library Operations** (ライブラリ操作) 画面が表示されます。
- **Library Operations** (ライブラリ操作) ページから、**Set to Home** (ホームに設定) をクリックします。これはオートローダに対するリセットコマンドを実行します。

[目次ページに戻る](#)


[目次ページに戻る](#)

前面パネル管理：Dell™ PowerVault™ 124T DLT VS160 オートローダ ユーザーズ ガイド

- [オートローダの設定](#)
- [SCSI バージョンの長さ](#)
- [SCSI ID の設定](#)
- [セキュリティの設定](#)
- [イーサネットの設定](#)
- [マガジンの設定](#)
- [時間設定](#)
- [パスワードの設定](#)
- [バーコードリーダー](#)

最初に Dell PowerVault 124T DLT VS160 オートローダの電源をオンにすると、電源投入時の自己診断テスト (POST) が自動実行されます。この POST 中は、左 (緑) の LED が点滅します。この POST が終了すると、左 (緑) と右 (黄) の LED が交互に点滅します。次のいずれかを行ってください。

- オートローダの電源投入に成功したら、オートローダの設定を続けます (「[オートローダの設定](#)」を参照)。

 注：設定を変更するには、前面パネルに 6 桁のパスワードを入力する必要があります (「[パスワードの設定](#)」を参照)。管理者に対する LCD 前面パネルのデフォルト パスワードは **000000** です。オペレータのデフォルト パスワードは **111111** です。

- オートローダが正常に電源オンされなかった場合は、次を確認します。
 - 電源スイッチがオンになっている。
 - 電源ケーブルが正しく挿し込まれている。
 - SCSI バスの終端処理が行われている。
 - オートローダとホストコンピュータとが SCSI ケーブルで接続されている。
 - オートローダの LCD にエラーコードが表示されていない。

問題を解決できない場合は、サービス代理店に連絡するか、support.dell.com を参照してください。

最初にオートローダの電源をオンにすると、IP (Internet Protocol) アドレスは静的に **192.168.20.128** に設定されます。DHCP (動的ホスト構成プロトコル) を使って IP アドレスを変更したい場合は、「[IP アドレスの設定](#)」を参照してください。DHCP を使用する場合に IP アドレスを確認するには、イーサネットステータス情報を表示します (「[SCSI ID の設定](#)」を参照)。

オートローダの設定

オートローダの設定を行うときは、前面パネルのメインメニューから操作を始めます。メインメニューが LCD 上に表示されていない場合は、**Enter** を押します。

最初にオートローダの電源をオンにすると、パスワード保護のないデフォルトが設定されます。ただし、セキュリティオプションを設定した後は、すべての設定にパスワード保護がかけられます。オートローダの設定には、システム管理者レベルのパスワードが必要です。

前面パネルのメニューには次のオプションがあります。



Dell PowerVault 124T DLT VS160 オートローダを設定するときは、次の設定を確認する必要があります。

- SCSI ID。オートローダには、単一の SCSI ID があります。
- マガジン。
- イーサネット IP アドレス (DHCP を使用していない場合)。
- SNMP サーバーの IP アドレス (SNMP を使用している場合のみ)。
- タイムサーバー IP アドレス (手動設定する場合は、タイムゾーン、日付、および時刻) — タイムサーバー 使用時のみ。
- 制御モード。
- セキュリティ オプション。

SCSI ID の設定

サーバーやワークステーションに接続される SCSI デバイスは、それぞれ固有の SCSI ID を持ちます。PowerVault 124T オートローダには SCSI ID が 1 つ必要です。

SCSI ID の設定方法：

- メインメニューが表示されていない場合は、**Enter** を押します。
- メインメニューから、**Configuration (設定)** へスクロールし、**Enter** を押します。
- **Configuratation (設定)** サブメニューから **SCSI ID** までスクロールし、**Enter** を押します。
- オートローダの **SCSI ID** に設定する番号までスクロールしてから、**Enter** を押します。パワーサイクル新規 **SCSI ID** が **LCD** に表示されます。
- **System Shutdown wait 60 sec** (システム シャットダウン 60 秒間お待ちください。) が **LCD** に表示されるまで、前面パネルの電源ボタンを押したままにします。**LCD** に **Power Off** (電源オフ) が表示されたら、オートローダはシャットオフされています。
- 電源ボタンを再度押して、オートローダの電源をオンにします。これで新たな **SCSI ID** が有効になります。

イーサネットの設定

イーサネットは、オートローダがネットワーク アクセスするときに用いられる手段です。イーサネット接続を利用することで、ネットワーク上のオートローダへのリモート アクセスが可能です。イーサネット接続を使用するときは、次の定義が必要です。

- オートローダの動的または静的 **IP** アドレス (必須)
- サブネット マスク (静的 **IP** に必須)
- **IP** ゲートウェイ (オプション)
- **SNMP (Simple Network Management Protocol)** サーバー (オプション)
- タイムサーバー、または時刻とタイムゾーンの手動設定 (オプション)

IP アドレスの設定

IP アドレスとは、ネットワークに接続されるあらゆるデバイスに付けられるアドレスです。どのデバイスにも、それぞれ固有の **IP** アドレスが必要です。**IP** アドレスは、四つの番号の組み合わせからなり、それぞれをドットで区切って示し、範囲は **0.0.0.0** から **255.255.255.255** までとなります。


IP アドレスは、不変のものとして動的に割り当てられるものとがあります。不変のものを静的アドレスと呼び、そのデバイスがネットワークに接続するときは、常に同じ値が用いられます。動的アドレスでは、そのデバイスがネットワーク サーバーに接続されるたびに、**DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol)** から異なる値が与えられます。

動的 **IP** アドレスの設定方法：

- メインメニューから **Configuration (設定)** へスクロールし、**Enter** を押します。
- **Configuration (設定)** メニューから **Ethernet (イーサネット)** までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Ethernet (イーサネット)** サブメニューから **Set IP (IP の設定)** までスクロールし、**Enter** を押します。
- **DHCP** までスクロールし、**Enter** を押します。

静的 **IP** アドレスの設定方法：

- メインメニューから **Configuration (設定)** へスクロールし、**Enter** を押します。
- **Configuration (設定)** メニューから **Ethernet (イーサネット)** までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Ethernet (イーサネット)** サブメニューから **Set IP (IP の設定)** までスクロールし、**Enter** を押します。


- **Static IP (静的 IP)** までスクロールし、**Enter** を押します。1 桁目にカーソルが自動表示されます。
- IP アドレスの各位置では上下の矢印を使用して各数値を変更できます。**Enter** を押すとカーソルは次の桁へ進みます。
IP アドレスの数字を入力し終わると、オートローダから保存のための **Enter** が表示されます。
-  注：間違えた場合は、**Escape** を押して、変更する数字に戻ります。

- **Enter** を押します。**Configuration (設定)** サブメニューが表示され、静的 IP が有効になります。オートローダをリポートする必要はありません。
- **Escape (Esc)** または **Enter** を押すと、イーサネット サブメニューに戻ります。

サブネットマスクの設定


サブネットマスク作成とは、IP ネットワークを連続したサブグループ、またはサブネットに分割して、性能やセキュリティ面の改善を図る手段の一つです。

サブネットマスクの設定方法：

- メインメニューから **Configuration (設定)** へスクロールし、**Enter** を押します。
- **Configuration (設定)** メニューから **Ethernet (イーサネット)** までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Ethernet (イーサネット)** サブメニューから **Set Subnet Mask (サブネットマスクの設定)** までスクロールし、**Enter** を押します。
- サブネットマスクアドレスの各位置では、上下の矢印を使用してそれぞれの数値を変更できます。**Enter** を押すとカーソルは次の桁へ進みます。
サブネットマスクアドレスの全桁を進み終わると、オートローダから保存のための **Enter** が表示されます。
-  注：間違えた場合は、**Escape** を押して、変更する数字に戻ります。

- **Enter** を押します。**New Subnet Mask xxx.xxx.xxx.xxx** (新規サブネットマスク **xxx.xxx.xxx.xxx**) が LCD に表示されます。
オートローダをリポートする必要はありません。
- **Escape (Esc)** または **Enter** を押すと、イーサネット サブメニューに戻ります。

IP ゲートウェイの設定


- メインメニューから **Configuration (設定)** へスクロールし、**Enter** を押します。
- **Configuration (設定)** メニューから **Ethernet (イーサネット)** までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Ethernet (イーサネット)** サブメニューから **Set Gateway (ゲートウェイの設定)** までスクロールし、**Enter** を押します。1 桁目にカーソルが自動表示されます。
- ゲートウェイアドレスの各位置では、上下の矢印を使用してそれぞれの数値を変更できます。**Enter** を押すとカーソルは次の桁へ進みます。
ゲートウェイアドレスの全桁を進み終わると、オートローダから保存のための **Enter to save (Enter 押して保存)** が表示されません。
-  注：間違えた場合は、**Escape** を押して、変更する数字に戻ります。

- **Enter** を押します。**New Gateway is xxx.xxx.xxx.xxx** (新規ゲートウェイは **xxx.xxx.xxx.xxx**) と LCD に表示されます。
オートローダをリポートする必要はありません。

- **Escape (Esc)** または **Enter** を押すと、イーサネット サブメニューに戻ります。

SNMP サーバーの設定


SNMP サーバーは、各ネットワークデバイス (ハブ、ルーター、ブリッジなど) のレポートアクティビティ処理を通じてネットワークの監視を行います。サーバーは、この情報を用いて、各デバイスから取得可能なものと制御可能な動作 (電源オフ/オンなど) を特定します。

 注：PV124T SNMP エージェントは MIB-II 変数グループのみをサポートします。MIB は「コールドスタートトラップ」と一般に呼ばれる、SNMP ホストに (設定済みの場合に) 送信される電源オン通知機能を搭載しています。埋め込み Web サーバー ユーザー インターフェイスは SNMP サーバーの設定に対応しています。ただし、SNMP によるテープ情報の可用性、テープ イベント用の SNMP トラップ、SNMP によるグローバルテープステータス情報の可用性、SNMP を使ってローダをテープ デバイスとして分類するための情報の可用性などの拡張 SNMP 機能には対応していません。

SNMP サーバーの設定方法：

- メインメニューから **Configuration (設定)** ヘスクロールし、**Enter** を押します。
- **Configuration (設定)** メニューから **Ethernet (イーサネット)** までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Ethernet (イーサネット)** サブメニューから **Set SNMP Server (SNMP サーバーの設定)** までスクロールし、**Enter** を押します。1 桁目にカーソルが自動表示されます。
- SNMP サーバー アドレスの各位置では、上下の矢印を使用してそれぞれの数値を変更できます。**Enter** を押すとカーソルは次の桁へ進みます。

SNMP サーバー アドレスの全桁を進み終わると、オートローダから保存のための **Enter** が表示されます。

 注：間違えた場合は、**Escape** を押して、変更する数字に戻ります。

- **Enter** を押します。New SNMP Server xxx.xxx.xxx.xxx (新規 SNMP サーバー xxx.xxx.xxx.xxx) と LCD に表示されます。オートローダをリポートする必要はありません。
- **Escape (Esc)** または **Enter** を押すと、イーサネット サブメニューに戻ります。

時間設定

システム時間はリモート管理ユニットによって表示され、内部でイベントやエラーのログを記録するときに使用されます。システム時間は、一般時刻または電源オン時間として表されます。一般時刻は、月/日/年時刻の形式で、たとえば「Nov/21/2004 19:28」のように表されます。電源オン時間は、電源サイクル (POC)/Power On Hours (電源オン時間、POH) です。たとえば、「POC: 00121, POH: 00002:07:45」のように表され、POC は製造されて以来の累積ブート時間、POH は最後にシステムブートしたからの時間、分、および秒数が示されます。一般時刻がわかっている場合、それを用い、わからない場合は電源オン時間を用います。

PowerVault 124T オートローダは電源投入のたびにリセットされます。タイムサーバーが設定されている場合は、時間は自動的にリセットされません ([タイムサーバーの設定](#) を参照)。


タイムサーバーの設定

SNTP (Simple Network Time Protocol) と互換のあるタイムサーバーを見つけた場合、正確な日時を提供するサーバーにそのオートローダを接続することが可能です。オートローダは、この情報を用いて、そのメモリ内の情報にタイムスタンプを押します。

タイムサーバーの設定方法：

- メインメニューから **Configuration** (設定) へスクロールし、**Enter** を押します。
- **Configuration** (設定) メニューから **Ethernet** (イーサネット) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Ethernet** (イーサネット) サブメニューから **Set Time Server** (タイムサーバーの設定) までスクロールし、**Enter** を押します。1 桁目にカーソルが自動表示されます。
- タイムサーバー アドレスの各位置では、上下の矢印を使用してそれぞれの数値を変更できます。**Enter** を押すとカーソルは次の桁へ進みます。

タイムサーバー アドレスの全桁を進み終わると、オートローダから保存のための **Enter** が表示されます。

 注：間違えた場合は、**Escape** を押して、変更する数字に戻ります。

- **Enter** を押します。New Time Server xxx.xxx.xxx.xxx (新規 SNMP サーバー xxx.xxx.xxx.xxx) と LCD に表示されます。オートローダをリポートする必要はありません。
- **Escape (Esc)** または **Enter** を押すと、イーサネット サブメニューに戻ります。

タイムゾーンの設定方法：

- メインメニューから **Configuration** (設定) へスクロールし、**Enter** を押します。
- **Configuration** (設定) メニューから **Time** (時間) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Time** (時間) サブメニューから **Set Time zone** (タイムゾーンの設定) までスクロールし、**Enter** を押します。**Time Zone** (タイムゾーン) 画面が表示され、時間設定が可能になります。1 桁目にカーソルが自動表示されます。
- スクロールして、現地時刻とグリニッジ標準時 (GMT) との間の時差の時間数を設定します。
- スクロールして、現地時刻と GMT との間の時差の分数を設定し、**Enter** を押します。新たなタイムゾーンが設定されます。
- 必要に応じて、**Escape (Esc)** または **Enter** を押してメインメニューに戻ります。

日時の設定方法：

- メインメニューから **Configuration** (設定) へスクロールし、**Enter** を押します。
- **Configuration** (設定) メニューから **Time** (時間) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Time** (時間) サブメニューから **Set Date/Time** (日時の設定) までスクロールし、**Enter** を押します。**Date/Time** (日時) 画面が表示され、日時設定が可能になります。1 桁目にカーソルが自動表示されます。
- 先頭の 4 桁は現在の年を表します。年の各位置では、上下の矢印を使用してそれぞれの数値を変更できます。**Enter** を押すとカーソルは次の桁へ進みます。
- 次の 2 桁は現在の月を表します。月の各位置では、上下の矢印を使用してそれぞれの数値を変更できます。**Enter** を押すとカーソルは次の桁へ進みます。
- 次の 2 桁は現在の日を表します。日の各位置では、上下の矢印を使用してそれぞれの数値を変更できます。**Enter** を押すとカーソルは次の桁へ進みます。
- 次の 2 桁は現在の時を表します。時の各位置では、上下の矢印を使用してそれぞれの数値を変更できます。**Enter** を押します。
- 最後の 2 桁は現在の分を表します。分の各位置では、上下の矢印を使用してそれぞれの数値を変更できます。**Enter** を押すとカーソルは次の桁へ進みます。
- **Enter** を押して保存します。
- 必要に応じて、**Escape (Esc)** を押してメインメニューに戻ります。

バーコードリーダー

バーコードリーダーはオペレータコントロールパネル (OCP) から有効または無効にできます。バーコードリーダーを無効にすると、バーコードリーダーがラベル情報を読み取らないように設定できます。バーコードラベルを使用していない場合は、バーコードリーダーを無効にすると初期化時間を短縮できます。

変更を有効にするには、パワーサイクル ([前面パネル] ボタンを使用) またはオートローダリセット (Web インターフェイスの **Error Log** (エラーログ) と診断ページのオートローダリセット コマンドを使用) が必要です。

バーコードリーダー設定の変更方法：

- メインメニューから **Configuration** (設定) へスクロールし、**Enter** を押します。
 - **Configuration** (設定) メニューから **Barcode Reader** (バーコードリーダー) までスクロールし、**Enter** を押します。
 - **Barcode Enabled** (有効なバーコード) または **Barcode Disabled** (無効なバーコード) の前にチェックマークが表示され、現在の設定を示します。希望の設定までスクロールし、**Enter** を押します。
 - 必要に応じて、**Esc** を押してメインメニューに戻ります。
 - 要求どおりにオートローダの電源を入れ直します。
-

SCSI バーコードの長さ

SCSI バーコードの長さは SCSI 読み取りエレメント データで返される最大バーコード文字数を設定します。Web インターフェイスとオペレータコントロールパネル (OCP) 上のバーコード情報の表示には、この設定による影響はありません。

SCSI バーコードの長さを **0** に設定すると、バーコードの切り捨てが無効になり、SCSI 読み取りエレメント データには完全なバーコードが返されます。

この設定は、これまで別のデバイスによりカタログ化され、読み取り可能なバーコード文字数 (通常 **6** または **9** 文字) が限られていたメディアセットを持っている場合に特に役立ちます。PV124T 設定を以前のハードウェアに一致するように調整すると、ユーザーは別のデバイスでこれまで使用していたすべてのバーコードラベル付きメディアを再カタログ化する必要はありません。

SCSI バーコード設定の変更方法：

- メインメニューから **Configuration** (設定) へスクロールし、**Enter** を押します。
 - **Configuration** (設定) メニューから **SCSI Barcode** (SCSI バーコード) までスクロールし、**Enter** を押します。
 - 希望の設定 (**0** ~ **15**) までスクロールし、**Enter** を押します。
 - 必要に応じて、**Esc** を押してメインメニューに戻ります。この変更時にはオートローダをリセットする必要はありません。
-


マガジンの設定

場合によっては、オートローダ所有者は ISV (独立ソフトウェアベンダ) のライセンス料として、1 台構成であるのに、マガジン 2 台分のオートローダを請求されることがあります。これは、実際のマガジン構成台数に関わらず、その ISV ソフトウェアがオートローダを二台分のデバイス構成として登録していたために起こっていたことです。オートローダのマガジン数はユーザー設定が可能です。デフォルト設定は **Left** (左) です。

マガジン台数の設定方法：

- メインメニューから **Configuration** (設定) へスクロールし、**Enter** を押します。
- **Configuration** (設定) メニューから **Magazines** (マガジン) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Magazines** (マガジン) メニューから、**Right** (右)、**Left** (左)、または **Both** (両方) を選択して、オートローダに取り付けられたマガジンを

示します。

 注：オプションの右マガジンが取り付けられている場合は、デフォルト設定を再設定してください。別のメディアの場所をサポートするには、ホスト バックアップ ソフトウェアで設定変更を行わないといけない場合もあります。

セキュリティの設定

オートローダ機能にパスワード保護をかけて前面パネルにセキュリティを加えることができます。このセキュリティ設定は前面パネルの機能のみを保護します。デフォルト設定は **Off** (オフ) で、この場合、パスワードは不要です。しかし、セキュリティ オプションを有効にすると、ユーザーは機能へアクセスするためにパスワードの入力が必要となります。

セキュリティ オプション

初めてオートローダの電源をオンにしたときは、セキュリティ オプションは **Off** (オフ) に設定されています。セキュリティ オプションを有効にするときは、次の手順にしたがいます。パスワードの設定には、システム管理者レベルのパスワードが必要です。

セキュリティ オプションの設定方法：

- メインメニューから **Configuration** (設定) へスクロールし、**Enter** を押します。
- **Configuration** (設定) メニューから **Security** (セキュリティ) までスクロールします。単語の前にチェック マークが表示される場合は、セキュリティ オプションが **On** (オン) になっています。チェックマークがない場合、セキュリティ オプションは **Off** (オフ) です。
- **Enter** を押します。管理者としてログインしていない場合は、**Enter** を再度押してログインします。
- オプションを変更するときは、**Enter** を押します。たとえば、セキュリティ オプションが **On** (オン) に設定されていた場合、ここで **Off** (オフ) に設定すると、チェックマークの表示が消えます。

パスワードの設定


オートローダの運用機能は多くがパスワード保護をかけてデータの保全を図ることができます。パスワードは、管理者レベルからオペレータレベルまでの設定が可能です。オペレータレベルのユーザーは、**Command** (コマンド) および **Status** (ステータス) メニューへのアクセス権を持ちます。管理者レベルのユーザーは、全機能へのアクセス権を持ちます。

パスワードの設定方法：

- メインメニューから **Configuration** (設定) へスクロールし、**Enter** を押します。
- **Configuration** (設定) メニューから **Set Password** (パスワードの設定) までスクロールし、**Enter** を押します。
- パスワードをオペレータレベルに設定するときは、**Operator** (オペレータ) までスクロールします。パスワードを管理者レベルに設定するときは、**Administrator** (管理者) までスクロールし、**Enter** を押します。**Set Password** (パスワードの設定) 画面が表示されます。
- **Enter** を押します。管理者としてログインしていない場合は、**Enter** を再度押してログインします。

このテキスト ボックスの中で、パスワードの先頭の文字までスクロールします。自動的にパスワード先頭の数字の所にカーソルが現れます。


- パスワードの各位置では、上下の矢印を使用してそれぞれの数値を変更できます。**Enter** を押すとカーソルは次の数字へ進みます。

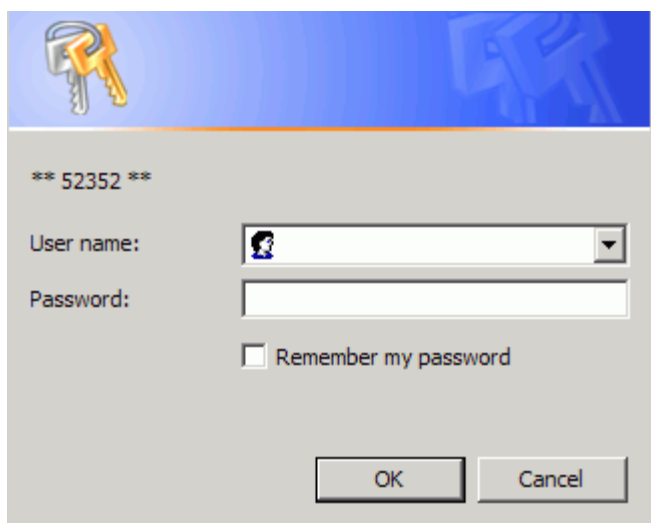
 注：間違えた場合は、**Escape** を押して、変更する数字に戻ります。

- 6つの数字を入力すると、オートローダに **Submit Password** (パスワードの送信) が表示されます。
- **Enter** を押してパスワードを送信します。 **Password Successfully changed** (パスワード変更完了) が **LCD** に表示されます。
- **Enter** を押します。オペレータおよび管理者のオプションが再表示されます。ここで別のパスワードを入力するか、必要に応じて、 **Escape (Esc)** または **Enter** を押してメインメニューに戻ることができます。

パスワードを紛失したとき

管理者レベルのパスワードを忘れてしまうと、オートローダで新たなパスワードを入力するための機能にアクセスできなくなってしまいます。この場合は、support.dell.com に連絡する必要があります。電話をかける際は、オートローダをイーサネットに接続し、リモート管理ユニットを開いてください。

 注：リモート管理ユニットから前面パネルのパスワードを出荷時のデフォルトにリセットすることもできます。ただし、リモート管理ユニットのパスワードをなくした場合は、support.dell.com に連絡する必要があります。support.dell.com に連絡するときには、ホストコンピュータの前でリモート管理ユニットをオンラインにしてください。メイン画面の **Configuration (設定)** をクリックします。**Enter Network Password** (ネットワークパスワード) または **User name (ユーザー名)** の入力画面が表示されます。カスタマサポートの担当は、パスワードを探してリセットするためにアスタリスクで囲まれた番号が必要です。これがあなたの「領域番号」です。



** 52352 **

User name:

Password:

Remember my password

OK Cancel

[目次ページに戻る](#)


[目次ページに戻る](#)

診断：Dell™ PowerVault™ 124T DLT VS160 オートローダユーザーズガイド

- [前面パネルからの診断テスト](#)
- [リモート管理ユニットの診断テスト](#)

前面パネルからの診断テスト

診断テストを使用すると、オートローダパーツのキャリブレーション、パーツ状態のチェック、オートローダ機能のテストなどができます。診断テストはすべて前面パネルから実行可能です。手動でカートリッジを少なくとも 2 つ挿入しなければならないテストもあるため、リモート管理ユニットを使って診断テストを実行できるのは一部だけです（「[リモート管理ユニットの診断テスト](#)」を参照）。

 注：リモート管理ユニットからはすべての診断テストを要求できますが、カートリッジのセットを要するテストでは、制限時間以内にカートリッジを手動でセットしない限り、タイムアウトになってしまいます。

セキュリティの設定

セキュリティ機能を有効にすると、診断テストにはパスワード保護がかかり、データ保全が図られます。診断テストのいずれにアクセスする場合も、まずは管理者パスワードの入力が必要です。このパスワードが入力されていない場合、診断テストを実行しようとするパスワードの入力が要求されます。

以下のようにコマンドメニューからパスワードを入力することもできます。

- 任意のメニューで、見出しの **Commands** (コマンド) をクリックします。 **Commands** (コマンド) 画面が表示されます。
- **Commands** (コマンド) サブメニューから **Enter Password** (パスワードの入力) までスクロールし、**Enter** を押します。
- **Enter Password** (パスワードの入力) サブメニューから **Administrator** (管理者) までスクロールし、**Enter** を押します。
- このテキストボックスで、パスワードの先頭の数字までスクロールし、**Enter** を押します。
- 手順 4 を繰り返して、パスワードの残りの数字を入力します。

 注：必要に応じて、**Escape** を押して前のテキストボックスに戻ります。

パスワード入力が完了すると、**Submit Password** (パスワードの送信) が LCD のアスタリスクの下に表示されます。

- **Enter** を押してパスワードを送信します。表示は **Enter Password** (パスワードの入力) サブメニューに戻ります。

診断テストの停止

診断テストの実行中、停止が必要になる場合があります。診断テストの実行中にテストを停止する場合は、**End Curr. Test** (現在のテストの終了) 機能を使います。**End Curr. Test** (現在のテストの終了) を選択すると、ピッカーまたはマガジンの機能が完了し、診断テストが停止します。

前面パネルからのテストの終了方法：

- 停止する診断テストの実行中に、**Escape (Esc)** を押します。 **Diagnostics** (診断) サブメニューが表示されます。
- サブメニューから **End Curr. Test** (現在のテストの終了) までスクロールし、**Enter** を押します。ユーザーが破棄が表示されます。

□□□ **Enter** を押して **Diagnostics** (診断) サブメニューに戻ります。テスト結果は、リモート管理ユニットを参照します。

リモート管理ユニットからのテストの停止方法：

□□□ エラー ログと診断ページの **Diagnostics** (診断) テストのセクションから **Stop Test** (テストの停止) ボタンを選択します。

□□□ **View Status** (ステータスの参照) を選択して、コマンドの結果を参照します。**Test Stopped** (テスト停止) がテスト結果と一緒に表示されます。

前面パネル診断テスト

次の診断テストは前面パネルから実行可能です。


- **Picker Test** (ピッカー テスト)
- **Magazine Test** (マガジン テスト)
- **Inventory Test** (インベントリ テスト)
- **Random Moves** (ランダム移動)

前面パネル診断テストの実行方法：

□□□ 任意のメニューで、見出しの **Diagnostics** (診断) をクリックします。**Diagnostics** (診断) 画面が表示されます。

□□□ 実行するテストまでスクロールし、**Enter** を押します。

すでに管理者としてログイン済みであれば、テストは即座に実行を開始します。テストが実行されている最中は **Running Test** (テスト実行中) のメッセージが表示されます。

 注：各テストは完了までに 30 秒から数分かかります。テストを途中で中止するには、「[診断テストの停止](#)」を参照してください。

□□□ ログインしていない場合、管理者パスワードの入力要求があります。次を行います。

- 前面パネルから、**Up** (上) または **Down** (下) スクロール矢印を使って各桁を選択し、**Enter** で次の桁へ移動して管理者パスワードを入力します。前の桁へ戻るときは、**Escape (Esc)** を押します。パスワードの 6 桁をすべて入力し終わると、再度、パスワード送信のための **Enter** の入力要求があります。パスワードが正しくない場合、同様の手順で再入力要求があります。正しければ、**Diagnostics** (診断) メニューに戻ります。**Enter** を入力して必要とするテストを実行します。

テストの進行中は、**Running Test** (テスト実行中) が表示されます。テストを途中で中止するには、「[診断テストの停止](#)」を参照してください。

□□□ テストが正常に終了したら、**Enter** を押して **Diagnostic** (診断) テストメニューに戻ります。テスト結果の詳細を見るには、リモート管理ユニットを使って診断テストステータスを検索します(「[診断テストの実行](#)」を参照)。

リモート管理ユニットの診断テスト

診断テストの中には、少なくとも 2 つのカートリッジをオートローダに挿入しなければならないものがあるため、それらのテストをリモート環境から実行することはできません。リモート管理ユニットから実行可能な診断テストは次のとおりです。

- **Loader** (ローダ) — **Picker Test** (ピッカー テスト)
- **Loader** (ローダ) — **Magazine Test** (マガジン テスト)
- **Loader** (ローダ) — **Inventory Test** (インベントリ テスト)

- **Random Moves** (ランダム移動)



注：リモート管理ユニットからはすべての診断テストを要求できますが、カートリッジのセットを要するテストでは、制限時間以内にカートリッジを手動でセットしない限り、タイムアウトになってしまいます。

リモート管理ユニットを使った診断

多くのテストはリモート管理ユニットからでも実行可能です。リモート管理ユニット診断テストの実行方法：

- **Web** ブラウザを開き、オートローダに接続します。リモート管理ユニットのメインメニューが表示されます。
- 見出しの **Error Logs and Diagnostics** (エラーログと診断) をクリックします。ログイン ウィンドウが表示されます。
- 管理者ユーザー名とパスワードを入力し、**Enter** をクリックします。**Diagnostics** (診断) サブメニューが表示されます。
- 実行するテストを **Diagnostics** (診断) ドロップダウンメニューから選択し、**submit** (送信) をクリックします。

選択した診断テストが実行されます。テストの実行中は、そのテストのステータスを参照することができます。ステータスを参照するときは、**View Diagnostic Test Progress** (診断テスト進行状況の表示) セクションの **View Status** (ステータスの表示) をクリックします。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

トラブルシューティング：Dell™ PowerVault™ 124T DLT VS160 オートローダ ユーザーズ ガイド

- [カスタマサポートまでお問い合わせの前に](#)
- [オペレータ コントロールパネル エラーの表示](#)
- [エラー チェック](#)
- [オートローダのログ](#)
- [TapeAlert ログ](#)
- [保守サービスのためのオートローダの返送](#)

カスタマサポートまでお問い合わせの前に

オートローダの使用中に発生するエラーは、単純な接続問題から複雑なハードウェアの障害まで幅広くあります。オートローダを返送される前に、次に示すいくつかの基本的なトラブルシューティング手順を踏むことで、ご自身で問題を解決できる場合があります。

Dell PowerVault 124T オートローダで推奨される定期メンテナンス作業はドライブのクリーニング以外には何もありません。

オートローダの前面にあるオペレータ コントロール パネルにもいくつかのトラブルシューティング機能がありますが、限られたもののみです。リモート管理ユニットには、オートローダの現在の状態や過去のパフォーマンス、その他エラーのトラブルシューティングに役立つ詳しい情報が提供されています。

- ➡ **通知：** オートローダの電源を入れ直す必要がある場合は、電源を切ってから少なくとも **10 秒間**は電源を入れしないでください。これにより、電源のすべてのキャパシタが放電する時間ができ、システムが完全にリセットされます。放電の時間を取らないと、システムが正しくブートできず、空白の **LCD** スクリーンが表示されることがあります。問題をクリアするために、少なくとも **10 秒**待ってからもう一度電源を入れ直します。

次の表では、起こりうる問題に関する一般的な原因や推奨される対処法について説明します。

表 1：基本的なトラブルシューティング

問題	一般的な原因	推奨される処置
前面パネルからの情報表示はありません。	LCD への接続に障害があります。	<ul style="list-style-type: none"> ● エラーのトラブルシューティングには、リモート管理ユニットを使います。
前面パネル LCD ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。	エラーが発生しました。	<ul style="list-style-type: none"> ● 「前面パネルエラーの表示」を参照してください。
オートローダは通常よりもゆっくり動作しています。	オートローダ、システムハードウェア、またはホスト バック	<ul style="list-style-type: none"> ● 設定の要件については、support.dell.com を参照してください。

	アップソフトウェアが正しく設定されていません。	
オートローダに電源が入りません。	電源ケーブルまたは電源供給元に障害があります。オートローダの後部の電源スイッチがオンになっていません。	<ul style="list-style-type: none"> コンセントと電源ケーブルのすべての接続をチェックしてください。 後部の電源スイッチがオンになっていることを確認してください。 support.dell.com にお問い合わせください。
前面パネルからの情報表示はありませんが、その上の照明インジケータが点灯していません。	一時的に電源が中断されたことでオートローダの電源が切れてしまい、その後、電源のすべてのキャパシタが放電される前に電源が入りました。	<ul style="list-style-type: none"> 前面パネルの電源スイッチを 15 秒間押し続けてから、後部の電源スイッチをオフにしてください。 60 秒間待ってから、後部の電源スイッチの電源をオンに戻してください。 support.dell.com にお問い合わせください。
オートローダが SCSI バス経由でホストシステムと通信を行っていません。	SCSI ケーブルパス内で問題が発生したために通信障害が起きています。	<ul style="list-style-type: none"> オートローダ後部の SCSI ケーブルの接続と LVD ホスト コントローラカードが正しく取り付けられていることを確認してください。 SCSI ケーブルが損傷を負ったり無理に曲げられたりしていないこと、SCSI ケーブルの全長が最大長を超えていないことを確認してください。 LVD SCSI ターミネータが SCSI バス上の先頭と最後の SCSI デバイスに取り付けられていることを確認してください。 オートローダの SCSI ID が、同一 SCSI バス上の別の SCSI デバイスで使用していない固有な SCSI ID に設定されていることを確認してください。 ホストバスアダプタが Dell PowerVault 124T で使用できるかどうかを support.dell.com で確認してください。 リモート管理ユニット診断 ページを使うか、前面パネルから電源をオフにして、Autoloader Reset (オートローダリセット) を発行してください。 support.dell.com にお問い合わせください。
テープドライブは SCSI バスでホストに応答していますが、オートローダが応答していません。	システム設定問題により通信障害が起きています。	<ul style="list-style-type: none"> SCSI ID に重複がなければ、ケーブルとターミネータの接続を確認してください。 ホストアプリケーションとデバイスドライバにオートローダサポートのための最新パッチが正しく適用済みであることを確認してください。 LUN スキャンがホストバスアダプタで有効になっていることを確認してください。 support.dell.com にお問い合わせください。
オートローダがイーサネット経由でホストシステムと通信を行っていません。	イーサネットケーブルまたはネットワーク設定の問題により通信障害が起きています。	<ul style="list-style-type: none"> イーサネットケーブルが正しくハブに接続されていることを確認してください。 前面パネル LCD でイーサネット設定を確認してください。DHCP サーバーが利用可能であれば、イーサネットステータスは DHCP を示すはずですが、そうならない場合は、固有の静的 IP アドレスとサブネットマスクを設定する必要があります。オートローダの静的 IP ア

		<p>ドレスはホストと同じサブネット上になければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ホスト システムに直接接続されている場合は、クロスオーバー ケーブルを使用する必要があります。 前面ネル LCD からシステムをオフにしてオートローダの電源を切り、少なくとも 10 秒 待ってから電源を入れ直します。 support.dell.com にお問い合わせください。
<p>アプリケーション ソフトウェアからメディアが見つからない、または要求どおりにメディアを移動できない障害が報告されています。</p>	<p>現在のホスト バックアップ ソフトウェアまたはオートローダ インベントリが失われました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> リモート管理ユニット ツールでメディアがオートローダ内のあるべき場所に存在していることを確認してください。 リモート管理ユニット診断ツールを使って、ローダインベントリテスト を実行します。 リモート管理ユニット診断ツールを使って、ランダム移動 テストを実行します。注：このテストでは少なくとも 2 つ のメディアが必要となります。 リモート管理ユニット診断 ページを使うか、前面パネルから電源をオフにして、Autoloader Reset (オートローダ リセット) を発行してください。 ソフトウェア アプリケーション内でインベントリを再試行してください。 support.dell.com にお問い合わせください。
<p>アプリケーション ソフトウェアからメディアの読み取りまたは書き込み中のエラーが報告されています。</p>	<p>現在のメディアに障害があるか、内部テープ ドライブの掃除が必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 別のメディアで試してください。 クリーニング カートリッジを使って内部テープ ドライブを掃除してください。 リモート管理ユニット診断 ページを使うか、前面パネルから電源を入れ直して、Autoloader Reset (オートローダ リセット) を発行してください。 ソフトウェア アプリケーション内でジョブを再試行してください。 support.dell.com にお問い合わせください。
<p>その他の障害が発生していません。</p>		<ul style="list-style-type: none"> エラー固有の説明については、「前面パネル エラーの表示」を参照してください。 リモート管理ユニット診断 ページを使うか、前面パネル LCD から電源をオフにして、Autoloader Reset (オートローダ リセット) を発行してください。 support.dell.com にお問い合わせください。

オペレータ コントロール パネル エラーの表示

オペレータ コントロール パネル (OCP) はオペレータ入力およびステータスとエラー情報出力の表示に使用します。オートローダ ハードウェアにより生成されたエラーは、**Dell PowerVault 124T** に固有のエラー コードを返します。これらのエラー コードはエラーの簡単な説明と一緒に

OCP に表示されます。Dell PowerVault 124T のエラー コードに関する詳細情報と推奨される処置については[表 2](#) を参照してください。

内部テープ ドライブにより生成されたエラーは業界標準 **TapeAlert** で表示されます。**TapeAlert** もエラーの簡単な説明と一緒に OCP に表示されます。TapeAlert の詳細情報と推奨される処置については[表 3](#) を参照してください。

エラーのチェック

エラーとは、オートローダの動作中に起こる問題のことです。これらはオートローダがなすべき特定処理の遂行を阻害するものです。エラー発生時は、次の二種類が起こりえます。

- エラー メッセージはオペレータ コントロール パネル (OCP) またはリモート管理ユニット (RMU) 画面に表示されます。
- エラーメッセージの表示はないが、オートローダの処理が異常終了する。

いずれの事象が発生した場合も、システムはエラーログを生成します。これらのエラーログを利用することで、エラーの種別、発生日時、オートローダのどの部分に影響をあたえるか、などを確認することができます。オートローダと内部テープ ドライブでは、生成されるエラー ログの種類は異なります。

- [オートローダのログ](#) にはオートローダまたはオートローダ内のデータ カートリッジの移動に関するエラー情報が含まれています。
- [TapeAlert ログ](#) にはオートローダ内のテープ ドライブにより報告されたエラー情報が含まれています。

オートローダのログ

オートローダのエラーログ情報は、以下の 3 つの方法のいずれかを使って取得できます。

- オペレータ コントロール パネル (OCP)
- リモート管理ユニット (RMU) の画面への表示
- コールセンターの診断用に RMU を介してテキスト ファイルに保存された詳細ログ

Dell PowerVault 124T のエラー コードに関する詳細情報と推奨される処置については[表 2](#) を参照してください。

OCP を介したオートローダのログ

前面パネルからハードエラー ログ情報を表示する方法：

- 前面パネル LCD から **Diagnostics** (診断) までスクロールし、**Enter** を押します。**Diagnostics** (診断) サブメニューが表示されます。
- **Diagnostics** (診断) サブメニューから **Error Logs** (エラー ログ) までスクロールし、**Enter** を押します。**Error Logs** (エラー ログ) サブメニューが表示されます。
- **Error Logs** (エラーログ) サブメニューから **Hard** (ハード) までスクロールし、**Enter** を押します。ログ情報が表示されます。
- ハードログ エントリ内では上下にスクロールできます。最新のエントリが、表示される最も高いイベント番号に関連付けられます。

RMU を介したオートローダのログ

ハードエラー ログ情報を表示 / リモート管理ユニットからログをすべて保存する方法：

□□□ **RMU** 内から **Diagnostics** (診断) の見出しをクリックします。**Diagnostics** (診断) 画面が表示されます。

□□□ **View Logs** (ログの表示) をクリックし、ハードエラー ログを表示します。最新のエントリが、表示される最も高いイベント番号に関連付けられます。

□□□ 詳細なログ情報を含んだファイルを持っていると、サポートを受ける際に特に役に立ちます。ログをローカル テキスト ファイルに保存する場合は、**Save Logs** (ログの保存) をクリックします。

表 2：オートローダのエラー詳細

エラーの種類	説明	推奨される処置
オートローダのオペレーティングシステム エラー タイプ		
01	Resource Deleted (リソースが削除されました)	<p>01 ~ 25 までのエラーは、予期しないイベントがオートローダの内部オペレーティングシステムで発生したことを示します。オートローダの内部オペレーティングシステムは ThreadX と呼ばれ、エラー メッセージによっては先頭に「TX」と表記されるものもあります。</p> <p>これらのイベントでは以下の操作を行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> オートローダのパワーサイクルを行います。 リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。 <p>注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも 2 つのカートリッジが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> PowerVault 124T ファームウェアのアップデートについては、support.dell.com から確認を行ってください。 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
02	Pool Error (プール エラー)	
03	Pointer Error (ポイント エラー)	
04	Wait Error (待機エラー)	
05	Size Error (サイズ エラー)	
06	Group Error (グループ エラー)	
07	No Event Timeout (イベント タイムアウトなし)	
08	Option Error (オプション エラー)	
09	Queue Error (キュー エラー)	
0A	Queue Empty (キューが空)	
0B	Queue Full (キューが一杯)	
0C	Semaphore Error (セマフォ エラー)	
0D	Semaphore Timeout (セマフォ タイムアウト)	
0E	Thread Error (スレッド エラー)	
0F	Priority Error (優先順位エラー)	
10	Start Error (起動エラー)	
11	Delete Error (削除エラー)	
12	Resume Error (再開エラー)	
13	Caller Error (呼び出しエラー)	
14	Suspend Error (一時停止エラー)	
15	Timer Error (タイマー エラー)	
16	Tick Error (ティック エラー)	
17	Activate Error (アクティブ化エ	

	ラー)	
18	Threshold Error (しきい値エラー)	
19	Suspend Lifted (一時停止の解除)	
1A	Block Pool Error (プールのブロック エラー)	
1B	Queue Function Failed (キュー機能が失敗しました)	
1C	Semaphore Function Failed (セマフォ機能が失敗しました)	
1D	Timer Function Failed (タイマー機能が失敗しました)	
1F	Thread Function Failed (スレッド機能が失敗しました)	
20	Command Started (コマンドが起動しました)	
21	System Failure (システム エラー)	
22	System Busy (システム ビジー)	
23	System Timeout (システム タイムアウト)	
24	Software Error (ソフトウェア エラー)	
25	Hardware Error (ハードウェア エラー)	

メッセージ エラー タイプ

26	Message Sender (Task) ID Error (メッセージ送信者 [タスク] ID エラー)	<ul style="list-style-type: none"> ホスト バックアップ アプリケーションとデバイス ドライバが最新の対応リビジョンかどうかを support.dell.com から確認してください。 ホスト アダプタ、SCSI ケーブル、およびターミネータを確認します。 オートローダの電源を入れ直し、操作を再試行します。 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
27	Message Type Bad (メッセージ 種別不良)	
28	Message Parameter Bad (メッセージパラメータ不良)	

スタック / グローバル データ破損エラー タイプ

29	Invalid Element (不正エレメン	<ul style="list-style-type: none"> ホスト バックアップ アプリケーションとデバイス ドライバが最新の対応リビジョンが
----	-------------------------	---

	ト)	どうかを support.dell.com から確認してください。
2A	Invalid Element Status (不正エレメント ステータス)	<ul style="list-style-type: none"> オートローダのパワーサイクルを行います。 リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。
2B	Element Table Bad (不正なエレメント テーブル)	注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも2つのカートリッジが必要です。
2C	Global Data Bad (不良なグローバル データ)	<ul style="list-style-type: none"> 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
2D	Stack Data Bad (不良なスタック データ)	
2E	Task Stack Low (タスク スタックが不足)	
2F	Task Stack Overflow (タスク スタックがオーバーフロー)	
システム シャットダウン / 破壊エラー タイプ		
30	POST Failure (POST 障害)	<ul style="list-style-type: none"> マガジン / マガジン ブランクが完全に設置されていることを確認してください。 オートローダのパワーサイクルを行います。 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
31	Watchdog Timer (ウォッチドッグ タイマー)	<ul style="list-style-type: none"> オートローダのパワーサイクルを行います。
32	Power Event (電源イベント)	<ul style="list-style-type: none"> リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。
33	Power Down Failure (電源ダウン エラー)	注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも2つのカートリッジが必要です。
34	System Overload (システム オーバーロード)	<ul style="list-style-type: none"> PowerVault 124T ファームウェアのアップデートについては、support.dell.com から確認を行ってください。
35	System Performance (システム パフォーマンス)	<ul style="list-style-type: none"> 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
36	Asynchronous Stop (非同期の停止)	
その他のシステム エラー タイプ		
37	System Cleaning Error (システム クリーニング エラー)	<p>クリーニング スロットは使用中です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しいクリーニング カートリッジが、リモート管理ユニット設定ページの設定に示された専用クリーニング スロットにあることを確認してください。 PowerVault 124T ファームウェアのアップデートについては、support.dell.com から確認を行ってください。 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
38	System Internal I2C HW Error (システム内部 I2C HW エラー)	support.dell.com にお問い合わせください。
39	ALD (Autoloader Diagnostic) Limits Error (ALD [オートローダ診断] 制限エラー)	<p>このエラーは診断テストに失敗した場合に発生することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> マガジン テストまたはインベントリ テストに失敗した場合は、マガジンを一度に1つずつ取り外してチェックしてください。各マガジンの白いサムホイールを回し、キャリア

		<p>が各方向に少なくとも 1 回は完全に回転することを確認します。確認後は各マガジンを再度挿入します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ピッカーテストに失敗した場合は、ピッカーアセンブリ内に障害物がないことを確認してから、テストを再度行ってください。 ランダム移動テストに失敗した場合は、上記の手順にしたがって必要な処置を行ってください。 オートローダの電源を入れ直し、失敗したテストを再実行します。エラーが再発する場合は、support.dell.com までお問い合わせください。
磁気テープドライブエラー種別		
3A	Drive Reset Error (ドライブリセットエラー)	特定のドライブエラー情報の詳細については、TapeAlert ログで確認してください。推奨される処置については、 表 3 を参照してください。
3B	Drive HW Error(ドライブ HW エラー)	
3C	Drive Cleaning Required (ドライブのクリーニングが必要)	<ul style="list-style-type: none"> ドライブに正しいクリーニングカートリッジをロードしてクリーニングを行います。クリーニングカートリッジ専用利用可能なスロットがある場合は、この操作を有効にしてリモート管理ユニット設定ページ内で自動的に実行できます。 特定のドライブエラー情報の詳細については、TapeAlert ログで確認してください。推奨される処置については、表 3 を参照してください。 ドライブがクリーニングを要求し続ける場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
3D	General Drive Error (一般ドライブエラー)	<ul style="list-style-type: none"> 特定のドライブエラー情報の詳細については、TapeAlert ログで確認してください。推奨される処置については、表 3 を参照してください。 ドライブが読み取り/書き込みエラーをログしている場合は、新しいメディアを使って操作を再実行してください。 2つのメディアのどちらでもドライブが異常を示すときは、support.dell.com にお問い合わせください。
3E	Drive Load Error (ドライブロードエラー)	<ul style="list-style-type: none"> ドライブに正しいクリーニングカートリッジをロードしてクリーニングを行います。クリーニングカートリッジ専用利用可能なスロットがある場合は、この操作を有効にしてリモート管理ユニット設定ページ内で自動的に実行できます。 別のメディアをロードして試してみます。 2つの異なるメディアで処理が失敗する場合は、support.dell.com までお問い合わせください。
3F	Drive Unload Error (ドライブアンロードエラー)	
ドライブ/メディアエラータイプ		
40	Media Threading Error (メディアスレッドエラー)	<ul style="list-style-type: none"> 特定のドライブエラー情報の詳細については、TapeAlert ログで確認してください。推奨される処置については、表 3 を参照してください。 正しいカートリッジタイプが使用されていることを確認してください。 新しいメディアを使って操作を繰り返し行います。 2つの異なるメディアで処理が失敗する場合は、support.dell.com までお問い合わせください。
41	Media Unthreading Error (メディアアンスレッドエラー)	
42	Media (MAM) Info Error(メディア [MAM] 情報エラー)	
43	Invalid Media Type (不正なメディアの種類)	

44	Expired Cleaning Media (クリーニングメディアの有効期限が切れています)	
45	Unknown Media Error (不明なメディアエラー)	
46	Drive/Media Error (ドライブ/メディアエラー)	
その他のエラー タイプ		
47	EEROM Chksum Error (EEROM チェックサム エラー)	support.dell.com にお問い合わせください。
48	Fan Sense Motion Error (ファン センスモーションエラー)	<ul style="list-style-type: none"> • ユニットに電源が入っているときに、メイン ファンが自由に回っていることを確認してください。 • 前の手順が失敗する場合は、support.dell.com までお問い合わせください。
49	Offline (オフライン)	診断制御システム。処置の必要なし
4A	Host Lock Prevents Eject (ホスト ロックによる取り出し禁止)	<p>ホストバックアップソフトウェアが PREVENT/ALLOW MEDIUM REMOVAL (メディア除去の禁止/許可) コマンドを発行しました。このコマンドはホストバックアップソフトウェアにより「ロック」と呼ばれることが頻繁にあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ホストバックアップソフトウェアを使って Unlock (ロック解除) コマンドを発行するか、オペレータコントロールパネルの電源ボタンを使ってオートローダの電源を入れ直し、ロック設定を解除します。
4B	Open Front (前面開放)	<p>安全上の理由から、ピッカーやマガジンの回転などのあらゆるモーターの動作は無効になっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • マガジンまたはマガジン ブランクがオートローダの両側で完全に挿入されていることを確認してください。 • マガジンまたはマガジン ブランクを交換します (2 台目があるときは、それを試します)。 • ランダム移動テストに失敗した場合は、上記の手順にしたがって必要な処置を行ってください。 • 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
4C	Over Temp (異常高温)	<ul style="list-style-type: none"> • オートローダの吸気温が仕様の範囲内であることを確認します。 • オートローダ開口部 (前面および背面) の詰まりものをすべて取り除きます。 • ファンが作動していることを確認します。 • 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
TCP/IP スタックとタスク エラー タイプ		
50	IP Stack Panic (IP スタックパニック)	<ul style="list-style-type: none"> • オートローダが正しいネットワークに接続されていることを確認してください。
51	IP Stack Memory Allocation Error (IP スタックメモリの割り当てエラー)	<ul style="list-style-type: none"> • ネットワークが正しく設定されているかどうか (ループバック状態が発生していない等) を確認してください。
52	IP Stack Can't Free Memory (IP スタックがメモリを開放でき	<ul style="list-style-type: none"> • オートローダが正しく設定され、クロスオーバー ケーブルを使ってホストシステムに直接接続されている場合、オートローダが正常に作動していることを確認してください。

	ません)	上記の手順すべてが失敗した場合は、 support.dell.com にお問い合わせください。
53	Stack DTrap Occurred (スタック DTrap が発生しました)	
ローダ タスク エラー タイプ		
60	Drive Init Failed (ドライブ初期化エラー)	<ul style="list-style-type: none"> PowerVault 124T ファームウェアのアップデートについては、support.dell.com から確認を行ってください。 特定のドライブ エラー情報の詳細については、TapeAlert ログで確認してください。推奨される処置については、表 3 を参照してください。 前面電源ボタンを使ってオートローダの電源を入れ直し、操作を再試行します。 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
61	Drive Login Error (ドライブ ログイン エラー)	
62	Drive Logout/Unexpected Error (ドライブ ログアウト / 予期しないエラー)	
63	Drive Command Failed (ドライブ コマンド エラー)	
64	Drive Response Timeout (ドライブ 応答のタイムアウト)	
65	Command Flushed From Queue (コマンドがキューからフラッシュされました)	
66	Drive Manager Not In Correct State (ドライブ マネージャーが正しい状態ではありません)	
67	Drive Reporting Not Ready (ドライブのレポーティングの準備ができていません)	
68	Autoclean Move Failed (自動クリーニングの動作エラー)	<ul style="list-style-type: none"> リモート管理ユニットの自動クリーニング設定を確認します。正しいクリーニング カートリッジが設定された場所に配置されていることを確認してください。 クリーニング カートリッジのラベルやその他の物が、所定の位置以外に付いていないことを確認してください。 別のクリーニング カートリッジを使用してみます。 2 つの異なるクリーニング カートリッジで処理が失敗する場合は、support.dell.com までお問い合わせください。
69	Drive Unload Retry (ドライブ アンロードの再試行)	<ul style="list-style-type: none"> 特定のドライブ エラー情報の詳細については、TapeAlert ログで確認してください。推奨される処置については、表 3 を参照してください。 クリーニング カートリッジのラベルやその他の物が、所定の位置以外に付いていないことを確認してください。 別のメディアをロードして試してみます。 前面電源ボタンを使ってオートローダの電源を入れ直し、操作を再試行します。 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
6D	Drive Communications Error (ドライブ通信エラー)	<ul style="list-style-type: none"> PowerVault 124T ファームウェアのアップデートについては、support.dell.com から確認を行ってください。 特定のドライブ エラー情報の詳細については、TapeAlert ログで確認してください。推奨される処置については、表 3 を参照してください。
6E	Drive Communications Error (ドライブ通信エラー)	
6F	Loader Communication Error	

	(ローダ通信エラー)	<ul style="list-style-type: none"> 前面電源ボタンを使ってオートローダの電源を入れ直し、操作を再試行します。 上記の手順すべてが失敗した場合は、 support.dell.com にお問い合わせください。
コード更新エラー種別		
70	Failed to Send CUP Cmd to Drive / No Response From Drive (CUP コマンドをドライブに送信できませんでした。ドライブからの応答がありません)。	<ul style="list-style-type: none"> オートローダとドライブの両方のファームウェア イメージが最新のイメージであるかどうかを support.dell.com で確認してください。 ファームウェア イメージに付属のファームウェアのアップデート README ファイルを確認します。 <p>注：ドライブ ファームウェアのアップデートには、ファームウェア イメージに付属の DFU ユーティリティを用いたホスト SCSI インターフェイスを使う方法をお勧めします。ローダ ファームウェアのアップデートには、リモート管理ユニットを用いた方法をお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ホストとオートローダ間の SCSI ケーブルとターミネータがすべて接続されていることを確認してください。 アップデート中にドライブ内にメディアが入っていないことを確認してください。 前面電源ボタンを使ってオートローダの電源を入れ直し、操作を再試行します。 上記の手順すべてが失敗した場合は、 support.dell.com にお問い合わせください。
71	CUP Send Failed (CUP 送信エラー)	
72	Drive Update Failed, Media Present (ドライブのアップデートが失敗しました。メディアが存在します)。	
73	Image Size in Header Too Big (ヘッダーのイメージ サイズが大きすぎます)	
74	Block Erase Failed (ブロックの消去に失敗しました)	
75	Flash Program Failed (フラッシュ プログラムに失敗しました)	
76	Header Corrupt (ヘッダーの破損)	
77	Checksum Error (チェックサムエラー)	
78	Timeout During CUP (CUP 中にタイムアウトしました)	
79	Reset During Drive Update (ドライブ更新中にリセットされました)	
7A	Unexpected Reset From Drive (ドライブから予期せずリセットされました)	
7B	Unexpected Message From PSP (PSP から予期しないメッセージを受信しました)	
7C	Personality or Version Check Failed (パーソナリティまたはバージョン チェックに失敗しました)	
7D	SCSI Error During Write Buffer Command (バッファの書き込みエラー時に SCSI エラーが発生しました)	
7E	Uncompressed EDC Failure (非圧縮 EDC エラー)	
7F	Image Processing Ended Early (イメージ処理が早期に終了し	

	ました)	
SCSI サーバー タスク エラー タイプ		
80	Unexpected Response or Data Received (予期しない応答またはデータを受信しました)	<ul style="list-style-type: none"> ホスト バックアップ アプリケーションとデバイス ドライバが最新の対応リビジョンかどうかを support.dell.com から確認してください。 ホスト アダプタ、SCSI ケーブル、およびターミネータを確認します。 オートローダの電源を入れ直し、操作を再試行します。 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
81	Drive Send Failed (ドライブの送信に失敗しました)。	
サーボ エレベータ ハードウェア エラー タイプ		
92	Elevator Flag Bad (不良なエレベータ フラグ)	<ul style="list-style-type: none"> オートローダの電源を入れ直します。
93	Elevator Sensor Bad (不良なエレベータ センサ)	<ul style="list-style-type: none"> リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。
97	Elevator Calibration Lost (エレベータ キャリブレーションを失いました)	<p>注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも 2 つのカートリッジが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> PowerVault 124T ファームウェアのアップデートについては、support.dell.com から確認を行ってください。 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
98	Elevator Calibration Jammed (エレベータ キャリブレーションの詰まり)	<ul style="list-style-type: none"> 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
99	Elevator Lost (エレベータを失いました)	
9B	Elevator Position Error (エレベータの位置エラー)	
ピッカー / マガジン サーボ エラー タイプ		
A0	Servo Error (サーボ エラー)	<ul style="list-style-type: none"> オートローダのパワーサイクルを行います。
A1	Reserved Error Code (予約されたエラー コード)	<ul style="list-style-type: none"> リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。
A2	Servo Timeout Error (サーボ タイムアウト エラー)	<ul style="list-style-type: none"> また、「Open Front」(4B) エラー タイプ用に推奨された処置も実行します。
A3	Position Error (位置エラー)	<p>注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも 2 つのカートリッジが必要です。</p>
A4	Servo Not Calibrated (サーボのキャリブレーションが行われていません)	<ul style="list-style-type: none"> PowerVault 124T ファームウェアのアップデートについては、support.dell.com から確認を行ってください。 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
A5	Source Element Empty (入力元エレメントが空)	<ul style="list-style-type: none"> 必要とする入力元にカートリッジが実際に存在しないことを確認してください。 オートローダのパワーサイクルを行います。 リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。 <p>注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも 2 つのカートリッジが必要です。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> 入力元がマガジン内のスロットである場合は、カートリッジを手動でマガジンに挿入する際に、バネ付きカートリッジの存在を示すフラグが自由に動くかどうかをチェックします。 エラーが再発する場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
A6	Magazine Missing (マガジン不足)	<ul style="list-style-type: none"> マガジンまたはマガジン ブランクがオートローダに完全に挿入されていることを確認してください。 マガジンを取り出してから、挿入します。 2 台目のマガジンがあるときは、それを試します。 オートローダのパワーサイクルを行います。 エラーが再発する場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
A7	Mail Slot Full (メール スロットが一杯です)	<ul style="list-style-type: none"> 前に取り出したメディアをメール スロットから取り除きます。 メール スロットの開口部にごみや異物がないことを確認してください。 メール スロットのドアが完全に閉じられていることを確認してください。 エラーが再発する場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
A8	Destination Element Full (出力先エレメントがフル)	<ul style="list-style-type: none"> 必要とする保存先に既にカートリッジが入っていることを確認してください。 オートローダのパワーサイクルを行います。 リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。 <p>注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも 2 つのカートリッジが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 宛先がマガジン内のスロットである場合は、カートリッジを手動でマガジンに挿入する際に、バネ付きカートリッジの存在を示すフラグが自由に動くかどうかをチェックします。 エラーが再発する場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
A9	Picker Full (ピッカー フル)	<ul style="list-style-type: none"> オートローダの前面を見て、ピッカーが一杯になっていないかどうかを確認します。
AA	Picker Cartridge Sensor Error (ピッカー カートリッジ センサエラー)	<ul style="list-style-type: none"> オペレータ コントロール パネルから Move (移動) コマンドを使って、カートリッジをピッカーから別の場所に移動します。 前面パネルを使ってオートローダの電源を入れ直します。 リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。 <p>注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも 2 つのカートリッジが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入力元がマガジン内のスロットである場合は、カートリッジを手動でマガジンに挿入する際に、バネ付きカートリッジの存在を示すフラグが自由に動くかどうかをチェックします。 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。

AB	Drive Path Sensor Error (ドライブパス センサ エラー)	<ul style="list-style-type: none"> 前面パネルを使ってオートローダの電源を入れ直します。 リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。 <p>注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも 2 つのカートリッジが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
AC	Mail Slot Door Sensor Error (メール スロット ドア センサ エラー)	<ul style="list-style-type: none"> オートローダのパワーサイクルを行います。
AD	Mail Slot Solenoid Error (メール スロット ドア センサエラー)	<ul style="list-style-type: none"> メール スロットを使ってカートリッジをオートローダに挿入します。カートリッジが検出され、ドアが完全に閉じることを確認します。 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
AE	Servo Initialization Error (サーボ初期化エラー)	<ul style="list-style-type: none"> マガジンを一度に 1 つずつ取り外してチェックしてください。各マガジンの白いサムホイールを回し、キャリアが各方向に少なくとも 1 回は完全に回転することを確認します。確認後は各マガジンを再度挿入します。 リモート管理ユニットまたはオペレータ コントロール パネルを使って、バーコードリーダーの設定をチェックします。 バーコードリーダーが有効である場合は、すべてのカートリッジに有効なバーコードラベルが付いていることを確認してください。カートリッジに有効なバーコードラベルが付いていない場合は、バーコードリーダーを無効にします。 PowerVault 124T ファームウェアのアップデートについては、support.dell.com から確認を行ってください。 オートローダのパワーサイクルを行います。 リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。 <p>注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも 2 つのカートリッジが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
AF	Error Log Information Event (エラー ログ情報イベント)	<p>ソフト エラー ログのサーボ / モーター エラー シーケンスの分析に使用します。直後のエラーイベントリは、特定のモーター / 位置エラーの性質を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 処置の必要なし
サーボ ピッカー ハードウェア エラー タイプ		
B0	Rotation Sensor Bad (不良な回転センサ)	<ul style="list-style-type: none"> オートローダのパワーサイクルを行います。
B1	Rotation Flag Not Found (回転フラグが見つかりません)	<ul style="list-style-type: none"> リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。
B2	Rotation Flag Bad (不良な回転フラグ)	<p>注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも 2 つのカートリッジが必要です。</p>
B3	Translation Sensor Bad (不良な変換センサ)	<ul style="list-style-type: none"> 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
B4	Translation Sensor 1 Bad 不良な	

	変換センサ 1	
B5	Translation Sensor 2 Bad (不良な変換センサ 2)	
B6	Translation Flag Bad (不良な変換フラグ)	
B7	Rotational Calibration Lost(回転キャリブレーションを失いました)	
B8	Translation Calibration Lost (変換キャリブレーションを失いました)	
B9	Rotation Lost (回転を失いました)	
BA	Translation Lost (変換を失いました)	
BB	Rotation Position Lost (回転位置を失いました)	
BC	Translation Position Lost (変換位置を失いました)	
BD	Picker Dropped Cartridge Error (ピッカードロップカートリッジエラー)	<ul style="list-style-type: none"> ピッカーの中にカートリッジが詰まっていないか確認します。カートリッジがある場合は取り外します。 マガジンを一度に 1 つずつ取り外してチェックしてください。各マガジンの白いサムホイールを回し、キャリアが各方向に少なくとも 1 回は完全に回転することを確認します。 カートリッジを各マガジン スロットに完全に挿入してから取り外します。各スロットからカートリッジを取り出しにくいかどうかをチェックします。 確認後はマガジンを再度挿入します。 オートローダのパワーサイクルを行います。 リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。 <p>注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも 2 つのカートリッジが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
BE	Picker Missed Cartridge Error (ピッカーカートリッジ非検出エラー)	
BF	Picker Jammed Cartridge Error (ピッカーカートリッジジャムエラー)	

サーボモーターエラー種別

C0	Motor Error (モーター エラー)	<ul style="list-style-type: none"> オートローダが安定した平面またはラック ユニットの設置レベルにあることを確認してください。 オートローダのパワーサイクルを行います。 リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。 <p>注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも 2 つのカートリッジが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> PowerVault 124T ファームウェアのアップデートについては、support.dell.com から確認を行ってください。
C1	Motor SW Error (モーター ソフトウェア エラー)	
C2	Motor HW Error (モーター ハードウェア エラー)	
C3	Motor Seg Error (モーター セグメント エラー)	
C4	Motor Position Error (モーター 位置エラー)	

C5	Motor Direction Error (モーターの方向エラー)	
C6	Motor Runaway Error (モーターランナウェイ エラー)	
C7	Motor Corrupt (モーターの破損)	
C8	Motor Acceleration Error (モーターの加速エラー)	
C9	Motor Sense Noise (モーターのノイズ検出)	
CA	Motor Seek Error (モーターのシーク エラー)	
CB	Motor Skipped Step (モーターは手順をスキップしました)	
CC	Motor Stalled (モーターのストール)	
CD	Motor Jammed (モーターの詰まり)	
CE	Motor Translation Pin Jammed Error (モーター変換ピンジャムエラー)	
CF	Motor Asynchronous Stop (モーターの非同期の停止)	
マガジンハードウェアエラー種別		
D0	Magazine Eject Failed (マガジンの取り出しに失敗しました)	<ul style="list-style-type: none"> オートローダが安定した平面またはラック ユニットの設置レベルにあることを確認してください。
D1	Magazine Present Sensor Bad (マガジン実存センサ不良)	<ul style="list-style-type: none"> マガジンを取り出してから、挿入します。マガジンがマガジン ベイから簡単に出し入れできることを確認してください。 マガジンが完全に挿入されるとカチッと音がし、所定の位置に固定されることを確認してください。 オートローダの電源を入れ直し、操作を再試行します。 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
D2	Magazine Cam Position Sensor Bad (不良なマガジン Cam の位置センサ)	<ul style="list-style-type: none"> オートローダが安定した平面またはラック ユニットの設置レベルにあることを確認してください。
D3	Magazine Sensor 1 Bad (不良なマガジン センサ 1)	<ul style="list-style-type: none"> マガジンを取り出してから、挿入します。マガジンがマガジン ベイから簡単に出し入れできることを確認してください。
D4	Magazine Sensor 2 Bad (不良なマガジン センサ 2)	<ul style="list-style-type: none"> マガジンが完全に挿入されるとカチッと音がし、所定の位置に固定されることを確認してください。 オートローダの電源を入れ直し、オペレータ コントロール パネルからマガジン テストを実行します。 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
D5	Magazine Flag Missing (マガジン フラグの不足)	<p>マガジン エラーはマガジン センサがマガジンの回転時にカートリッジ キャリア フラグを検出できない場合に発生する可能性があります。これは、カートリッジ キャリア フラグの問題、セ</p>

D6	Magazine Flag Bad (不良なマガジンフラグ)	<p>ンサの問題、マガジンの詰まり、または不正に挿入したマガジンによるセンサの配列問題により発生することがあります。</p>
D7	Slot Zero Not Found (スロットゼロが見つかりませんでした)	<ul style="list-style-type: none"> オートローダが安定した平面またはラック ユニットの設置レベルにあることを確認してください。
D8	Multiple Slot Zero Detected (複数のスロット ゼロが検出されました)	<ul style="list-style-type: none"> マガジンを一度に1つずつ取り外してチェックしてください。各マガジンの白いサムホイールを回し、キャリアが各方向に少なくとも1回は完全に回転することを確認します。
D9	Magazine Step Tolerance Error (マガジン ステップトレランスエラー)	<ul style="list-style-type: none"> キャリアフラグがすべてのスロットにあり、スロット1に一意的(長い)キャリアフラグが設定されていることを確認してください。
DA	Magazine Calibration Lost (マガジンのキャリブレーションを失いました)	<ul style="list-style-type: none"> ピッカーからマガジンベイに突出したセンサにゴミが入っておらず、手で押したときに簡単に出し入れができることを確認してください。
DB	Magazine Lost (マガジンを失いました)	<ul style="list-style-type: none"> マガジンをそのままマガジンベイに慎重に再度挿入します。マガジンを上下に曲げたり偏らせないように注意してください。
DC	Magazine Position Error (マガジンの位置エラー)	<ul style="list-style-type: none"> オートローダのパワーサイクルを行います。
DD	Magazine Slot Type Invalid (マガジンスロット種別不正)	<ul style="list-style-type: none"> オペレータコントロールパネルからマガジンテストを実行します。
DE	Magazine Slot (Gross) Position Error (マガジンスロット [グロス] 位置エラー)	<ul style="list-style-type: none"> 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
DF	Magazine Jammed Error (マガジンジャムエラー)	
システムイベント種別		
E8	Time Zone Update Event (時間帯更新イベント)	ユーザーがタイムゾーンの設定をアップデートしました。処置の必要なし
E9	Time Update Event (時間更新イベント)	システム時間が変更されました。処置の必要なし
前面パネルエラー種別		
EA	LCD Busy Error (LCD のビジーエラー)	LCD コントローラに問題があるか、ソフトウェア エラーまたは通信エラーが発生した可能性があります。
EB	LCD Goto Error (LCD Goto エラー)	<ul style="list-style-type: none"> オートローダのパワーサイクルを行います。 ランダム移動テストを実行します。 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
EC	Login/Password Error (ログイン/パスワードエラー)	<p>前面パネルから不正にログインしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しいログイン/パスワードを使用してください。
ED	Socket Error During SNTP (SNTP 時のソケット エラー)	
バーコード エラーの種類		
F0	Bar Code Init Error (バーコードの初期化エラー)	<ul style="list-style-type: none"> マガジンを取り外し、カートリッジをチェックします。有効なバーコードラベルがすべてのカートリッジに貼り付けられていることを確認してから、マガジンを再度挿入します。 バーコードラベルが貼り付けられていない場合は、オペレータコントロールパネルま
F1	Bar Code Hardware Error (バーコードハードウェアエラー)	

F2	Bar Code Baud Rate Error (バーコード ボーレート エラー)	たはリモート管理ユニットを使ってバーコードリーダーを無効にします。
F3	Bar Code Handshake Error (バーコード ハンドシェイク エラー)	<ul style="list-style-type: none"> リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。 <p>注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも2つのカートリッジが必要です。</p>
F4	Bad/Noisy Response From Bar Code Reader (バーコードリーダーからの不良な/ノイズの入った応答)	<ul style="list-style-type: none"> 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
F5	Checksum Failed (チェックサムに失敗しました)	<p>バーコード ラベルが不完全か、バーコード チェックサムに失敗しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいカートリッジまたはラベルを使ってテストを繰り返してください。 元のカートリッジまたはラベルで問題が再発する場合は、別のものに交換してください。 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
F6	Barcode No Read (バーコードの読み取り不可)	<p>バーコード ラベルが付いていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効なバーコード ラベルをカートリッジに装着するか、オペレータ コントロール パネルまたはリモート管理ユニットを使ってバーコードリーダーを無効にします。
F7	Barcode Mismatch Error (バーコードの不一致エラー)	<ul style="list-style-type: none"> オートローダのパワーサイクルを行います。 リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。 <p>注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも2つのカートリッジが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
F8	Barcode Duplicate Label Error (バーコードの重複ラベルエラー)	<p>バーコードを複製します。</p>
診断エラー種別		
F9	Diagnostic Test Failure (診断テスト障害)	<ul style="list-style-type: none"> オートローダのパワーサイクルを行います。 失敗した診断テストを再実行します。 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
FA	Diagnostic Error, Drive Reporting Write Protect (診断エラー、ドライブのレポートイングは書き込み禁止です)	<ul style="list-style-type: none"> データ保護されていない有効なメディアがテスト用に用意されていることを確認してください。 リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。
FB	Diagnostic Error, Cleaning Tape Inserted (診断エラー、クリーニングテープが挿入されています)	<p>注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも2つのカートリッジが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
FC	Diagnostic Load Tape Prompt (診断ロードテープのプロンプト)	<p>これはテストに必要なカートリッジを手動でロードすることを指示するプロンプトです。</p>

FD	Diagnostic Unknown Tape Format (診断時の不明なテープ形式)	<ul style="list-style-type: none"> データ保護されていない有効なメディアがテスト用に用意されていることを確認してください。 リモート管理ユニット (RMU) またはオペレータ コントロール パネル (OCP) からランダム移動テストを実行します。 <p>注：ランダム移動テストではオートローダ内に少なくとも 2 つのカートリッジが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の手順すべてが失敗した場合は、support.dell.com にお問い合わせください。
FE	Diagnostic Invalid Configuration (診断時の無効な設定)	<p>これは、少なくとも 2 つのメディアがテストに必要なことを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 少なくとも 2 つのカートリッジがオートローダに入っていることを確認してから、失敗したテストを再実行してください。

TapeAlert ログ

TapeAlert のログ情報は、以下の 3 つの方法のいずれかを使って取得できます。

- オペレータ コントロール パネル (OCP)
- リモート管理ユニット (RMU) の画面への表示
- コール センターの診断用に RMU を介してテキスト ファイルに保存された詳細ログ

TapeAlert の詳細情報と推奨される処置については[表 3](#)を参照してください。

OCP を介した TapeAlert ログ

前面パネルから TapeAlert のログ情報を表示する方法：

- 前面パネル LCD から **Diagnostics (診断)** までスクロールし、**Enter** を押します。**Diagnostics (診断)** サブメニューが表示されます。
- **Diagnostics (診断)** サブメニューから **TapeAlert Logs (TapeAlert ログ)** までスクロールし、**Enter** を押します。TapeAlert ログ情報が表示されます。
- TapeAlert のログ エントリ内では上下にスクロールできます。最新のエンタリが、表示される最も高いイベント番号に関連付けられます。

各 TapeAlert のログ エントリ内で上下にスクロールすると、エラー発生日時、エラー時に使用したテープに関連したバーコード ラベル (バーコード ラベルが使用され、バーコード リーダーが有効な場合)、そのイベント中に設定された TapeAlert フラグを表示できます。

TapeAlert の分析

1 つのイベントで設定可能な TapeAlert の組み合わせを表示するには、バイナリ表現を使います。16 桁の 16 進数で表現された TapeAlert は合計 64 ビット (16 × 4 = 64) に分類され、各ビットセットに対し考えられる TapeAlert がすべてレポートされます。以下の図は、TapeAlert ビットの割り当てと実際の例を示したものです。最初の例では、テープドライブはクリーニングを要求しました。2 番目の例では、無効なクリーニングカートリッジを使ってクリーニングが実行されようとしていました。

 注：[表 3](#) は考えられるすべての TapeAlert のバイナリ表現を表示したものです。以下の例では複数の TapeAlert を設定することができます。

```

TapeAlert Representation:    0000000000000000 hexadecimal
                             ^
                             / \
1st hexadecimal digit = 0000 binary (0's and 1's)

TapeAlert[1], 1st bit set = 1000 binary = 8 hexadecimal
TapeAlert[2], 2nd bit set = 0100 binary = 4 hexadecimal
TapeAlert[3], 3rd bit set = 0010 binary = 2 hexadecimal
TapeAlert[4], 4th bit set = 0001 binary = 1 hexadecimal
:
:

Examples:

1) 000010000000000000    TapeAlert[20] Clean now

2) 00200200000002000    TapeAlert[11] Cleaning media in drive
                        + TapeAlert[23] Invalid cleaning tape
                        + TapeAlert[51] Tape directory invalid at unload
    
```

RMU を介した TapeAlert ログ

リモート管理ユニットから TapeAlert ログ情報を表示する、またはログをすべて保存する方法：


- RMU 内から **Diagnostics** (診断) の見出しをクリックします。 **Diagnostics** (診断) 画面が表示されます。
- **TapeAlert Logs** (TapeAlert ログ) をクリックすると、TapeAlert ログが表示されます。最新のエントリが、表示される最も高いイベント番号に関連付けられます。
 -  注：このオプションは欠陥メディアを検出する際に特に役立ちます。画面にはユニット TapeAlert の履歴、ドライブによりレポートされた現在の TapeAlert、およびオートローダへの挿入後に各カートリッジで記録された TapeAlert の履歴が表示されます。
- 詳細なログ情報を含んだファイルを持っていると、サポートを受ける際に特に役に立ちます。ログをローカル テキスト ファイルに保存する場合は、**Save Logs** (ログの保存) をクリックします。

表 3：TapeAlert の詳細

Tape Alert メッセージ	通常のアプリケーション クライアント メッセージ	エラー メッセージ発生のお考えられる原因	推奨される処置
Drive TAflag[01] Read Warning TapeAlert Log Entry: 8000000000000000	The tape drive is having problems reading data. No data has been lost, but there has been a reduction in the performance of the tape. (テープ ドライブはデータの読み取り時に問題があります。データは失われませんが、テープの性能が悪くなります。)	ドライブで読み取り上の重大な問題が発生しています。 この問題は不良なメディアまたはドライブを使用している場合に発生することがあります。	<ul style="list-style-type: none"> • ドライブのクリーニングを行ってください。 • 別のメディアを使って試してみてください。 • 別のメディアを使って問題が発生しない場合は、元のメディアで再度試してみてください。

<p>Drive TAflag[02] Write Warning</p> <p>TapeAlert Log Entry: 4000000000000000</p>	<p>The tape drive is having problems writing data. No data has been lost, but there has been a reduction in the capacity of the tape.</p> <p>(テープ ドライブはデータの書き込み時に問題があります。データは失われませんが、テープ容量が少なくなります。)</p>	<p>ドライブで書き込み上の重大な問題が発生しています。</p> <p>この問題は不良なメディアまたはドライブを使用している場合に発生することがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ドライブのクリーニングを行ってください。 別のメディアを使って試してみます。 別のメディアを使って問題が発生しない場合は、元のメディアで再度試してみます。
<p>Drive TAflag[03] Hard Error</p> <p>TapeAlert Log Entry: 2000000000000000</p>	<p>The operation has stopped because an error has occurred while reading or writing data that the drive cannot correct.</p> <p>(データの読み取り / 書き込み時にドライブが補正できないエラーが発生したため、処理は中止されました。)</p>	<p>ドライブでハード読み取り / 書き込みエラーが発生しました。</p> <p>この問題は不良なメディアまたはドライブを使用している場合に発生することがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ドライブのクリーニングを行ってください。 別のメディアを使って試してみます。 別のメディアを使って問題が発生しない場合は、元のメディアで再度試してみます。
<p>Drive TAflag[04] Media</p> <p>TapeAlert Log Entry: 1000000000000000</p>	<p>Your data is at risk. Copy any data you require from this tape. Do not use this tape again.</p> <p>(データは不安定な状態です。必要なデータをすべてコピーしてから、このテープを処分します。)</p>	<p>メディアへの書き込み / 読み取りができないか、性能が著しく低下しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ドライブのクリーニングを行ってください。 別のメディアを使って試してみます。 別のメディアを使って問題が発生しない場合は、元のメディアで再度試してみます。
<p>Drive TAflag[05] Read Failure</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0800000000000000</p>	<p>The tape is damaged or the drive is faulty.</p> <p>(テープに損傷があるか、ドライブに障害があります。)</p>	<p>ドライブはテープ内のデータを読み取ることができません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ドライブのクリーニングを行ってください。 別のメディアを使って試してみます。 別のメディアを使って問題が発生しない場合は、元のメディアで再度試してみます。
<p>Drive TAflag[06] Write Failure</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0400000000000000</p>	<p>The tape is from a faulty batch or the tape drive is faulty.</p> <p>(テープが不良か、テープ ドライブに障害があります。)</p>	<p>ドライブはテープにデータを書き込むことができません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ドライブのクリーニングを行ってください。 別のメディアを使って試してみます。 別のメディアを使って問題が発生しない場合は、元のメディアで再度試してみます。
<p>Drive TAflag[07] Media Life</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0200000000000000</p>	<p>The tape cartridge has reached the end of its calculated useful life.</p> <p>(テープ カートリッジは推定寿命に達しました。)</p>	<p>メディアは指定の寿命を超えました。</p>	<p>必要なデータを他のテープにコピーし、古いテープを処分してください。</p>
<p>Drive TAflag[08]</p>	<p>The cartridge is not data-grade. Any data you write to the tape is at risk.</p>	<p>ドライブは MRS ストライプを</p>	<p>カートリッジをデータを正しく保存できる</p>

<p>Not Data Grade</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0100000000000000</p>	<p>(カートリッジはデータを正しく保存できる状態ではありません。テープに書き込んだデータは不安定な状態です。)</p>	<p>読み取ることができません。</p>	<p>テープと交換してください。</p>
<p>Drive TAflag[09] Write Protect</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0080000000000000</p>	<p>You are trying to write to a write protected cartridge.</p> <p>(書き込み禁止のカートリッジに書き込もうとしています。)</p>	<p>書き込み禁止のテープに Write (書き込み) コマンドを実行しようとしています。</p>	<p>書き込み禁止を解除するか、別のテープを使用します。</p>
<p>Drive TAflag[10] No Removal</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0040000000000000</p>	<p>You cannot eject the cartridge because the tape drive is in use. Wait until the operation is complete before ejecting the cartridge.</p> <p>(テープドライブが使用中であるため、カートリッジを取り出すことができません。操作が完了するのを待ってからカートリッジを取り出します。)</p>	<p>メディアの取り出し禁止が有効なときに、手動でカートリッジまたはソフトウェアをアンロードしようとした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアのロックが設定されているかを RMU で確認します。 バックアップアプリケーションを使ってロック解除を実行します。
<p>Drive TAflag[11] Cleaning Media</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0020000000000000</p>	<p>The tape in the drive is a cleaning cartridge.</p> <p>(ドライブにあるテープはクリーニングカートリッジです。)</p>	<p>クリーニングテープがドライブにロードされています。</p>	
<p>Drive TAflag[12] Unsupported Format</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0010000000000000</p>	<p>You have attempted to load a cartridge of a type that is not supported by this drive.</p> <p>(このドライブでサポートされていない種類のカートリッジをロードしようとした。)</p>	<p>サポートされていないテープ形式をロードしようとした (例: VS160 ドライブにフォーマットされていない種類の IV メディアをロードしようとした)。</p>	<p>ドライブの種類に適したテープ形式を使用します。</p>
<p>Drive TAflag[13] Recoverable Mechanical Cartridge Failure</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0008000000000000</p>	<p>The operation has failed because the tape in the drive has experienced a mechanical failure.</p> <p>(ドライブのテープに機械上のエラーが発生したため、処理が失敗しました。)</p>	<p>メディアのマウント解除が可能なドライブ内のテープが切れてしまったか、別のカートリッジに機械上のエラーが発生しました。</p>	<p>古いテープを処分してください。別のテープで処理を再開します。</p>
<p>Drive TAflag[14] Unrecoverable Mechanical Cartridge Failure</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0004000000000000</p>	<p>The operation has failed because the tape in the drive has experienced a mechanical failure.</p> <p>(ドライブのテープに機械上のエラーが発生したため、処理が失敗しました。)</p>	<p>メディアのマウント解除が可能なドライブ内のテープが切れてしまったか、別のカートリッジに機械上のエラーが発生しました。</p>	<p>古いテープを処分してください。別のテープで処理を再開します。</p>
<p>Drive TAflag[15]</p>	<p>The memory in the tape cartridge has failed, which reduces performance. Do not</p>	<p>メモリチップがカートリッジ内で失敗しました。</p>	<p>カートリッジを交換します。</p>

<p>Memory Chip In Cartridge Failure</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0002000000000000</p>	<p>use the cartridge for further write operations.</p> <p>(テープカートリッジのメモリが破損しているため、テープカートリッジの性能が減少します。今後、このカートリッジを書き込み処理に使用しないでください。)</p>		
<p>Drive TAflag[16] Forced Eject</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0001000000000000</p>	<p>The operation has failed because the tape cartridge was manually de-mounted while the tape drive was actively writing or reading.</p> <p>(テープドライブをアクティブに書き込み/読み取っているときにテープカートリッジが手動でマウント解除されたため、処理が失敗しました。)</p>	<p>ドライブをアクティブに書き込み/読み取っているときに手動でカートリッジを強制的に取り出しました。</p>	<p>同じメディアを使って処理を再実行してください。</p>
<p>Drive TAflag[17] Read Only Format</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000800000000000</p>	<p>You have loaded a cartridge of a type that is read-only in this drive. The cartridge will appear as write protected.</p> <p>(このドライブに読み取り専用のカートリッジの種類がロードされました。カートリッジは書き込み禁止として表示されます。)</p>	<p>読み取り専用の形式のメディアをロードしました。</p>	<p>カートリッジ上の書き込み禁止タブをチェックしてください。</p>
<p>Drive TAflag[18] Tape Directory Corrupted On Load</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000400000000000</p>	<p>The tape directory on the tape cartridge has been corrupted. File search performance will be degraded. The tape directory can be rebuilt by reading all the data on the cartridge.</p> <p>(テープカートリッジ上のテープディレクトリが損傷しています。ファイル検索の性能が低下します。テープディレクトリを再構築するには、カートリッジ上のデータをすべて読み取ります。)</p>	<p>テープドライブはテープがロードされたことでパワーダウンしたか、固定的なエラーが発生したためテープディレクトリをアップデートできません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 同じテープを使って操作を再試行します。 • エラーが再発する場合は、テープを処分してください。
<p>Drive TAflag[19] Nearing Media Life</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000200000000000</p>	<p>The tape cartridge is nearing the end of its calculated Media may have life.</p> <p>(テープカートリッジでメディアの推定寿命が尽きようとしています。)</p>	<p>メディアは指定のパス数を越えた可能性があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 次回のバックアップには別のテープカートリッジを使用してください。 • このテープカートリッジからデータをリストアするときのためにテープカートリッジを安全な場所に保管してください。
<p>Drive TAflag[20] Clean Now</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000100000000000</p>	<p>The tape drive needs cleaning.</p> <p>(テープドライブのクリーニングが必要です。)</p>	<p>ドライブのヘッドが詰まっているか、クリーニングが必要であるかのような応答を示しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 処理が中止された場合、テープを取り出しドライブのクリーニングを行ってください。 • 処理が中止されていない場合は、終了するまで待ち、テープドライブのクリーニングを行ってください。デバイス固有のクリーニング手順については、テープドライブユーザーズマニュアルを参照してください。

<p>Drive TAflag[21] Clean Periodic</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000080000000000</p>	<p>The tape drive is due for routine cleaning.</p> <p>(テープドライブの定期クリーニングが必要です。)</p>	<p>ドライブは定期クリーニングを行う準備ができています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現在の処理が終了するまで待ちます。 その後クリーニングカートリッジを使用します。デバイス固有のクリーニング手順については、テープドライブ ユーザーズ マニュアルを参照してください。
<p>Drive TAflag[22] Expired Cleaning Media</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000040000000000</p>	<p>The last cleaning cartridge used in the tape drive has worn out.</p> <p>(テープドライブ内で最後に行われたクリーニングカートリッジは使い古されています。)</p>	<p>クリーニングテープをこれ以上使用できません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 使い古されたクリーニングカートリッジを処分します。 現在の処理が終了するまで待ちます。 その後新しいクリーニングカートリッジを使用します。
<p>Drive TAflag[23] Invalid Cleaning Tape</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000020000000000</p>	<p>The last cleaning cartridge used in the tape drive was an invalid type.</p> <p>(テープドライブ内で最後に使われたクリーニングカートリッジの種類が不正です。)</p>	<p>不正なクリーニングテープの種類を使用しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> このドライブには、このクリーニングカートリッジを使用しないでください。 現在の処理が終了するまで待ちます。 正しいクリーニングカートリッジを使用します。
<p>Drive TAflag[24] Retension Requested</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000010000000000</p>	<p>The tape drive has requested a retension operation.</p> <p>(テープドライブは保存処理を要求しました。)</p>	<p>ドライブに、保存サイクルによって解決される重大な読み取り/書き込み問題があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保存処理を実行します。 処理を再実行します。
<p>Drive TAflag[25] Dual port Interface Error</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000008000000000</p>	<p>A redundant interface port on the tape drive has failed.</p> <p>(テープドライブ上の冗長インターフェイスポートが失敗しました。)</p>	<p>デュアルポート設定 (Fibre Channel) で 1 つのインターフェイスポートが失敗しました。</p>	
<p>Drive TAflag[26] Cooling Fan Failure</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000004000000000</p>	<p>A tape drive cooling fan has failed.</p> <p>(テープドライブの冷却ファンが失敗しました。)</p>	<p>テープドライブ装置またはテープ Drive エンクロージャー内でファンエラーが発生しました。</p>	
<p>Drive TAflag[27] Power Supply Failure</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000002000000000</p>	<p>A redundant power supply has failed inside the tape drive enclosure.</p> <p>(冗長電源装置がテープ Drive エンクロージャー内で失敗しました。)</p>	<p>テープ Drive エンクロージャーまたはラックサブシステム内で冗長 PSU エラーが発生しました。</p>	<p>失敗した電源装置の交換手順については、エンクロージャー ユーザーズ マニュアルを参照してください。</p>

<p>Drive TAflag[28] Power Consumption</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000001000000000</p>	<p>The tape drive power consumption is outside the specified range.</p> <p>(テープドライブの電力消費量が指定範囲を超えています。)</p>	<p>テープドライブの電力消費量が指定範囲を超えています。</p>	
<p>Drive TAflag[29] Drive Maintenance</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000800000000</p>	<p>Preventive maintenance of the tape drive is required.</p> <p>(テープドライブの予防メンテナンスが必要です。)</p>	<p>ドライブには (クリーニングでなく) 予防メンテナンスが必要です。</p>	<p>デバイス固有の予防メンテナンス作業の手順については、テープ Drive ユーザーズ マニュアルを参照してください。</p>
<p>Drive TAflag[30] Hardware A</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000400000000</p>	<p>The tape drive has a hardware fault.</p> <p>(テープドライブにハードウェアの故障が発生しています。)</p>	<p>ドライブにハードウェア障害があり、回復するにはリセットが必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • テープを取り出します。 • ドライブをリセットします。 • 処理を再開します。
<p>Drive TAflag[31] Hardware B</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000200000000</p>	<p>The tape drive has a hardware fault.</p> <p>(テープドライブにハードウェアの故障が発生しています。)</p>	<p>ドライブには読み取り / 書き込みに関連していないハードウェア障害があるか、または電源を入れ直して回復する必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • テープドライブの電源を入れ直します。 • 処理を再開します。
<p>Drive TAflag[32] Interface</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000100000000</p>	<p>The tape drive has a problem with the application client interface.</p> <p>(テープドライブはアプリケーションクライアント インターフェイスに問題があります。)</p>	<p>ドライブはインターフェイス障害を検出しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • SCSI インターフェイス ケーブル、ターミネータ、およびすべての接続を確認します。 • 処理を再開します。
<p>Drive TAflag[33] Eject Media</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000080000000</p>	<p>The operation has failed.</p> <p>(処理に失敗しました。)</p>	<p>エラー リカバリ処置</p>	<ul style="list-style-type: none"> • テープまたはマガジンを取り出します。 • テープまたはマガジンを再度挿入します。 • 処理を再開します。
<p>Drive TAflag[34] Download Fail</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000040000000</p>	<p>The firmware download has failed because you have tried to use the incorrect firmware for this tape drive.</p> <p>(このテープドライブに正しくないファームウェアを使用しようとしたため、ファームウェアのダウンロードに失敗しました。)</p>	<p>ファームウェアのダウンロードに失敗しました。</p>	<p>正しいファームウェアを取得して、再試行します。</p>
<p>Drive TAflag[35] Drive Humidity</p> <p>TapeAlert Log</p>	<p>Environmental conditions inside the tape drive are outside the specified humidity range.</p> <p>(テープドライブ内の湿度が動作環境の</p>	<p>ドライブ内の湿度の限度を超えています。</p>	

<p>Entry: 0000000020000000</p>	<p>指定範囲を超えています。)</p>		
<p>Drive TAflag[36] Drive Temperature</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000010000000</p>	<p>Environmental conditions inside the tape drive are outside the specified temperature range.</p> <p>(テープ ドライブ内の温度が動作環境の指定範囲を超えています。)</p>	<p>冷却に問題があります。</p>	
<p>Drive TAflag[37] Drive Voltage</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000008000000</p>	<p>The voltage supply to the tape drive is outside the specified range.</p> <p>(テープ ドライブへの電源電圧が指定範囲を超えています。)</p>	<p>ドライブ内の電圧の限度を超えています。</p>	
<p>Drive TAflag[38] Predictive Failure</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000004000000</p>	<p>A hardware failure of the tape drive is predicted.</p> <p>(テープ ドライブのハードウェア上の故障が予想されます。)</p>	<p>Drive ハードウェアの予想エラー。</p>	
<p>Drive TAflag[39] Diagnostics Required</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000002000000</p>	<p>The tape drive may have a hardware fault</p> <p>(テープ ドライブにハードウェアの故障があるようです。)</p>	<p>ドライブのハードウェアの故障は、拡張診断ツール (SEND DIAGNOSTIC コマンド) を使って特定できる場合があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題を認識し診断するには、拡張診断を実行します。 拡張診断テストを実行する上でのデバイス固有の手順については、テープ Drive ユーザーズ マニュアルを参照してください。
<p>Drive TAflag[50] Lost Statistics</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000000004000</p>	<p>Media statistics have been lost at some time in the past.</p> <p>(メディア統計は過去のある時点で失われました。)</p>	<p>ドライブまたはライブラリがテープがロードされたままオンラインになっています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ドライブのクリーニングを行います。 処理を再実行します。
<p>Drive TAflag[51] Tape Directory Invalid at Unload</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000000002000</p>	<p>The tape directory on the tape cartridge just unloaded has been corrupted. File search performance will be degraded.</p> <p>(アンロードされたばかりのテープカートリッジ上のテープ ディレクトリが損傷しています。ファイル検索の性能が低下します。)</p>	<p>アンロード時にテープ ディレクトリをアップデートできませんでした。</p>	<p>テープ ディレクトリを再構築するには、データをすべて読み取ります。</p>
<p>Drive TAflag[52] Tape System Area Write Failure</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000000001000</p>	<p>The tape just unloaded could not write its system area successfully.</p> <p>(アンロードされたばかりのテープはシステム領域を正常に書き込むことができませんでした。)</p>	<p>アンロード時のシステム領域の書き込み中に書き込みエラーが発生しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> データを別のテープカートリッジにコピーします。 古いカートリッジを処分してください。

<p>Drive TAflag[53] Tape System Area Read Failure</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000000000800</p>	<p>The tape system area could not be read successfully at load time.</p> <p>(テープ システム領域をロード時に正常に読み取ることができませんでした。)</p>	<p>ロード時のシステム領域の読み取り中に読み取りエラーが発生しました。</p>	<p>データを別のテープ カートリッジにコピーします。</p>
<p>Drive TAflag[54] No Start Of Data</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000000000400</p>	<p>The start of data could not be found on the tape.</p> <p>(データの先頭をテープ内で見つけることができませんでした。)</p>	<p>テープが損傷しているか、一括消去、または不正にフォーマット化されています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 正しい形式のテープを使っていることを確認してください。 テープを処分するか、サプライヤに返品してください。
<p>Drive TAflag[55] Loading Failure</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000000000200</p>	<p>The operation has failed because the media cannot be loaded and threaded.</p> <p>(メディアをロードおよびスレッドできないため、処理が失敗しました。)</p>	<p>ドライブはメディアをロードし、テープをスレッドすることができません。</p>	<p>カートリッジを取り出し、製品マニュアルの指定どおりに検査してから、処理を再試行します。</p>
<p>Drive TAflag[56] Unrecoverable Unload Failure</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000000000100</p>	<p>The operation has failed because the medium cannot be unloaded.</p> <p>(メディアをアンロードできないため、処理が失敗しました。)</p>	<p>ドライブはメディアをアンロードできません。</p>	<p>可能であればカートリッジを取り出し、製品マニュアルの指定どおりに検査してから、処理を再試行します。</p>
<p>Drive TAflag[57] Automation Interface Failure</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000000000080</p>	<p>The tape drive has a problem with the automation interface.</p> <p>(テープ ドライブは自動インターフェイスに問題があります。)</p>	<p>ドライブはインターフェイス障害を検出しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自動システムへの電源を確認します。 ケーブルおよびケーブル接続を確認します。
<p>Drive TAflag[58] Firmware Failure</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000000000040</p>	<p>The tape drive has reset itself due to a detected firmware fault.</p> <p>(ファームウェア障害が検出されたため、テープ ドライブはリセットされました。)</p>	<p>ファームウェアに問題があります。</p>	
<p>Drive TAflag[59] WORM Medium - Integrity Check Failed</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000000000020</p>	<p>The tape drive has detected an inconsistency during the WORM medium integrity checks.</p> <p>(WORM メディアの整合性チェック中に、テープ ドライブは不一致を検出しました。)</p>	<p>WORM カートリッジが変更されている可能性があります。</p>	<p>WORM メディアを交換します。</p>
<p>Drive TAflag[60] WORM Medium -</p>	<p>An attempt had been made to overwrite user data on WORM medium.</p>	<p>アプリケーションソフトウェアはメディアを WORM として</p>	<ul style="list-style-type: none"> WORM メディアを誤って使用した場合は、通常のデータ メディアと交換


<p>Overwrite Attempted</p> <p>TapeAlert Log Entry: 0000000000000010</p>	<p>(WORM メディア上でユーザー データを上書きしようとした。)</p>	<p>認識していません。</p>	<p>してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • WORM メディアを故意に使用した場合： <ul style="list-style-type: none"> - ソフトウェア アプリケーションが使用中の WORM メディア形式と互換性があるかどうかを確認します。 - メディアが WORM 用に正しくバーコード化されているかどうかを確認します。
---	---	------------------	---

保守サービスのためのオートローダの返送

オートローダまたはオートローダのコンポーネントを修理に出すために返送する必要がある場合は、support.dell.com までお問い合わせください。以下の手順に従うと、オートローダの発送準備方法、オートローダのラックからの取り出し方法、およびオートローダの梱包方法がわかります。

オートローダの発送準備方法：

- ユニットからカートリッジをすべて取り外します。
- 前面パネルからオートローダの電源を切ります。
- 電源、イーサネット、SCSI の各ケーブルおよびターミネータをすべてオートローダから取り外します。

 注：オートローダを工場へ返送する際は、これらの品目を発送に含めないでください。


オートローダのラックからの取り外し方法：

- ローダをラックの前面に取り付けている 2 本のつまみネジを緩めます。
- 作業員を二名置くか、適格な機械式リフトを利用して、オートローダを底から支えながらスライドさせて引き抜く要領で、オートローダをラックから取り外してください。
- オートローダを元のパッケージ用の箱の中、または交換ユニット用の箱の中に入れます。

オートローダの梱包


元の梱包材 (輸送用の外箱、梱包用緩衝材 (2 個)、付属品パッケージの添付文書 (ユニットの後部に添付)、および帯電防止袋) を利用してオートローダの梱包を行います。また梱包用の粘着テープも必要です。

- 帯電防止袋をオートローダにかぶせます。
- 緩衝材の一方をオートローダの側面に取り付けます。もう一つの緩衝材をオートローダの反対側の側面に取り付けます。もう一つの緩衝材をオートローダの反対側の側面に取り付けます。どちらもオートローダの形状にフィットしていることを確認します。

 注：緩衝材は全く同一ではありませんので注意して取り付けてください。正しい方向については、箱のフラップに記載の図を参照してください。

□□□ オートローダを輸送用の箱の中に入れ、オートローダの前部を箱の前方へ押し込みます。

□□□ 付属品パッケージの添付文書をユニットの後部に挿入します。

 注：付属品パッケージの添付文書はユニットの前方でなく、後方に配置します。正しい方向については、箱のフラップに記載の図を参照してください。

□□□ 必要書類を箱内のオートローダの上に置きます。

□□□ 箱を閉じて密封します。

□□□ 送り状ラベルを箱の上に貼り付けます。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

技術仕様：Dell™ PowerVault™ 124T DLT VS160 オートローダユーザーズガイド

- [物理的仕様](#)
- [オートローダ性能仕様](#)
- [オートローダ環境仕様](#)
- [オートローダ電源仕様](#)
- [オートローダ振動仕様](#)
- [オートローダショック仕様](#)
- [テープドライブ仕様](#)

物理的仕様

特性	製品単体
高さ	8.9 cm (3.5 インチ)
幅	45 cm (17.7 インチ)
長さ	75.46 cm (29.71 インチ)
パッケージ重量 (メディアなし)	22.7 kg (50 ポンド)
底面積	0.32 平方メートル (3.4 平方フィート)

オートローダ性能仕様

特性	仕様
最大データ転送速度	ネイティブ：28.8 GB/時間 圧縮：57.6 GB/時間 (圧縮率 2:1 を想定)
ドライブの種類	DLT VS160 ドライブ 1 台
スロット数	16 (マガジン 1 台あたり 8)

MCBF	400,000 サイクル
インターフェイス	LVD ウルトラワイド SCSI-2、16-ビットワイド、68-ピン HD コネクタ
エレメントの初期状態	90 秒 (通常)
一般サイクル時間	< 40 秒。1 サイクルとは、テープドライブからマガジン スロットへカートリッジを移動し、別のマガジン スロットを選択してから、そのカートリッジをテープドライブへ移動するまでです。テープドライブがアンロードまたはロード/キャリブレーションを行うための時間は含まれていません。
平均ロード時間 (ドライ VS1 = 120 秒 (書き込み済みのテープの BOT) にカートリッジをセットしてから)	
平均アンロード時間 (BOT から)	VS1 = 25 秒 (BOT から)

オートローダ環境仕様

特性	仕様
温度範囲 (乾球)	
動作中	+10 ° ~ +35 °C
停止中	-40 ° ~ +65 °C
温度変化	
動作中	一時間に 10 °C
停止中	一時間に 20 °C
湿度	
作動中	20 % ~ 80 % (非結露)
停止中	10 % ~ 90 % (結露しないこと)
勾配	一時間当たり 10% の結露なし
湿球	

動作中 最高 26 °C

停止中 最高 29 °C

高度

作動中 -153 ~ 3048 m

停止中 -153 ~ 12192 m

振動 (5 ~ 500 Hz)

動作までの最大加速 0.25g RMS (ランダム)

周波数範囲 500 Hz

オートローダ電源仕様

特性 仕様

線間電圧
60 Hz システム：90 ~ 265 VAC;
50 Hz システム：90 ~ 265 VAC

回線周波数 47 ~ 63 Hz

AC 入力電流 **60 Hz** システム：4.0 A (RMS) 115 VAC 用
50 Hz システム：2.0 A (RMS) 230 VAC 用

消費電力 **60 Hz** = 75 W、**50 Hz** = 80 W

オートローダ振動仕様

特性 仕様

動作中

掃引サイン波 5 ~ 500 Hz、0.25 G、クロスオーバースムージング 0.254 mm (0.01 インチ)、1 8ve/分、(X、Y、Z) 軸

ランダム振動 0.25 Grms、5 ~ 500 Hz (X、Y、Z) 軸

停止中

掃引サイン波 5 ~ 500 Hz、0.75 G、クロスオーバースムージング 0.51 mm (0.02 インチ)、1 8ve/分、(X、Y、Z) 軸

ランダム振動 1.06 Grms、5 ~ 500 Hz (X、Y、Z) 軸

オートローダ ショック仕様

特性 仕様

作動中 3 G、5 ms ハーフサイン、軸 (X、Y、Z) 当たり 3 パルス (+/-)

停止中 20 G、8 ms ハーフサイン、軸 (X、Y、Z) 当たり 3 ショック (+/-)

テープドライブ仕様

DLT VS160 ドライブ仕様

説明	DLT (VS160)
読み取り / 書き込み転送速度：最大連続転送 (DLTape® メディア)	非圧縮モード：28.8 GB/時間 圧縮 (通常 2:1)：57.6 GB/時間
ピーク時転送速度	160 MB/ 秒
平均アクセスタイム	90 秒 (BOT から)
BOT までのロード時間 (書き込み済みテープ)	120 秒 (平均)
BOT からのアップロード時間	25 秒 (平均)
MCBF	> 400,000 サイクル
インターフェイス種別	LVD (低電圧ディファレンシャル) 16 ビット Ultra、160 SCSI-2

メディア容量

メディア種別	容量
VS1 格納容量	1280 GB (圧縮) (カートリッジ 16 本)

メディア仕様

特性	DLTtape VS1 メディア
VS1 フォーマット済み容量	80 GB (非圧縮) 160 GB (2:1 通常圧縮)
一般事項	0.498 インチ (AMP (特殊磁性体))
テープ長	557.2 m (1847 フィート)
カートリッジ寸法	105.6 x 105.3 x 25.4 mm (4.16 x 4.15 x 1.0 インチ)
読み取り互換	DLT1、DLT VS80
寿命	> 30 年 (消磁ロス < 10 %、20 °C 40% RH (結露しないこと))
カートリッジ寿命	1,000,000 パス (方向に関わらず記録用ヘッドがテープ上を通った回数)
クリーニング カートリッジ寿命	20 回使用分

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

サポート：Dell™ PowerVault™ 124T DLT VS160 オートローダユーザーズガイド

- [テクニカルサポート](#)
- [デル法人向けトレーニングと認定プログラム](#)
- [ご注文に関する問題](#)
- [製品情報](#)
- [保証、返金や修理の目的での返品](#)
- [お問い合わせになる前に](#)


テクニカルサポート

技術的な問題があり手助けが必要な場合には、次の手順を実行してください。

- [「カスタマ サポートにお問い合わせになる前に」](#)に記載の手順を完了します。
- システムの **Diagnostics** (診断) プログラムを実行し何か情報があれば書き留めておきます。
- インストールおよびトラブルシューティングの手順については、デルのサポート (support.dell.com) からアクセスできる各種オンラインサービスをご利用ください。

詳細については、「オンラインサービス」を参照してください。


- 上述の手順でも問題が解決しない場合には、デルのテクニカルサポートにお電話ください。

 メモ：テクニカルサポート担当者が必要な手順をお手伝いできるように、テクニカルサポートにご連絡いただく場合にはシステムから、またはシステムの近くからお電話ください。

 メモ：デルのエクスプレスサービスコードのシステムは国によってはご利用いただけない場合があります。

デルの自動電話システムの音声ガイドに従ってお客様のエクスプレスサービスコードを入力すると、適切なサポート担当者まで直接転送されます。エクスプレスサービスコードをお持ちでない場合には、**Dell Accessories (Dell アクセサリー)** フォルダを開いて、**Express Service Code** (エクスプレスサービスコード) アイコンをダブルクリックして表示される指示に従ってください。

テクニカルサポートサービスの利用説明の詳細については、「[テクニカルサポートサービス](#)」および「[お問い合わせになる前に](#)」を参照してください。

 メモ：以下に記載のサービスの中には米国本土以外の地域ではご利用できない場合があります。ご利用の有無については、お近くのデルまでお問い合わせください。

オンラインサービス

デルサポートは support.dell.com からアクセスできます。**WELCOME TO DELL SUPPORT** (デルサポートによるこそ) のページから国を選び必要な詳細情報を記入してヘルプのツールや情報にアクセスします。

デルに電子メールでお問い合わせの際には次のアドレスを使ってください。

- ウェブサイト

www.dell.com/

www.dell.com/ap (アジア/太平洋諸国のみ)

www.dell.com/jp (日本のみ)

www.euro.dell.com (ヨーロッパのみ)

www.dell.com/la (ラテンアメリカのみ)

www.dell.ca (カナダのみ)

- 匿名ファイル転送プロトコル (FTP)

ftp.dell.com/

`user:anonymous` でログインし、お客様の電子メールアドレスをパスワードとして使用してください。

- 電子メールでのサポートサービス

support@us.dell.com

apsupport@dell.com (アジア / 太平洋諸国のみ)

support.jp.dell.com (日本のみ)

support.euro.dell.com (ヨーロッパのみ)

- 電子メールでの見積りサービス

sales@dell.com

apmarketing@dell.com (アジア / 太平洋諸国のみ)

sales_canada@dell.com (カナダのみ)

- 電子メールでの情報サービス

info@dell.com

AutoTech サービス

AutoTech はデルの自動テクニカルサポートサービスで、デスクトップとノートブックのコンピュータシステムについてお客様からよくあるご質問に対して録音された回答を提供します。

AutoTech に電話をかける場合には、プッシュホン式の電話を使ってご質問に該当するトピックを選択してください。

AutoTech サービスは 24 時間年中無休でご利用いただけます。このサービスにはテクニカルサポートサービスからもアクセスできます。詳細は、お客様の国での連絡先情報を参照してください。

自動オーダー状態サービス

注文した Dell™ 製品のステータスを確認するには、support.dell.com にアクセスするか、注文ステータス自動サービスに電話をおかけください。録音の音声指示に従ってご注文を探し出し情報を得るのに必要な情報を入力してください。詳細は、お客様の国での連絡先情報を参照してください。

テクニカルサポートサービス

デルのテクニカルサポートサービスは 24 時間年中無休でご利用いただけ、Dell ハードウェアについてのご質問についてお答えします。弊社のテクニカルサポートスタッフはコンピュータベースの **Diagnostics (診断)** プログラムを使って迅速で正確な回答をいたします。

デルのテクニカルサポートサービスにお問い合わせになるには、「[お問い合わせになる前に](#)」を読んでからお客様の国の連絡先情報を参照してください。

デル法人向けトレーニングと認定プログラム

デルでは法人向けトレーニングと認定プログラムをご用意しています。詳細については、www.dell.com/training にアクセスしてください。このサービスは地域によってはご利用いただけない場合があります。

ご注文に関する問題

お買い上げの製品について、パーツが足りない、付属パーツが間違っている、誤った請求などの問題がある場合は、デルカスタマーケアまでご連絡ください。ご連絡の際は、請求書または梱包伝票をお手元にご用意ください。詳細は、お客様の国での連絡先情報を参照してください。

製品情報

他のデル製品に関しての情報が必要な場合、またはご購入の場合には、デルのウェブサイト (www.dell.com) にアクセスしてください。セールス担当者に問い合わせる場合の電話番号は、お客様の国の連絡先情報を参照してください。

保証、返金や修理の目的での返品

修理の場合でも返金の場合でも、次にあるとおりすべての項目を返品できるように用意してください。

- デルに電話で問い合わせさせていただくと 返品承認番号をお知らせしますので、この番号を箱の外側で目につきやすい所にはっきりと書きます。


問い合わせの電話番号の詳細は、お客様の国の連絡先情報を参照してください。

- 請求書のコピーと返品理由を明記した文書を添付します。
- 実行したテストを示した診断情報とシステム診断で報告されたエラーメッセージを添付します。
- 返品の理由が返金の場合には、返品対象の製品に同梱している付属品 (電源ケーブル、**CD** やディスクなどのメディア、ガイドなど) をすべて含めます。
- ご購入なさったときの梱包材 (またはこの同等品) で返品する装置を梱包してください。


発送費はお客様負担をお願いします。返品対象製品に対する保険もお客様でご負担願います。また、デルへの発送時の紛失の責任は弊社では負いかねます。なお、代金引換払いのご利用できませんので、ご了承ください。

返品が以上の条件を満たしていない場合は、弊社の荷受場では引き取りかね、お客様の下へ返送させていただきます。

お問い合わせになる前に

-  メモ：お問い合わせの際にはエクスプレスサービスコードをご用意ください。このコードがあれば、デルの自動サポート電話システムで効率的にお電話を転送しやすくします。

可能であれば、**Dell** のテクニカルサポートに連絡する前にシステムの電源を入れ、コンピュータの近くのお電話からご連絡ください。キーボードを使用してコマンドを入力したり、操作中の詳細情報を伝えたり、コンピュータシステムでのみ可能なその他のトラブルシューティング手順を試す場合があります。システムの文書をご用意ください。

-  **注意**：ご使用のコンピュータの内部コンポーネントをサービスに出す前に、重要な安全情報について『製品情報ガイド』を確認してください。
-

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

デルへのお問い合わせ：Dell™ PowerVault™ 124T DLT VS160 オートローダユーザーズガイド


デルへのお問い合わせ

デルへのお問い合わせは、インターネットおよび電話にて受け付けております。

- Web からのサポートは support.dell.com から行っています。
- Web からの国別サポートを受ける場合は、ページの一番下の近くにある **Choose A Country/Region (国/地域の選択)** メニューを使うか、以下の表に一覧表示された Web アドレスを参照してください。
- 電子メールによるサポートは、以下の表に一覧表示された電子メール アドレスを参照してください。

 注：フリーダイヤルの番号は該当する国内でのご利用に限られます。

- 電話によるサポートは、以下の表に記載の電話番号とコードをご利用ください。どのコードを使うか不明の場合は、地域または国際オペレータにお問い合わせください。

 注：以下に表示した連絡先情報は、本書の印刷時に正確であるよう万全を期しておりますが、変更されることがあります。

国 (都市) 国際アクセス番号 国 番号 市外局番	サービス タイプ	市外局番、市内局番、フリーダイヤル番号と Web/ 電子メールアドレス
アングイラ	オンライン サポート	www.dell.com/ai
	電子メール アドレス	la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル： 800-335-0031
アンティグアバー ブーダ	オンライン サポート	www.dell.com/ag
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	1-800-805-5924
Aomen 国番号：853	テクニカルサポート	フリーダイヤル： 0800-105
	カスタマサービス (下門、中国)	34 160 910
	トランザクションセールス (下門、中国)	29 693 115
アルゼンチン (ブエノ スアイレス) 国際アクセス番 号：00 国番号：54 市外局番：11	オンライン サポート	www.dell.com/ar
	デスクトップおよびポータブル コンピュータに関する電子メール でのお問い合わせ	la-techsupport@dell.com
	サーバーおよび EMC® ストレージ製品に関する電子メールでの お問い合わせ	la_enterprise@dell.com
	カスタマサービス	フリーダイヤル： 0-800-444-0730
	テクニカル サポート — Dell PowerApp™、Dell PowerEdge™、Dell PowerConnect™、および Dell PowerVault™	フリーダイヤル： 0-800-222-0154
	テクニカルサポートサービス	フリーダイヤル： 0-800-444-0724
	セールス	0-810-444-3355

アルーバ	オンライン サポート	www.dell.com/aw	
		la-techsupport@dell.com	
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル： 800-1578	
オーストラリア (シドニー)	オンライン サポート	support.ap.dell.com	
		support.ap.dell.com/contactus	
	国際アクセス番号： 0011	テクニカルサポート	
	国番号： 61	ホーム / ホーム オフィス	フリーダイヤル： 1300-655-533
	市外局番： 2	中規模 / 大規模企業	フリーダイヤル： 1800-633-559
		スモール ビジネス、教育機関、地方政府	フリーダイヤル： 1800-060-889
	カスタマサービス	フリーダイヤル： 1300-662-196	
オーストリア (ウィーン)	オンライン サポート	support.euro.dell.com	
		tech_support_central_europe@dell.com	
	国際アクセス番号： 900	ホーム / スモールビジネスセールス	08 20 24 05 30 00
	国番号： 43	ホーム / スモールビジネス Fax	08 20 24 05 30 49
		ホーム / スモールビジネス カスタマ サービス	08 20 24 05 30 14
	市外局番： 1	ホーム / スモールビジネス サポート	08 20 24 05 30 17
		優先アカウント / 法人カスタマ サービス	08 20 24 05 30 16
		優先アカウント / 法人サポート	08 20 24 05 30 17
		代表番号	08 20 24 05 30 00
バハマ	オンライン サポート	www.dell.com/bs	
		la-techsupport@dell.com	
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル： 1-866-874-3038	
バルバドス	オンライン サポート	www.dell.com/bb	
		la-techsupport@dell.com	
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル： 1-800-534-3142	
ベルギー (ブリュッセル)	オンライン サポート	support.euro.dell.com	
	サポート全般	02 481 92 88	
	国際アクセス番号： 00	サポート全般 Fax	02 481 92 95
	国番号： 32	カスタマサービス	02 713 15 65
		法人セールス	02 481 91 00
	市外局番： 2	Fax	02 481 92 99
		代表番号	02 481 91 00
バミューダ	オンライン サポート	www.dell.com/bm	
		la-techsupport@dell.com	
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	1-877-890-0751	
ボリビア	オンライン サポート	www.dell.com/bo	
		la-techsupport@dell.com	

	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル：800-10-0238
ブラジル	オンライン サポート	www.dell.com/br
国際アクセス番号：00		BR_TechSupport@dell.com
国番号：55	カスタマ サービスとテクニカル サポート	0800 970 3355
市外局番：51	テクニカルサポート Fax	51 2104 5470
	カスタマサービス Fax	51 2104 5480
	セールス	0800 970 3390
英領バージン諸島	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル：1-866-278-6820
ブルネイ	テクニカル サポート (マレーシア、ペナン)	604 633 4966
国番号：673	カスタマサービス (マレーシア、ペナン)	604 633 3101 またはフリーダイヤル：801 1012
	トランザクションセールス (マレーシア、ペナン)	604 633 3101 またはフリーダイヤル：801 1012
カナダ (オンタリオ州 ノースヨーク)	オンライン オーダー状態サービス	www.dell.ca/ostatus
国際アクセス番号：011	オンライン サポート	support.ca.dell.com
	AutoTech (自動ハードウェアと保証サポート)	フリーダイヤル：1-800-247-9362
	カスタマサービス	
	ホーム / ホーム オフィス	フリーダイヤル：1-800-847-4096
	スモール ビジネス	フリーダイヤル：1-800-906-3355
	中規模 / 大規模企業、政府、教育機関	フリーダイヤル：1-800-387-5757
	ハードウェア保証に関する電話サポート	
	ホーム / ホーム オフィス向けコンピュータ	フリーダイヤル：1-800-847-4096
	スモール ビジネス / 中規模 / 大規模企業および政府向けコンピュータ	フリーダイヤル：1-800-387-5757
	プリンタ、プロジェクタ、テレビ、ハンドヘルド、デジタル ジュークボックス、ワイヤレス	1-877-335-5767
	セールス	
	ホーム / ホーム オフィス セールス	フリーダイヤル：1-800-999-3355
	スモール ビジネス	フリーダイヤル：1-800-387-5752
	中規模 / 大規模企業と政府	フリーダイヤル：1-800-387-5755
	スペアパーツと延長サービス	1-866-440-3355
ケイマン諸島	オンライン サポート	la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	1-877-262-5415
チリ (サンティアゴ)	オンライン サポート	www.dell.com/cl
国番号：56		la-techsupport@dell.com
市外局番：2	セールスとカスタマ サポート	フリーダイヤル：1230-020-3397
		または 800-20-1385
中国 (厦門)	オンライン サポート	support.dell.com.cn
国番号：86	テクニカル サポート 電子メール	support.dell.com.cn/email

市外局番：592	カスタマ サービス 電子メール	customer_cn@dell.com
	テクニカルサポート Fax	592 818 1350
	テクニカル サポート — Dell™ Dimension™ および Dell Inspiron™	フリーダイヤル：800 858 2969
	テクニカル サポート — Dell OptiPlex™、Dell Latitude™、および Dell Precision™	フリーダイヤル：800 858 0950
	テクニカル サポート — サーバーおよびストレージ	フリーダイヤル：800 858 0960
	テクニカル サポート — プロジェクタ、PDA、スイッチ、ルーターなど	フリーダイヤル：800 858 2920
	テクニカル サポート — プリンタ	フリーダイヤル：800 858 2311
	カスタマサービス	フリーダイヤル：800 858 2060
	カスタマサービス Fax	592 818 1308
	ホーム/スモールビジネス	フリーダイヤル：800 858 2222
	優先アカウント事業部	フリーダイヤル：800 858 2557
	メジャーアカウント GCP	フリーダイヤル：800 858 2055
	メジャーアカウント主要アカウント	フリーダイヤル：800 858 2628
	メジャーアカウント北部	フリーダイヤル：800 858 2999
	メジャーアカウント北部、政府と教育機関	フリーダイヤル：800 858 2955
	メジャーアカウント東部	フリーダイヤル：800 858 2020
	メジャーアカウント東部、政府と教育機関	フリーダイヤル：800 858 2669
	メジャーアカウント キューチーム	フリーダイヤル：800 858 2572
	メジャーアカウント南部	フリーダイヤル：800 858 2355
	メジャーアカウント西部	フリーダイヤル：800 858 2811
メジャーアカウントスペアパーツ	フリーダイヤル：800 858 2621	
コロンビア	オンライン サポート	www.dell.com/co
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	01-800-915-4755
コスタリカ	オンライン サポート	www.dell.com/cr
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	0800-012-0231
チェコ共和国 (プラハ) 国際アクセス番号：00 国番号：420	オンライン サポート	support.euro.dell.com
		czech_dell@dell.com
	テクニカルサポート	22537 2727
	カスタマサービス	22537 2707
	Fax	22537 2714
	テクニカル サポート Fax	22537 2728
	代表番号	22537 2711
デンマーク (コペンハーゲン) 国際アクセス番号	オンライン サポート	support.euro.dell.com
	テクニカルサポート	7023 0182

号：00 国番号：45	カスタマ サービス — リレーショナル	7023 0184
	ホーム / スモール ビジネス カスタマ サービス	3287 5505
	スイッチボード — リレーショナル	3287 1200
	スイッチボード Fax — リレーショナル	3287 1201
	スイッチボード — ホーム / スモール ビジネス	3287 5000
	スイッチボード Fax — ホーム / スモール ビジネス	3287 5001
ドミニカ	オンライン サポート	www.dell.com/dm
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル：1-866-278-6821
ドミニカ共和国	オンライン サポート	www.dell.com/do
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	1-800-156-1588
エクアドル	オンライン サポート	www.dell.com/ec
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス (キットからお電話される方)	フリーダイヤル：999-119-877-655-3355
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス (グアヤキルからお電話される方)	フリーダイヤル：1800-999-119-877-655-3355
エルサルバドル	オンライン サポート	www.dell.com/sv
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	800-6132
フィンランド (ヘルシンキ) 国際アクセス番号：990 国番号：358 市外局番：9	オンライン サポート	support.euro.dell.com
		fi_support@dell.com
	テクニカルサポート	0207 533 555
	カスタマ サービス	0207 533 538
	代表番号	0207 533 533
	Fax	0207 533 530
	セールス (従業員数 500 人未満)	0207 533 540
	セールス (従業員数 500 人以上)	0207 533 533
フランス (パリ) (モンペリエ) 国際アクセス番号：00 国番号：33 市外局番：(1) (4)	オンライン サポート	support.euro.dell.com
	ホーム / スモール ビジネス	
	テクニカルサポート	0825 387 270
	カスタマ サービス	0825 823 833
	代表番号	0825 004 700
	代表番号 (フランス国外から)	04 99 75 40 00
	セールス	0825 004 700
	Fax	0825 004 701
	Fax (フランス国外から)	04 99 75 40 01

	法人	
	テクニカルサポート	0825 004 719
	カスタマサービス	0825 338 339
	代表番号	01 55 94 71 00
	セールス	01 55 94 71 00
	Fax	01 55 94 71 01
ドイツ (フランクフルト) 国際アクセス番号：00 国番号：49 市外局番：69	オンライン サポート	support.euro.dell.com
		tech_support_central_europe@dell.com
	テクニカルサポート	069 9792-7200
	ホーム/スモール ビジネス カスタマ サービス	0180-5-224400
	グローバル カスタマ サービス	069 9792-7320
	優先アカウント カスタマ サービス	069 9792-7320
	大口アカウント カスタマ サービス	069 9792-7320
	公共機関アカウント カスタマ サービス	069 9792-7320
	代表番号	069 9792-7000
ギリシャ 国際アクセス番号：00 国番号：30	オンライン サポート	support.euro.dell.com
	テクニカルサポート	00800-44 14 95 18
	Gold テクニカルサポートサービス	00800-44 14 00 83
	代表番号	2108129810
	Gold サービススイッチボード	2108129811
	セールス	2108129800
	Fax	2108129812
グレナダ	オンライン サポート	www.dell.com/gd
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル： 1-866-540-3355
グアテマラ	オンライン サポート	www.dell.com/gt
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	1-800-999-0136
ガイアナ	オンライン サポート	la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル： 1-877-270-4609
香港 国際アクセス番号：001 国番号：852	オンライン サポート	support.ap.dell.com
		support.dell.com.cn/email
	テクニカル サポート — Dimension および Inspiron	00852-2969 3188
	テクニカル サポート — OptiPlex、Latitude、および Dell Precision	00852-2969 3191
	テクニカル サポート — サーバーおよびストレージ	00852-2969 3196
	テクニカル サポート — プロジェクタ、PDA、スイッチ、ルーターなど	00852-3416 0906
	カスタマサービス	00852-3416 0910

	メジャーアカウント	00852-3416 0907
	グローバルカスタムプログラム	00852-3416 0908
	中規模企業事業部	00852-3416 0912
	ホーム/スモールビジネス事業部	00852-2969 3105
インド	オンライン サポート	support.ap.dell.com
	ポータブルおよびデスクトップ サポート	
	デスクトップ サポート 電子メール	india_support_desktop@dell.com
	ポータブル サポート 電子メール	india_support_notebook@dell.com
	電話番号	080-25068032 または 080-25068034
		または長距離ダイヤル地方局番 + 60003355
		または フリーダイヤル：1-800-425-8045
	サーバー サポート	
	電子メール	india_support_Server@dell.com
	電話番号	080-25068032 または 080-25068034
		または長距離ダイヤル地方局番 + 60003355
		または フリーダイヤル：1-800-425-8045
	Gold サポートのみ	
	電子メール	eec_ap@dell.com
	電話番号	080-25068033
		または長距離ダイヤル地方局番 + 60003355
		または フリーダイヤル：1-800-425-9045
	カスタマサービス	
	ホーム/スモールビジネス	India_care_HSB@dell.com
		フリーダイヤル：1800-4254051
	メジャーアカウント	India_care_REL@dell.com
		フリーダイヤル：1800-4252067
	セールス	
メジャーアカウント	1600 33 8044	
ホーム/スモールビジネス	1600 33 8046	
アイルランド (チェリーウッド) 国際アクセス番号：00 国番号：353 市外局番：1	オンライン サポート	support.euro.dell.com
		dell_direct_support@dell.com
	テクニカルサポート	
	ビジネス コンピュータ	1850 543 543
	ホーム コンピュータ	1850 543 543
	訪問サポート	1850 200 889
	セールス	
	ホーム	1850 333 200

	スモール ビジネス	1850 664 656
	中規模企業	1850 200 646
	大企業	1850 200 646
	セールス 電子メール	Dell_IRL_Outlet@dell.com
	カスタマサービス	
	ホーム / スモールビジネス	01 204 4014
	法人 (従業員数 200 人以上)	1850 200 982
	サポート全般	
	Fax/ セールス Fax	01 204 0103
	代表番号	01 204 4444
	英国国内カスタマ サービス (英国国内専用番号)	0870 906 0010
	法人カスタマ サービス (英国国内専用番号)	0870 907 4499
	英国セールス (英国国内専用番号)	0870 907 4000
イタリア (ミラノ)	オンライン サポート	support.euro.dell.com
国際アクセス番号：00	ホーム / スモールビジネス	
国番号：39	テクニカルサポート	02 577 826 90
市外局番：02	カスタマサービス	02 696 821 14
	Fax	02 696 821 13
	代表番号	02 696 821 12
	法人	
	テクニカルサポート	02 577 826 90
	カスタマサービス	02 577 825 55
	Fax	02 575 035 30
	代表番号	02 577 821
ジャマイカ	オンライン サポート	la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス (ジャマイカ国内専用番号)	1-800-440-9205
日本 (川崎)	オンライン サポート	support.jp.dell.com
国際アクセス番号：001	テクニカル サポート — Dimension および Inspiron	フリーダイヤル：0120-198-226
国番号：81	テクニカル サポート (日本国外) — Dimension および Inspiron	81-44-520-1435
市外局番：44	テクニカル サポート — Dell Precision、OptiPlex、および Latitude	フリーダイヤル：0120-198-433
	テクニカル サポート (日本国外) — Dell Precision、OptiPlex、および Latitude	81-44-556-3894
	テクニカル サポート — Dell PowerApp、Dell PowerEdge、Dell PowerConnect、および Dell PowerVault	フリーダイヤル：0120-198-498
	テクニカル サポート (日本国外) — Dell PowerApp、Dell PowerEdge、Dell PowerConnect、および Dell PowerVault	81-44-556-4162
	テクニカル サポート — プロジェクタ、PDA、プリンタ、ルーター	フリーダイヤル：0120-981-690

	テクニカル サポート (日本国外) — プロジェクタ、PDA、プリンタ、ルーター	81-44-556-3468
	Faxbox サービス	044-556-3490
	24 時間自動オーダー状態サービス	044-556-3801
	カスタマサービス	044-556-4240
	法人のお客様 — 従業員数 400 人未満	044-556-1465
	優先アカウントのお客様 — 従業員数 400 人以上	044-556-3433
	公共機関のお客様 — 中央省庁、地方公共団体、教育研究機関、医療機関	044-556-5963
	グローバル営業本部	044-556-3469
	個人のお客様	044-556-1657
	個人のお客様のオンラインによる購入	044-556-2203
	個人のお客様のリアルストア (実際の店舗) での購入	044-556-4649
	代表番号	044-556-4300
韓国 (ソウル)	オンライン サポート	support.ap.dell.com
国際アクセス番号：001	テクニカル サポート、カスタマ サービス	フリーダイヤル：080-200-3800
国番号：82	テクニカル サポート — Dimension、PDA、およびエレクトロニクスとアクセサリ	フリーダイヤル：080-200-3801
市外局番：2	セールス	フリーダイヤル：080-200-3600
	Fax	2194-6202
	代表番号	2194-6000
ラテンアメリカ	カスタマテクニカルサポート (米国テキサス州、オースティン)	512 728-4093
	カスタマサービス (米国テキサス州、オースティン)	512 728-3619
	Fax (テクニカルサポートとカスタマサービス) (米国テキサス州、オースティン)	512 728-3883
	セールス (米国テキサス州、オースティン)	512 728-4397
	セールス Fax (アメリカ テキサス州オースティン)	512 728-4600 または 512 728-3772
ルクセンブルグ	オンライン サポート	support.euro.dell.com
国際アクセス番号：00	サポート	342 08 08 075
国番号：352	ホーム / スモールビジネスセールス	+32 (0)2 713 15 96
	法人セールス	26 25 77 81
	カスタマサービス	+32 (0)2 481 91 19
	Fax	26 25 77 82
マレーシア (ペナン)	オンライン サポート	support.ap.dell.com
国際アクセス番号：00	テクニカル サポート — Dell Precision、OptiPlex、および Latitude	フリーダイヤル：1 800 880 193
国番号：60	テクニカル サポート — Dimension、Inspiron、およびエレクトロニクスとアクセサリ	フリーダイヤル：1 800 881 306
市外局番：4	テクニカル サポート — PowerApp、PowerEdge、PowerConnect、および PowerVault	フリーダイヤル：1 800 881 386

	カスタマサービス	フリーダイヤル：1 800 881 306 (オプション 6)
	ダイレクトセールス	フリーダイヤル：1 800 888 202
	法人セールス	フリーダイヤル：1 800 888 213
メキシコ	オンライン サポート	www.dell.com/mx
国際アクセス番号：00		la-techsupport@dell.com
国番号：52	テクニカルサポート	001-866-563-4425
	セールス	50-81-8800 または 001-800-888-3355
	カスタマサービス	001-877-384-8979 または 001-877-269-3383
	代表番号	50-81-8800 または 001-800-888-3355 または 001-866-851-1754
モントセラト	オンライン サポート	la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル：1-866-278-6822
オランダ領アンティル	オンライン サポート	la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	001-800-882-1519
オランダ (アムステルダム)	オンライン サポート	support.euro.dell.com
国際アクセス番号：00	テクニカルサポート	020 674 45 00
国番号：31	テクニカルサポート Fax	020 674 47 66
市外局番：20	ホーム/スモール ビジネス カスタマ サービス	020 674 42 00
	リレーショナル カスタマ サービス	020 674 43 25
	ホーム/スモール ビジネス セールス	020 674 55 00
	リレーショナル セールス	020 674 50 00
	ホーム/スモール ビジネス セールス Fax	020 674 47 75
	リレーショナル セールス Fax	020 674 47 50
	代表番号	020 674 50 00
	代表 Fax 番号	020 674 47 50
ニュージーランド	オンライン サポート	support.ap.dell.com
国際アクセス番号：00		support.ap.dell.com/contactus
国番号：64	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	0800 441 567
ニカラグア	オンライン サポート	www.dell.com/ni
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	001-800-220-1377
ノルウェー (リサケー)	オンライン サポート	support.euro.dell.com
国際アクセス番号：00	テクニカルサポート	671 16882
国番号：47	リレーショナル カスタマ サービス	671 17575
	ホーム/スモール ビジネス カスタマ サービス	23162298

	代表番号	671 16800
	代表 Fax 番号	671 16865
パナマ	オンライン サポート	www.dell.com/pa
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	011-800-507-1264
ペルー	オンライン サポート	www.dell.com/pe
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	0800-50-669
ポーランド (ワルシャワ) 国際アクセス番号：011 国番号：48 市外局番：22	オンライン サポート	support.euro.dell.com
		pl_support_tech@dell.com
	カスタマサービス電話	57 95 700
	カスタマサービス	57 95 999
	セールス	57 95 999
	カスタマサービス Fax	57 95 806
	受付 Fax	57 95 998
	代表番号	57 95 999
ポルトガル 国際アクセス番号：00 国番号：351	オンライン サポート	support.euro.dell.com
	テクニカルサポート	707200149
	カスタマサービス	800 300 413
	セールス	800 300 410 または 800 300 411 または 800 300 412 または 21 422 07 10
	Fax	21 424 01 12
プエルトリコ	オンライン サポート	www.dell.com/pr
		la-techsupport@dell.com
	テクニカルサポート	フリーダイヤル：1-866-390-4695 または 1-866-851-1760
	カスタマ サービスとセールス	1-877-537-3355
セントキッツネビス	オンライン サポート	www.dell.com/kn
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル：1-866-540-3355
セントルシア	オンライン サポート	www.dell.com/lc
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル：1-866-464-4352
セントビンセントグレナディン	オンライン サポート	www.dell.com/vc
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル：1-866-464-4353
シンガポール (シンガポール)	注：本欄に記載の電話番号はシンガポールまたはマレーシア国内からのみ利用可能です。	
	オンライン サポート	support.ap.dell.com

国際アクセス番号：005	テクニカルサポート — Dimension、Inspiron、およびエレクトロニクスとアクセサリ	フリーダイヤル：1 800 394 7430
国番号：65	テクニカルサポート — OptiPlex、Latitude、および Dell Precision	フリーダイヤル：1 800 394 7488
	テクニカルサポート — PowerApp、PowerEdge、PowerConnect、および PowerVault	フリーダイヤル：1 800 394 7478
	カスタマサービス	フリーダイヤル：1 800 394 7430 (オプション 6)
	ダイレクトセールス	フリーダイヤル：1 800 394 7412
	法人セールス	フリーダイヤル：1 800 394 7419
	スロバキア (プラハ)	オンラインサポート
国際アクセス番号：00		czech_dell@dell.com
国番号：421	テクニカルサポート	02 5441 5727
	カスタマサービス	420 22537 2707
	Fax	02 5441 8328
	テクニカルサポートFax	02 5441 8328
	代表番号 (セールス)	02 5441 7585
	南アフリカ (ヨハネスブルグ)	オンラインサポート
国際アクセス番号：09/091		dell_za_support@dell.com
国番号：27 市外局番：11	Gold Queue	011 709 7713
	テクニカルサポート	011 709 7710
	カスタマサービス	011 709 7707
	セールス	011 709 7700
	Fax	011 706 0495
	代表番号	011 709 7700
	東南アジアと太平洋諸国	テクニカルサポート、カスタマサービス、セールス (マレーシア、ペナン)
スペイン (マドリッド)	オンラインサポート	support.euro.dell.com
国際アクセス番号：00	ホーム / スモールビジネス	
国番号：34 市外局番：91	テクニカルサポート	902 100 130
	カスタマサービス	902 118 540
	セールス	902 118 541
	代表番号	902 118 541
	Fax	902 118 539
	法人	
	テクニカルサポート	902 100 130
	カスタマサービス	902 115 236
	代表番号	91 722 92 00
	Fax	91 722 95 83
	スウェーデン (アップランドヴェスビー)	オンラインサポート

国際アクセス番号：00 国番号：46 市外局番：8	テクニカルサポート	08 590 05 199
	リレーショナル カスタマ サービス	08 590 05 642
	ホーム/スモール ビジネス カスタマ サービス	08 587 70 527
	従業員購入プログラム (EPP) サポート	020 140 14 44
	テクニカルサポート Fax	08 590 05 594
	セールス	08 590 05 185
スイス (ジュネーブ) 国際アクセス番号：00 国番号：41 市外局番：22	オンライン サポート	support.euro.dell.com
		tech_support_central_europe@dell.com
	テクニカル サポート — ホーム/スモール ビジネス	0844 811 411
	テクニカル サポート — 法人	0844 822 844
	カスタマ サービス — ホーム/スモール ビジネス	0848 802 202
	カスタマ サービス — 法人	0848 821 721
	代表番号	0848 335 599
	Fax	022 799 01 90
	代表番号	022 799 01 01
台湾 国際アクセス番号：002 国番号：886	オンライン サポート	support.ap.dell.com
		support.dell.com.cn/email
	テクニカル サポート — OptiPlex、Latitude、Inspiron、Dimension、およびエレクトロニクスとアクセサリ	フリーダイヤル：0080 186 1011
	テクニカル サポート — サーバーおよびストレージ	フリーダイヤル：0080 160 1256
	カスタマサービス	フリーダイヤル：0080 160 1250 (オプション 5)
	ダイレクトセールス	フリーダイヤル：0080 165 1228
	法人セールス	フリーダイヤル：0080 165 1227
タイ 国際アクセス番号：001 国番号：66	オンライン サポート	support.ap.dell.com
	テクニカル サポート — OptiPlex、Latitude、および Dell Precision	フリーダイヤル：1800 0060 07
	テクニカル サポート — PowerApp、PowerEdge、PowerConnect、および PowerVault	フリーダイヤル：1800 0600 09
	カスタマサービス	フリーダイヤル：1800 006 007 (オプション 7)
	法人セールス	フリーダイヤル：1800 006 009
	ダイレクトセールス	フリーダイヤル：1800 006 006
トリニダード/トバゴ	オンライン サポート	www.dell.com/tt
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル：1-888-799-5908
タークスアンドカイコス諸島	オンライン サポート	www.dell.com/tc
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル：1-877-441-4735
英国 (ブラックネル) 国際アクセス番号	オンライン サポート	support.euro.dell.com
		dell_direct_support@dell.com

号：00 国番号：44 市外局番：1344	カスタマ サービス オンライン	support.euro.dell.com/uk/en/ECare/form/home.asp
	セールス	
	ホーム / スモールビジネスセールス	0870 907 4000
	法人 / 公共機関セールス	01344 860 456
	カスタマ サービス	
	ホーム / スモールビジネス	0870 906 0010
	法人	01344 373 185
	優先アカウント (従業員 500 ~ 5000 人)	0870 906 0010
	グローバル アカウント	01344 373 186
	中央政府	01344 373 193
	地方政府と教育機関	01344 373 199
	医療機関	01344 373 194
	テクニカルサポート	
	法人 / 優先アカウント / PCA (従業員 1,000 人以上)	0870 908 0500
	その他のデル製品	0870 353 0800
	サポート全般	
	ホーム / スモールビジネス Fax	0870 907 4006
ウルグアイ	オンライン サポート	www.dell.com/uy
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル：000-413-598-2521
米国 (テキサス州、オースティン) 国際アクセス番号：011 国番号：1	デルサービス (聴覚・言語障害者用)	フリーダイヤル：1-877-DELLTY (1-877-335-5889)
	Fax	フリーダイヤル：1-800-727-8320
	テクニカルサポート	support.dell.com
	ホーム / ホーム オフィス	フリーダイヤル：1-800-624-9896
	ポータブルおよびデスクトップ AutoTech	フリーダイヤル：1-800-247-9362
	スモール ビジネス	フリーダイヤル：1-800-456-3355
	中規模 / 大規模企業	フリーダイヤル：1-877-671-3355
	州および地方政府	フリーダイヤル：1-800-981-3355
	連邦政府	フリーダイヤル：1-800-727-1100
	医療機関	フリーダイヤル：1-800-274-1550
	教育機関 (K-12)	フリーダイヤル：1-888-977-3355
	高等教育	フリーダイヤル：1-800-274-7799
	プリンタ、プロジェクタ、PDA、MP3 プレーヤ	フリーダイヤル：1-877-459-7298
	カスタマ サービス	フリーダイヤル：1-800-624-9897
	自動オーダー状態	フリーダイヤル：1-800-433-9014
	スモール ビジネス	フリーダイヤル：1-800-456-3355
	中規模 / 大規模企業	フリーダイヤル：1-877-671-3355

	州および地方政府	フリーダイヤル： 1-800-981-3355
	連邦政府	フリーダイヤル： 1-800-727-1100
	医療機関	フリーダイヤル： 1-800-274-1550
	教育機関 (K-12)	フリーダイヤル： 1-888-977-3355
	高等教育	フリーダイヤル： 1-800-274-7799
	従業員購入プログラム (EPP)	フリーダイヤル： 1-800-695-8133
	財務サービス	www.dellfinancialservices.com
	リースと貸し付け	フリーダイヤル： 1-877-577-3355
	Dell 優先アカウント (DPA)	フリーダイヤル： 1-800-283-2210
	セールス	1-800-289-3355 または 1-800-879-3355
	Dell アウトレット ストア	フリーダイヤル： 1-888-798-7561
	ソフトウェアと周辺機器セールス	フリーダイヤル： 1-800-671-3355
米領バージン諸島	オンライン サポート	www.dell.com/vi
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	フリーダイヤル： 1-877-702-4360
ベネズエラ	オンライン サポート	www.dell.com/ve
		la-techsupport@dell.com
	テクニカル サポート、カスタマ サービス、セールス	0800-100-4752

[目次ページに戻る](#)